

琵琶湖博物館 年報

第 20 号

2015 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2016 年 9 月

ごあいさつ

2015年度の琵琶湖博物館の活動は、前年度に実施設計の終わったリニューアル計画を具体的に設計に沿って工事に取りかかり完成させることに主力を注ぎました。年報のⅡ「新琵琶湖博物館の創造」をはじめとして随所にリニューアルの経緯について触れておりますのでご覧いただければと思います。もちろんリニューアルをしなければならぬからといって琵琶湖博物館の通常の業務を怠ってきたわけではありません。それはⅠ「博物館機能の強化」のなかのとくに4「体験と交流を促す博物館」は一般利用者へのサービス事業、5「対話と応援ができる博物館」は利用者主体の事業と位置づけていますが、ここをみていただければご理解いただけると思います。このふたつの章に例年と変わりのないあるいはそれ以上の具体的な活動が記録されています。

年報のⅠ「博物館機能の強化」の1章、2章、3章について簡単に触れておきたいと思います。1「資料が活用できる博物館」は資料整備活動について記していますが、博物館は資料の収集・整理・保存活動があつての研究機関です。2015年度末において博物館に登録された資料の収蔵概数は911,649点となりました。通常100万点が博物館の一人前の点数といわれますので、それに近づきつつある状態です。資料は増えることはあつても減ることのないのが博物館ですから、そろそろ収蔵庫の増設を考えなくてはならなくなりました。

琵琶湖博物館の諸活動は全て研究調査活動に裏打ちされたものですので、2「研究を進めて活かせる博物館」は当該年度の研究調査活動をまとめています。中心となるのは琵琶湖博物館の大きな特長である総合研究(2件)と共同研究(5件)ですが、総合研究「琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明」は最終年度で終了しました。共同研究のうち「X線CT画像を使ったシガゾウの分類学的再検討」と「微小な生物の飼育技術開発および展示方法」も終了しましたが、これらの研究はリニューアルの展示に活かされるものであります。総合研究も共同研究も各学芸職員の専門分野に立脚しておりますので、研究者の専門研究とその成果もこの年報でわかるようになっていきます。

3「新たな参加と発見ができる博物館」は、博物館の顔であります展示を中心にした活動を記録しています。リニューアル工事のため2015年度中途からC展示室・水族展示を閉鎖しました。そしてリニューアル前の最後の展示となります第23回企画展示「琵琶湖誕生—地層にねむる7つの謎—」を開催しました。この企画展示はまだ知り得ない琵琶湖の生い立ちに関係する謎を、仮説を含めて紹介したのですが、予想を上回る来館者数があつて好評を博し、リニューアルに対する弾みがついたのは記憶に新しいところです。

琵琶湖博物館の活動記録の報告は私たち博物館員の社会的責任です。琵琶湖博物館の活動を積極的に支援してくださっている多くの方々に厚くお礼申し上げますとともに、本年報を是非お読みいただき忌憚のないご意見・ご批判を賜りますようお願い申し上げます。

2016年9月5日

滋賀県立琵琶湖博物館
館長 篠原 徹

目 次

ごあいさつ	1
I 博物館機能の強化	
1 資料が活用できる博物館	
資料整備活動	
(1) 収蔵資料	4
(2) 資料の活用	9
(3) 資料保管	13
2 研究を進めて活かせる博物館	
研究調査活動	
(1) 総合研究	15
(2) 共同研究	15
(3) 専門研究	15
(4) 研究審査委員会	16
(5) 研究助成を受けた研究	17
(6) 研究員の受け入れ	20
研究発信	
(1) 公表された主な研究業績	21
(2) 新琵琶湖学セミナー	25
(3) 研究セミナー・特別研究セミナー	26
研究交流	
(1) 海外活動	27
(2) 試験研究機関の連絡活動	28
3 新たな参加と発見ができる博物館	
展示活動	
(1) 常設展示の主な更新	29
(2) 企画展示・水族企画展示	32
(3) ギャラリー展示・トピック展示等	36
(4) 集う・使う・創る 新空間	39
展示交流	
(1) フロアートーク	40
(2) ディスカバリールームのイベント	40
(3) 展示交流員と話そう	41
博物館連携	
(1) 滋賀県ミュージアム活性化事業	42
(2) 滋賀県博物館協議会	42
(3) 烏丸半島活性化連携事業	42
4 体験と交流を促す博物館	
一般利用者へのサービス	
(1) 観察会・見学会等	44
(2) 講座	44
(3) 体験教室	45
(4) 体験学習	47

学校連携	
(1) 学校団体	48
(2) 教育指導者等研修	53
(3) 学校サテライト博物館事業	54
企業連携	54
研修・実習	
(1) 国際交流	55
(2) 博物館実習	57
5 対話と応援ができる博物館	
利用者主体の事業	
(1) フィールドレポーター	59
(2) はしかけ制度	60
地域交流活動への支援	
(1) 博物館内での支援活動	75
(2) 地域での支援活動	77
(3) 質問対応	79
琵琶湖博物館環境学習センター	
(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供	80
(2) 環境学習の交流の場づくり	80
情報発信活動	
(1) サテライトミュージアム・地域発見！参加型移動博物館	82
(2) インターネットを利用した館外への情報提供	84
(3) 印刷物	85
II 新琵琶湖博物館の創造	86
III 環境の整備	
1 拠点としての施設整備	
(1) 利用者用施設の整備	89
(2) 情報システムの整備	89
(3) 来館者アンケート調査	89
2 柔軟な運営組織	
(1) 組織	93
(2) 職員	94
3 社会的支援と新しい経営	
(1) 利用状況（2015年度入館者数）	98
(2) 広報活動	100
(3) 予算	115
4 存在基盤の確立	
(1) 琵琶湖博物館協議会	116
(2) 企画・計画	116
IV 2015年度をふり返って	
1 研究部	118
2 事業部	118
3 総務部	119

I 博物館機能の強化

1 資料が活用できる博物館

資料整備活動

琵琶湖博物館で資料整備の対象としているのは、「琵琶湖とその集水域および淀川流域」およびその全体的評価にかかわるもの、ならびに博物館のテーマ「湖と人間」に関係する日本、アジア、世界の湖沼とその周辺地域に及ぶものである。自然、人文、社会科学等にかかわる過去から現在までの実物の資料、生魚などの水族資料、映像資料、図書資料および博物館業務に必要な資料について、収集・整理・保管および利用を図り、博物館活動の充実に努めている。

収蔵資料は、博物館職員による収集をはじめ、受贈、受託、交換、購入、製作、提供、参加型調査等によって受け入れられ、必要に応じて速やかに利用できるよう、各資料区分の体系にしたがって整理を行っている。以下に2015年度の資料整備および利活用状況を示す。

(1) 収蔵資料

収蔵資料は、地学標本、動物標本、植物標本、微生物標本、水族資料（生体）、考古資料、歴史資料、民俗資料、環境資料、図書資料、映像資料の11分野にわたる。

登録資料数とは、琵琶湖博物館情報システムの資料データベースに登録されているものの総数をいい、収蔵概数とは、登録資料数と未整理な資料を含めた収蔵全体数である。

2015年度末現在で、博物館登録資料は512,049で、収蔵概数は911,649となった。これらの収蔵資料は、保存に影響を与えない範囲で、展示、閲覧および貸出等に利用している。

1) 収蔵資料数

2016年3月末現在

	登録資料数	収蔵概数	2015年度登録数	2015年度受入総数
地学	50,253	63,178	6,290	10,578
動物	140,738	327,283	733	1,278
植物	85,125	188,116	705	0
微生物	0	66,553	0	4,079
水族（生体）	12,136	12,136	7,676	7,676
考古	0	1,429箱と392	0	0
歴史	2	210	0	1
民俗	6,721	6,837	0	67
環境	0	45箱と770	0	32
図書	136,500と 4,808タイトル	143,000	3,310と 159タイトル	8,212
映像	75,766	101,700	0	0
合計	512,049	911,649	18,873	31,892

【各分野別の詳細】

地学標本	2015年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
化石	5,690	0	0	0	8,135	8,135		37,041	40,635
岩石・鉱物	597	0	0	0	2,443	2,443		9,154	14,643
堆積物	3	0	0	0	0	0		2,807	6,600
プレパラート	0	0	0	0	0	0		1,251	1,300
小 計	6,290	0	0	0	10,578	10,578		50,253	63,178

動物標本	2015年度							累 積		
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数	
脊椎動物（魚類除く）	207	0	0	0	14	14		3,400	3,566	
内 訳	哺乳類骨格標本	13	0	0	0	13	13		827	827
	哺乳類剥製標本	6	0	0	0	0	0	登録分はDBに公開済	49	62
	哺乳類(その他)	188	0	0	0	0	0		832	989
	鳥類骨格標本	0	0	0	0	0	0		232	232
	鳥類乾燥標本(巢、卵、レプリカ等含む)	0	0	0	0	1	1	本剥製標本 提供数1点	1,003	1,004
	爬虫類骨格標本	0	0	0	0	0	0		35	36
	爬虫類剥製標本	0	0	0	0	0	0		5	3
	爬虫類液浸標本	0	0	0	0	0	0		23	40
	爬虫類(その他)	0	0	0	0	0	0		23	2
	両生類骨格標本	0	0	0	0	0	0		6	6
	両生類液浸標本	0	0	0	0	0	0		351	351
	両生類(その他)	0	0	0	0	0	0		14	14
	魚類（淡水魚類）	523	0	0	0	13	13		55,993	84,997
内 訳	乾燥骨格およびアクリル包埋標本	0	0	0	0	0	0	収蔵標本の維持管理、データベースの修正などをおこなった	2,677	2,677
	DNA分析用標本	0	0	0	0	0	0	収蔵標本を維持管理、データベースの修正などをおこなった	3,723	3,723
	その他の液浸標本	523	0	0	0	13	13	新規に提供された標本および前年度までの未登録標本を整理し、データベースへ523件を新規登録した	49,593	78,597
昆虫	0	12	0	0	854	866		67,006	208,675	
内 訳	昆虫液浸標本	0	0	0	0	0	0	以前に寄贈された資料を整理し、登録できる状態にする作業を進めている	12,495	31,052
	昆虫乾燥標本	0	12	0	0	854	866	滋賀県産標本の整理、宮田彬コレクションの登録作業	54,511	177,623
貝類	3	11	0	0	329	340		14,339	17,265	
昆虫と貝類以外の無脊椎動物（甲殻類、寄生虫など）	0	38	1	0	6	45		0	12,780	
小 計	733	61	1	0	1,216	1,278		140,738	327,283	

植物標本	2015年度							累 積	
	登録数	採集数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
さく葉標本	705	0	0	0	0	0	標本受入・登録・ラベル貼付・ 収蔵・管理、収蔵庫燻蒸	85,125	187,938
菌類乾燥標本	0	0	0	0	0	0		0	121
水草包埋標本	0	0	0	0	0	0		0	57
小 計	705	0	0	0	0	0		85,125	188,116

微生物標本	2015年度							累 積	
	登録数	作成・撮影数	寄贈数	購入数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
微小生物液浸標本	0	0	0	0	0	0		0	3,958
微小生物プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	31
珪藻プレパラート	0	0	0	0	0	0		0	1,387
珪藻顕微鏡写真フィルム	0	0	0	0	0	0		0	25,324
珪藻顕微鏡写真 デジタルファイル	0	0	0	0	0	0		0	25,251
微小生物顕微鏡写真 デジタルファイル	0	3,291	0	0	0	3,291		0	9,761
微小生物動画ファイル	0	788	0	0	0	788		0	841
小 計	0	4,079	0	0	0	4,079		0	66,553

水族資料 (生体)	2015年度							累 積	
	登録数	採集数	提供数	購入数	繁殖数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
脊椎動物	6,907	202	491	1,986	4,228	6,907		11,075	11,075
内 訳	哺乳類	0	0	0	0	0		0	0
	魚類	6,906	202	490	1,986	4,228		11,037	11,037
	両生類	0	0	0	0	0		5	5
	爬虫類	1	0	1	0	0		26	26
	鳥類	0	0	0	0	0		7	7
無脊椎動物	769	92	358	319	0	769		1,061	1,061
内 訳	昆虫類	0	0	0	0	0		0	0
	貝類	564	0	346	218	0		997	997
	甲殻類	205	92	12	101	0		52	52
	扁形動物	0	0	0	0	0		12	12
小 計	7,676	294	849	2,305	4,228	7,676		12,136	12,136

考古資料	2015年度			累 積	
	登録数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
土器・石器等(コンテナ数)	0	0		0	1,394(箱)
木器等(棚置き数)	0	0		0	357
礎石・大型木製品等(床置き数)	0	0		0	26
展示用保管資料等(コンテナ数)	0	0		0	14(箱)
展示用大型資料	0	0		0	6
瓦・金属製品	0	0		0	21箱と3点
小 計	0	0		0	1,429箱と392点

歴史資料	2015年度					累 積		
	登録数	購入数	寄贈数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
古文書、絵図、絵画等	0	0	0	0	0	大津百艘船仲間木村忠兵衛家文書(072号) 仮目録作成中(現在3601点)	2	162
二次資料 (レプリカ、模写、模造)	0	1	0	0	1		0	41
その他	0	0	0	0	0		0	7
小 計	0	1	0	0	1		2	210

民俗資料	2015年度				累 積	
	登録数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
生活生業用具	0	0	0		4,133	4,140
漁撈用具(船関係用具を含む)	0	0	0		2,588	2,589
二次資料	0	67	67		0	108
小 計	0	67	67		6,721	6,837

環境資料	2015年度				累 積		
	登録数	提供数	寄贈数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
水環境調査資料	0	2	0	2		0	74
生活用具類	0	0	0	0		0	37
民具類	0	0	0	0		0	22箱と630
二次資料(レプリカなど)	0	0	0	0		0	23箱と25
海外の湖沼船	0	0	0	0		0	4
小 計	0	2	0	2		0	45箱と770

図書資料	2015年度					累 積	
	登録数	購入数	寄贈・提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
書籍	2,915	255	3,558	3,813	その他、館外利用サービスとして開架図書10,000冊、雑誌63件の整備、書籍レファレンス、コピーサービス(有料)。資料整理として蔵書点検69,000点、ニュースレターの整理、図書装備約3,600冊	84,500	88,500
文献	395	0	395	395		52,000	54,500
雑誌	626タイトル (うち新規159タイトル)	424 (59タイトル)	3,580 (567タイトル)	4,004 (626タイトル)		(*)4,808 タイトル	
小 計	3,310と 626タイトル	679	7,533	8,212		136,500と 4,808タイトル	143,000

(*)ニュースレターを含まない。博物館関係の雑誌を含む

映像資料	2015年度						累 積		
	登録数	撮影数	移管数	寄託数	提供数	受入総数	整理状況・作業内容・公開など	登録資料数	収蔵概数
静止画資料	0	0	0	0	0	0	写真資料PDF化43件、ネガのスキャン384件	75,766	92,931
動画資料	0	0	0	0	0	0		0	8,769
小 計	0	0	0	0	0	0		75,766	101,700

2) 寄贈者および提供者

敬称省略(点数)

【地学資料】

岩石・鉱物：宇野明子(3000) 木村一郎(2400) 中野聰志(1010) 藤本倉次(7)

小谷富士夫(26) 井上 淳(195) 名取和季子(1) 竹村恵二(52)

化石：北林栄一(8135)

【動物標本】

哺乳類骨格標本：大島真弓 (13)

鳥類乾燥標本：小島 猛 (1)

昆虫乾燥標本：斎藤昌弘 (4) 秋山廣光 (1) 金尾滋史 (2) 高石清治 (2) 中井克樹 (1)
 中川 優 (6) 石田未基 (1) 遠藤真樹 (29) 白神大輝 (6) 陣川里江子 (1)
 初宿成彦 (1) 瀬川也寸子 (2) 高橋正吾 (1) 武田 滋 (808) 細井正史 (1)
 宮田 彬 (1) 山本由里子 (3)

魚類液浸標本：琵琶湖博物館水族 (8) 高橋さち子 (1) 長浜高校 (4)

貝類乾燥標本 (液浸標本に置換)：酒井治己 (6)

貝類液浸標本：水資源機構 (330)

小型生物：Oleg A. Timoshkin (1) 瀧端真理子・柁原 宏 (1) 石田未基 (2) 南谷幸雄 (2)

琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (1)

【水族資料】

大阪府立環境農林水産総合研究所 (20) しながわ水族館 (50)

【環境資料】

林 美津子 (1式) 上田一好 (1式)

【図書資料】

掛谷 誠 (1121) 脇田健一 (104) 川那部浩哉 (63) 嘉田由紀子 (33) 大島 浩 (22)
 矢野宏二 (20) 松本みどり (14) 布谷知夫 (9) 杓掛俊夫 (8) 澤田純三 (4)
 たんぽぽの家 (2) 山寄仁生 (2) 谷元峰男 (2) 中嶋守治 (2) 東海道伝馬館 (2)
 北川勝弘 (2) 俣野広司 (2) Olivier Robert (1) Siti Norasiah Abd Kadir (1)
 こなん女性史の会 (1) 岡村喜明 (1) 河端政一 (1) 河野通明 (1) 吉永隆記 (1)
 三田村法勝 (1) 志岐常正 (1) 森野秀三 (1) 前畑政善 (1) 田中新一 (1) 飯塚 彬 (1)
 平和堂財団 (1) 篠原 徹 (44) 用田政晴 (455)

3) 購入資料

【歴史資料】

花園院宸記 巻32、35 (第二十四回配本) 1点 古文書 (レプリカ)

4) 水族繁殖生物

種 名	学 名	個体数
日本産魚類		
コイ科		
イチモンジタナゴ	<i>Acheilognathus cyanostigma</i>	280
イタセンパラ	<i>Acheilognathus longipinnis</i>	5
ゼニタナゴ	<i>Acheilognathus typus</i>	46
シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>	115
タナゴ	<i>Acheilognathus melanogaster</i>	29
アカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira erythropterus</i>	38
キタノアカヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tohokuensis</i>	8
ニッポンバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	119
カゼトゲタナゴ (山陽集団)	<i>Rhodeus smithii sunithii</i>	61

種 名	学 名	個体数
カゼトゲタナゴ(北九州集団)	<i>Rhodeus smithii smithii</i>	69
ミヤコタナゴ	<i>Tanakia tanago</i>	112
ホンモロコ	<i>Gnathopogon caeruleus</i>	58
タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>	45
イトモロコ	<i>Squalidus gracilis gracilis</i>	150
カワバタモロコ	<i>Hemigrammocypripis rasborella</i>	271
アブラヒガイ	<i>Sarcocheilichthys biwaensis</i>	180
モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>	225
ズナガニゴイ	<i>Hemibarbus longirostris</i>	6
ツチフキ	<i>Abbottina rivularis</i>	50
ドジョウ科		
アユモドキ	<i>Parabotia curtus</i>	121
ビワコガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis minamorii oumiensis</i>	50
オオガタスジシマドジョウ	<i>Cobitis magnostriata</i>	70
ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>	93
メダカ科		
ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	148
トゲウオ科		
ハリヨ	<i>Gasterosteus aculeatus</i> subsp.	241
ハゼ科		
アオバラヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp. BB	134
サケ科		
ビワマス	<i>Oncorhynchus</i> sp.	800
外国産魚類		
カワスズメ科		
アウロノクラノス・デウィンディ	<i>Aulonocranus dewindli</i>	48

(2) 資料の活用

1) 資料情報の公開

2015年度には電子図鑑「水族企画展示：展示した生き物たち」が、従来は展示企画6回分の公開であったところを7回分の公開へと内容を増強するための内容整備を完了した。

2) 資料の貸出 (研究依頼を含む)

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
4	17	布村 昇	ワラジムシ類液浸標本 7点	琵琶湖博物館の総合研究「分類学」の一環として
4	22	岡山理科大学生物地球学部	魚類咽頭歯乾燥標本 2,143点	咽頭歯モノグラフ執筆のため
6	9	野洲市歴史民俗博物館	野洲市産出鉱物 18点	ロビー展示「大岩山で水晶がとれた！」で展示するため
6	21	海遊館	アライグマ標本、カミツキガメ標本、ミシシッピアカミミガメ標本、オオクチバス標本、ブルーギル標本、カダヤシ標本、メダカ標本 各1点	特別展「琵琶湖・淀川・大阪湾の外来生物(仮称)」における展示

月	日	貸出先	資料内容	利用目的
6	21	京都大学農学研究科	コヒョウモンモドキ乾燥標本 1点	遺伝解析のため脚1本からDNAを抽出
6	29	和歌山県立自然博物館	トンボ類乾燥標本 10点	特別展「水辺で生きる昆虫」にて展示するため
7	28	日野町十禅師区	橋本忠太郎関連資料 8点	十禅師の歴史を学ぶ集いの展示コーナーで展示
10	13	水産大学校	カワシンジュガイ類標本 70点	形態比較のため
10	13	龍谷大学	ビワヨシノボリ標本 29点	分類学的研究
10	23	北九州市立自然史・歴史博物館	等脚類液浸標本 15点	標本の分類学的研究
11	15	ハンヤン大学 (韓国)	カイアシ類液浸標本 15点	標本の分類学的研究
11	17	嶋津 武	フタゴムシ類プレパラート標本 2点	琵琶湖博物館での展示利用のための標本同定
11	27	David Muranyi	カワゲラ目クロカワゲラ科の液浸標本 40点	研究
1	7	千葉県立中央博物館	上総層群火山灰層はぎ取り標本 6点	春の季節展「火山がつくった日本列島」にて展示するため
2	3	酒井治己	カワシンジュガイ亜属 9点	研究
3	19	川瀬直幹	トビゲラ類標本(宮田コレクション) 169点	宮田コレクションのトビゲラ類等の同定および県内のトビゲラ相の解明

3) 資料の譲与

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
4	10	三重大学生物資源学部	タナゴ類 120 個体	遺伝的研究材料として使用するため
4	10	福井県立大学海洋生物資源学部	アブラヒガイ 2 個体	遺伝的研究材料として使用するため
4	11	ふくしま海洋科学館	ウキゴリ 5 個体 タモロコ 30 個体 モツゴ 70 個体 ビワマス 20 個体	展示に使用するため
5	12	天王寺動物園	カヤネズミ 5 個体	常設展示の強化
6	12	福井県立大学海洋生物資源学部	アブラヒガイ孵化仔魚 20 個体	遺伝的研究材料として使用するため
6	12	米原市立双葉中学校	ハリヨ 10 個体	ハリヨの生育域外保全の一環として
6	12	サケのふるさと千歳水族館	インディアンナイフ 3 個体 ほか (計 10 種 135 個体)	展示のため
6	13	姫路市立水族館	カミツキガメ (緊急保護個体) 1 個体 ジルティラピア 10 個体 オオタナゴ 20 個体	外来生物に関する夏の企画展示で使用するため
6	22	神戸市立須磨海浜水族園	ケツギョ 3 個体 ソウギョ 1 個体 アオウオ 1 個体 ダントウボウ 16 個体	世界のさかな館での展示のため
7	13	鳥羽水族館	オオクチバス 3 個体 ブルーギル 3 個体 カワバタモロコ 20 個体	展示のため

月	日	譲与先	資料内容	利用目的
7	16	京都水族館	ハリヨ（醒井産） 10 個体	展示および繁殖のため
8	26	京都市動物園	イチモンジタナゴ 50 個体	展示および希少種繁殖のため
8	31	水産総合研究センター増養殖研究所	ロングイヤーサンフィッシュ 34 個体 パンプキンシード 23 個体	遺伝的雌特異的不妊化ブルーギルの生産に関する研究
9	11	埼玉県立松山高等学校生物部	ドブガイ組織サンプル 4 点	DNA による種の判別
9	19	宮津エネルギー研究所水族館	シルバーグラミー 25 個体 ほか（計 12 種 130 個体）	高浜エルドランドでの展示のため
9	15	神戸市立王子動物園	セマルハコガメ（緊急保護個体） 1 個体	希少種保全のため
9	18	滋賀県立近江富士花緑公園	ニシキゴイ 49 個体	展示のため
10	4	二見シーパラダイス	インディアンナイフ 2 個体 カイヤン 4 個体 シルバーシャーク 10 個体 シルバーバルブ 10 個体	展示のため
10	4	鳥羽水族館	ブラックバス 10 個体 ブルーギル 10 個体 ナマズ 2 個体 カムルチー 2 個体	展示のため
10	19	サケのふるさと千歳水族館	カイツブリ 1 個体	展示のため
11	10	加茂水族館	マミズクラゲ 約 10 群体	飼育および展示のため

4) 特別観覧

<映像資料・静止画>

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
5	18	弘甸館	前野コレクション 5 点	セブンイレブン記念財団広報誌「みどりの風」2015 年夏号に掲載
5	23	豊田ホテルの里ミュージアム	ノロ頭微鏡写真 1 点	夏季企画展「蛍の呼吸と蟲の呼吸」展示利用
6	3	草津市環境課	カメ類 7 点	外来種のカメに関する啓発チラシを作成するため
6	18	姫路市立水族館	ザリガニ類 2 点	企画展「異国につれてこれられた生きものたち」での写真展示
6	25	ジャパンプロデュース	災害写真 2 点	フジテレビ「離島へ行こう！（仮）」にて放映
7	23	小早川 隆	大橋コレクション 28 点	彦根東高校第 15 回同窓会における静止画資料収集活動の紹介
9	8	海鳴社	愛知川化石林 1 点 ビワコオオナマズ 1 点 前野コレクション 2 点	書籍「琵琶湖は呼吸する」の本文カットとして使用
9	29	テレビ朝日	ホテイアオイ 1 点	テレビ報道において過去のホテイアオイ増殖例として琵琶湖を例示
10	2	豊田ホテルの里ミュージアム	ビワコオオウズムシ 1 点	平成 27 年度秋季企画展での展示および出版物への掲載
11	10	近江八幡市市民部市民課	オオヨシキリ 1 点	ヨシキリを市の鳥として市民に広く周知を図るため
11	10	彦根市教育委員会保健体育課	琵琶湖博物館外観 1 点	彦根市内小中学生向け防災副読本を作製するため

月	日	貸出先	資料内容	使用目的
11	14	おふいすりぷる	ホンモロコ 1点	テレビ番組におけるホンモロコの説明
12	8	石田 功	居初家文書 1点	郷土木村源兵衛の研究のため
12	22	一般社団法人日本さかな検定協会	ビワマス 1点	第7回日本さかな検定におけるポスター等での固有種紹介
12	25	びわ湖フローティングスクール	水草 10点	「学習のしおり」に掲載
12	28	大津市歴史博物館	滋賀県管下近江国六郡物産図説 1点	ミニ企画展「大津算盤をつくった人々」で使用
1	12	サンライズ出版	唐橋遺跡橋脚出土状況 1点	書籍「湖国の古代史」への掲載
1	21	山崎川グリーンマップ	コイ科魚類 2点	名古屋市山崎川の生き物の移り変わりを紹介する冊子の制作
1	22	滋賀県農林水産部農村振興課	「私とあなたの琵琶湖アルバム」掲載写真 11点	「人・生き物にぎわう農村フォーラム2016」基調講演で使用
2	3	東京都政策企画局総務部管理課	ビワコオオナマズ 1点 ニゴロブナ 1点	「地方自治法60周年記念貨幣・記念切手のデザインパネル展」(仮称)での滋賀県紹介パネルに使用
2	20	毎日映画社	災害写真 2点	テレビ番組「アクサ生命ユネスコ協会現在プログラム」で使用
2	20	滋賀県教育委員会文化財保護課	琵琶湖真景図 1点	「滋賀県立琵琶湖文化館研究紀要」への掲載
3	3	湖南省立水戸小学校	琵琶湖固有種魚類 16点	ミニ水族館コーナーにて琵琶湖の魚を紹介する映像スライドに使用
3	16	彦根市本庄町自治会	前野コレクション 2点 クサトリダルマ 1点	本庄町郷土資料「ふるさと」誌への掲載
3	19	野洲市歴史民俗博物館	災害写真 2点	テーマ展「近江の老農大岡利右衛門」への出陳および出版物掲載
3	24	栗東歴史民俗博物館	栗太郡山田郷青花紙取調書 1点	栗東歴史民俗博物館紀要22号の論文に掲載

<館内閲覧・撮影>

月	日	利用者	閲覧内容	閲覧目的
4	24	京都大学人間・環境学研究所	ミミズ類液浸標本 17点	ジュスイミミズ科Drawoda属の分類学的再検討
10	16	俣野広司	田船模型 8点	琵琶湖周辺の田船復原制作のための造船技法の調査、計測
10	27	岐阜大学地域科学部	ビワヒガイ標本 201点	研究のため
11	20	藪内真人	浜端悦治モンゴル水草標本(未登録) 一式	論文作成のための標本確認
12	4	渡辺勝敏	カマツカ液浸標本 13点	魚類形態に関する研究
2	9	高橋さち子	トウヨシノボリ液浸標本 51点	魚類の分類学的研究
2	21	福井順治	ヒメクロサナエ乾燥標本 22点	形態変異の研究のため
3	2	藪内真人	浜端悦治モンゴル水草標本(未登録) 一式	論文作成のための標本確認

5) 資料の活用状況の公開

収集された資料は、琵琶湖博物館内だけでなく、県内外の博物館など他機関へも貸し出され、展示されている。他機関の展示への貸出状況についてはインターネットページにて順次公開している。2015年度には、新たに貸出状況を公開するべき案件は無かった。

6) 資料の利用による成果

さまざまな形で資料は利用されるが、そのことによって多岐にわたる成果があがる。また、資料が利用されてから実際に成果が論文などの形にまとまるまでに要する時間もさまざまである。2015年度には以下の論文が公表された。

著者	年	タイトル	雑誌名または出版物	頁	種別	活用標本
佐藤力夫 野崎敦士	2015	日本産 <i>Bizia</i> 属 (シヤクガ科エダシヤク亜科) の1新種	蛾類通信(273)	579-584	論文	昆虫乾燥標本
吉武 啓 八尋克郎 伊藤元巳	2015	滋賀県立琵琶湖博物館所蔵の日本産ゾウムシ上科標本 (江本健一コレクション) 目録(1)オサゾウムシ科	象鼻虫, 日本ゾウムシ情報ネットワーク ニュースレター(10)	9-11	専門分野著述	昆虫乾燥標本

(3) 資料保管

資料を保管する際には、ガス燻蒸、冷凍処理および二酸化炭素処理など、防虫・防黴対策を行った後に収蔵庫へ収納している。また、収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態が保てるよう、目視による資料チェックや保存液の補充などを行うほか、収蔵庫の適切な保存環境を維持するため、収蔵庫内の温湿度管理、生物トラップ調査、定期的な清掃などの総合的有害生物防除管理 (IPM) を行っている。

2015年度は、収蔵庫空間においてカビ防御のため、前年に引き続き、扇風機や除湿器の設置や外気の遮断など空気環境の改善も行った。映像収蔵庫の湿度が不安定であったため、7~9月に除湿器を用いて除湿を行った。収蔵環境のモニタリングとしては、きめ細かな空気環境の把握を行うため、温湿度記録計・データロガー等の数量と配置場所の現状把握なども行った。また、温湿度センサーの較正を行うことで特に動物収蔵庫、植物収蔵庫、民俗収蔵庫1、2で温湿度を基準値以内で安定させることができた。

1) 収蔵庫空間の管理

温湿度管理	各収蔵庫定点観測を実施 ・時間ごとに計測し、全データを保存。 ・温湿度の変化を年間通して把握し、環境の基準を設定する。 ・温湿度センサーの較正。
定期清掃	・収蔵庫の清掃：月1回原則として第1金曜日に実施 ・収蔵庫前廊下の清掃：当番で割り振られた範囲を週1回実施
特別清掃	年3回の特別清掃の実施(B展示室屋上、トラックヤード、燻蒸室。害虫の増加場所を対象とした)
生物環境調査	年3回の生物環境調査 ・2015年6月19日~7月3日 昆虫トラップ調査 244カ所(設置・回収・分析) ・2015年10月16日~10月30日 昆虫トラップ調査 244カ所(設置・回収・分析) ・2016年2月26日~3月11日 昆虫トラップ調査 244カ所(設置・回収・分析) *当館のIPM基準値 ・虫：非誘因性トラップで1日につき捕獲される指標種 (チャタテムシ) の個体数 (捕獲指数) が 1

2) 燻蒸・処理

収蔵資料が長期間にわたり安全で良好な状態を保てるよう、収蔵庫内の温湿度管理、定期清掃、トラップ

調査などといった、総合的有害生物防除管理（IPM）と合わせ、必要に応じた燻蒸処理を行っている。

新たに収集した資料や、収蔵庫外で活用後の資料は、収蔵庫への搬入前に燻蒸処理を行っている。また、昆虫トラップ調査の結果等を踏まえ、収蔵庫内のチャタテムシ発生源になりやすい資料等の燻蒸を行っている。

大型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる燻蒸を5回実施した。また、密閉テントを用いたエキヒューム燻蒸を1回実施した。小型燻蒸庫では、二酸化炭素ガスによる処理を随時行っている。その他、資料によっては冷凍庫による冷凍処理および脱酸素処理を実施している。

2 研究を進めて活かせる博物館

研究調査活動

琵琶湖博物館の事業は、研究事業、交流サービス事業、情報事業、資料整備事業、展示事業という五つを総合的に行ない、特にその中でも研究活動が全ての博物館活動の基礎となる。すなわち、研究の成果の発信として、交流、情報、資料、展示が行なわれ、研究の成果とその発信が魅力的であれば、博物館の他の事業も魅力的なものとなる。

これまで琵琶湖博物館の研究事業では、「生命文化複合体」としての琵琶湖の「価値」を明らかにすることを目標に、学際的な総合研究やテーマをしばった共同研究、ならびに個々の学芸員の資質を高める専門研究に取り組んできた。総合研究と共同研究については、研究審査委員会に対して研究計画書を提出し、その審査を受けて、2015年度は、以下の研究課題が審査を通過して実施された。なお、専門研究については、申請金額の多い研究は申請専門研究として、同じく研究審査会での審査を受けた。

(1) 総合研究

琵琶湖博物館の設立理念を実現することに直接結びつく研究として、総合研究を行った。総合研究のテーマは次の2件であった。

- ・琵琶湖の生物多様性の成立過程の解明
代表者：マーク ジョセフ グライガー，研究期間：2011～2015年度
- ・前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究
代表者：橋本道範，研究期間：2014～2018年度

(2) 共同研究

琵琶湖博物館のテーマにしたがった研究として共同研究を以下のテーマで行った。共同研究のテーマは次の5件であった。

- ・古琵琶湖の置き土産～滋賀県南部のミズゴケ湿地群の総合的研究～
代表者：大塚泰介，研究期間：2012～2016年度
- ・X線CT画像を使ったシガゾウの分類学的再検討
代表者：高橋啓一，研究期間：2013～2015年度
- ・微小な生物の飼育技術開発および展示方法
代表者：松田征也，研究期間：2013～2015年度
- ・侵略的外来魚の生息抑制技術の新規開発・高度化に関する研究
代表者：中井克樹，研究期間：2014～2016年度
- ・大型植物遺体・花粉分析に基づく琵琶湖地域における最終氷期の森の復元
代表者：林 竜馬，研究機関：2015～2017年度

(3) 専門研究

各学芸職員が、自らの専門分野の研究をおこなった。専門研究は特別な経費を要求した申請専門研究と、通常の経費で研究をしたものとに区別している。

<申請専門研究>

- ・イバラモの繁殖生態に関する研究（芦谷美奈子）
- ・琵琶湖地域における化石ヒシ属の果実形態からみた分類とその変遷（山川千代美）
- ・滋賀県におけるカヤネズミの生息適地要因（澤邊久美子）
- ・カワウと森と人の関係史に関するデータベース構築（亀田佳代子）

< 専門研究 >

- ・琵琶湖を中心とした人と自然の関係をめぐる研究・交流・展示（篠原 徹）
- 環境史研究領域担当
- ・古琵琶湖層群から新しく発見された魚類頭骨化石の形態解析（高橋啓一）
 - ・鮮新-更新統境界付近の古琵琶湖層群と東海層群（里口保文）
 - ・日本中世の捨田について－「水辺」の生業と支配－（橋本道範）
 - ・琵琶湖流入河川の土砂動態をめぐる再生のありかた（井関明子）
 - ・農村における資源利用をめぐる再生のありかた（楊 平）
 - ・揚水機に関する基礎的研究－既往研究および使用事例の整理－（老 文子）
 - ・琵琶湖周辺における縄文時代以降の環境変遷復元に向けた基礎的研究－古生態学データの整理とデータベースの構築－（林 竜馬）
 - ・過疎集落と他出先市街地における二地域居住の実態の解明（大久保実香）

生態系研究領域担当

（基礎地域研究班）

- ・日本各地のヒメカイエビ属標本の同定に関する研究（マーク ジョセフ グライガー）
- ・カワウの巣の昆虫相に関する研究（八尋克郎）
- ・希少淡水魚における性決定について（松田征也）
- ・水生双翅目昆虫アシナガバエ科の分類学的研究（榎永一宏）
- ・東アジアのカイミジンコデータベースの拡大（ロビン ジェームス スミス）
- ・水田地帯における営農に合わせた生態系保全活動の基礎的調査（水谷 智）
- ・県環境行政施策資料の整理と活用（浦山重雄）

（応用地域研究班）

- ・琵琶湖産魚類の遺伝的多様性と個体群構造の変化に関する基礎的研究（桑原雅之）
- ・琵琶湖南湖の沈水植物の繁茂状況の把握（芳賀裕樹）
- ・魚類・貝類の保全に関する基礎的研究（中井克樹）
- ・木育の導入に向けて（安福俊幸）
- ・ろ過槽等飼料器材の消毒に及ぼす阻害物質の影響（山本充孝）

博物館学研究領域担当

- ・琵琶湖集水域における古墳時代首長の領域と地域性（用田政晴）
- ・中池見湿地の珪藻群集と環境指標性（大塚泰介）
- ・地球物理学を手がかりとする博物館学の展開（戸田 孝）
- ・マミズクラゲの性決定機構の解析（楠岡 泰）
- ・琵琶湖周辺域における水田利用魚類の生態・保全に関する研究（金尾滋史）
- ・集落用水系をめぐる民俗儀礼の研究：近世湖南地域の虫送りと雨乞いを例に（渡部圭一）
- ・教員の専門性を支える博物館の役割について（間所忠昌）
- ・小学校における博物館の有効活用（岡部陽造）

(4) 研究審査委員会

琵琶湖博物館総合研究・共同研究審査委員会 委員

氏名	現職
竹村 恵二	京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設 教授
中村 正久	滋賀大学環境総合研究センター 特任教授
西 源二郎	公益財団法人東京動物園協会 理事

氏名	現職
太田 義人	滋賀県総合教育センター 主査
濱崎 一志	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科 教授
瀬田 勝哉	武蔵大学 名誉教授
宮崎 信之	東京大学 名誉教授
遊磨 正秀	龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科 教授
篠原 徹	滋賀県立琵琶湖博物館 館長
浅見 孝円	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長
高橋 啓一	滋賀県立琵琶湖博物館 副館長

(5) 研究助成を受けた研究

学芸職員等が受けた外部研究助成のうち、主なものは以下のとおりである。

篠原 徹

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「日本の博物館総合調査研究」研究代表者（2013～2015年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

高橋啓一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究代表者（2014～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「北東アジアにおける最終氷期最盛期の主要樹木分類群の分布と古植性」研究分担者（2014～2017年度）

山川千代美

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究分担者（2014～2016年度）

里口保文

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「日本周辺の海域と陸域の鮮新-更新統を統合した標準年代モデルの確立」研究代表者（2013～2015年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究分担者（2014～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

橋本道範

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究代表者（2015～2018年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究—中・近世村落像の再検討」研究分担者（2012～2015年度）

楊 平

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究のモデル構築」研究分担者（2013～2016年度）

林 竜馬

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手 B）「日本海堆積物の花粉分析からみる森林動態に対する海洋・モンスーン変動の影響評価」研究代表者（2013～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究

分担者（2014～2016年度）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「北東アジアにおける最終氷期最盛期の主要樹木分類群の分布と古植性」研究分担者（2014～2017年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「ボルネオ島泥炭掘削：過去4000年間の熱帯大気対流活動の復元」研究分担者（2015～2017年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

大久保実香

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手 B）「人工減少後の地域コミュニティとその資源管理」研究代表者（2014～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究分担者（2014～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

八尋克郎

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「ニッチ構築としての鳥の巣：未知の共生系の進化生態学的研究」研究分担者（2013～2015年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「博物館、市民が連携した総合的古環境調査の実践的研究」研究分担者（2014～2016年度）

松田征也

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「日本の博物館総合調査研究」研究分担者（2013～2015年度）

榊永一宏

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「日本の博物館総合調査研究」研究分担者（2013～2015年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「インド洋における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」研究代表者（2014～2016年度）

ロビン ジェームス スミス

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「新たな生物進化モデルの展開：日本海多様化工場説とその世界的インパクト」研究分担者（2014～2017年度）

亀田佳代子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「ニッチ構築としての鳥の巣：未知の共生系の進化生態学的研究」研究分担者（2013～2015年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

中井克樹

- ・環境省地球環境研究総合推進費「特定外来生物の重点的防除対策のための手法開発」サブテーマ「琵琶湖におけるオオクチバス等の重点的防除対策」研究代表者（2014～2017年度）

澤邊久美子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

用田政晴

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究のモデル構築」研究代表者（2013～2016年度）

大塚泰介

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「鈳質土壌湿原の成立条件と生物群集の解明」研究代表者（2015～2018年度）

戸田 孝

- ・文部科学省科学研究費助成事業（挑戦的萌芽）「「癒し」を手がかりとする博物館の副次的機能論の構築」研究代表者（2013～2015年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「日本の博物館総合調査研究」研究分担者（2013～2015年度）

芦谷美奈子

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 S）「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」研究分担者（2012～2016年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「学校教育における博物館利用を促進させるための教員支援ツールの開発」研究分担者（2013～2017年度）

渡部圭一

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究 B）「宮座文書における「差定状」の管理史および儀礼史の解明：物質文化研究の視点から」研究代表者（2015～2017年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「東北型社会の特質に関する史的研究：地域資源の開発・管理・利用との関係を重視して」研究分担者（2015～2019年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「近代地方公文書アーカイブズと民間アーカイブズの構造・情報・関連性に関する総合研究」連携研究者（2014～2016年度）

天野一葉

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「遺伝情報に基づいた侵略的外来種ソウシチョウの駆除管理ユニットの策定」研究代表者（2015～2017年度）

朱 偉

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「Microcystisの群体集積によるアオコ発生メカニズムの解明」研究代表者（2015～2017年度）

中野正俊

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 C）「児童の理科学力と学習意欲向上に寄与する博物館・学校・地域連携モデルの開発と汎用化」研究代表者（2015～2017年度）

北村美香

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 S）「知の循環型社会における対話型博物館生涯学習システムの構築に関する基礎的研究」研究分担者（2012～2016年度）

川瀬成吾

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「スウェーデンのVega号資料に基づく明治初期の日本研究と琵琶湖環境の復元」研究分担者（2015～2018年度）

藤岡康弘

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤 B）「琵琶湖地域を対象とした地域環境史モデルの構築」研究分担者（2015～2018年度）

<研究調査業務受託>

- ・環境省 地球環境研究総合推進費「特定外来生物の重点的防除対策のための手法開発」（2014～2016年度）

- ・農林水産省 平成25年度委託プロジェクト研究 「気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のためのプロジェクト 生物多様性を活用した安定的農業生産技術の開発」(2013～2017年度)

(6) 研究員の受け入れ

- ・池田 勝 2014年8月1日～2015年8月1日, 2015年8月1日～2016年3月31日
テーマ: 幼児期の自然体験型教育プログラムの開発とその実践研究
- ・篠原耕平 2014年12月1日～2015年11月30日, 2015年12月1日～2016年11月30日
テーマ: 珪藻をマーカーとした藻食魚類の摂食場所の研究
- ・北村美香 2015年1月15日～2016年1月14日, 2016年1月15日～2017年1月14日
テーマ: 博物館における「モノ資料」と「情報」の関連性について
- ・太田悠造 2014年3月14日～2015年3月13日, 2015年3月14日～2016年3月13日
テーマ: エビノコバンの生態解明
- ・鈴木隆仁 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ: 琵琶湖、水田およびその周辺地域における淡水腹毛動物の調査
- ・林 博通 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ: 琵琶湖湖底遺跡の研究／大津京構造の研究
- ・植田文雄 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ: 琵琶湖地域における内水面漁業の史的研究-考古資料と民俗資料をもちいて
- ・辻川智代 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ: 考古学的手法を用いた民具の分類とその歴史の変遷を通じた地域文化研究
- ・黒岩啓子 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ: 博物館におけるコミュニケーションと学びについて: モノ、情報、人との相互関係に関する研究
- ・柏尾珠紀 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ: 琵琶湖周辺部農漁村におけるジェンダーの社会学的考察
- ・川瀬成吾 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ: 琵琶湖・淀川流域の魚類多様性をめぐる保全分類学的研究
- ・廣石伸互 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ: アオコの溶藻細菌および溶藻酵素に関する研究
- ・朱 偉 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ: 吹送流による*Microcystis*の群体集積およびアオコ形成の機構
- ・中野聰志 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ: 滋賀県琵琶湖周辺花崗岩類・国内外関連花崗岩類及びそれらに伴う鉱物類の地質学および教育学的研究
- ・天野一葉 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ: 外来種ソウシチョウの形態・遺伝学的研究
- ・藤岡康弘 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ: 琵琶湖の固有種の分類ならびに生態に関する研究
- ・草加伸吾 2015年4月1日～2015年3月31日
テーマ: モンゴルフブスグル湖集水域および、半乾燥地での森林再生促進研究／湿地の植物と水質、水環境の関わり研究
- ・中野正俊 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ: 児童の活用型学力と学びの有用感を高める理科・環境学習

- ・矢田直樹 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ：滋賀県内の祭礼行事や民間信仰に関する歴史民俗学研究
- ・高梨純次 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ：近江の仏像からみた仏教の展開と生活空間
- ・瀬口眞司 2015年4月1日～2016年3月31日
テーマ：縄文時代を中心とする人類の資源利用と自然観の通時的変遷に関する研究
- ・Blakemore Robert John 2015年9月1日～2016年8月31日
テーマ：Ecological Biodiversity of Earthworms (mimizu) in and Around Lake Biwa
- ・前畑政善 2011年4月1日～2016年3月31日
テーマ：水田魚類の研究
- ・布谷知夫 2014年4月1日～2019年3月31日
テーマ：住民による公立博物館への期待とその社会的役割についての研究
- ・川那部浩哉 2015年4月1日～2020年3月31日
テーマ：博物館における生物と文化の多様性に関する研究・展示・普及
- ・中島経夫 2015年4月1日～2020年3月31日
テーマ：コイ科魚類の咽頭歯からみた湖と人の関わりについての研究

研究発信

(1) 公表された主な研究業績

学芸職員等が公表した研究に関する著作物のうち、学術雑誌や書籍などで公表されたオリジナルな論文あるいはそれと同等なものをあげた。研究業績全体については、琵琶湖博物館インターネットページ (<http://www.lbm.go.jp/active/research/>) に掲載した。

<原著論文>

- 岡村喜明・高橋啓一・里口保文 (2016) 古琵琶湖層群から新たに発見されたサイ類足印化石. *化石研究会会誌*, 48 (1) : 26-38.
- 高橋啓一・馬場理香・北川博道・渡辺克典・伊藤 謙 (2015) 瀬戸内海産異常形成ナウマンゾウ臼歯の CT による再検討. *化石研究会会誌*, 47 (2) : 48-54.
- 里口保文 (2015) 古琵琶湖層群下部層序の再検討. *地質学雑誌*, 121 (4) : 125-139.
- 橋本道範 (2016) 日本中世における「水辺」の支配—播磨国矢野庄の「河成」をめぐって—. *歴史地理学*, 58-1 (278) : 75-90.
- 橋本道範 (2016) 中世菅浦の漁業権—応永四年「堅田証状」の再検討—. *滋賀大学経済学部附属史料館紀要*, 49 : 69-84,
- 楊 平 (2015) 環境の継続的保全は何で決まるのか—資源利用から考える—. *日中社会学研究*, 23 : 8-14.
- Yahiro, K. and Hayashi, M. (2015) Fossil insects from the Pleistocene Kobiwako Group at Taga Town, Shiga Prefecture, Japan. *Elytra, Tokyo, New Series*, 5(2) : 531-538.
- Karanovic, T., Kim, K. and Grygier, M. J. (2015) A new species of *Schizopera* (Copepoda: Harpacticoida) from Japan, its phylogeny based on the mtCOI gene and comments on the genus *Schizoperopsis*. *Journal of Natural History*, 49(41-42) : 2493-2526.
- 上西 実・石田未基・松田征也 (2015) 滋賀県内で採集されたウスイロオカチグサガイ *Solenomphala debilis* (Gould). *ちりぼたん*, 45 (3) : 135-137.
- Smith, R. J. and Kamiya, T. (2015) Four new species of the subfamily Candoninae (Crustacea, Ostracoda)

- from freshwater habitats in Japan. *European Journal of Taxonomy*, 136: 1-34.
- Yamamoto, M., Sugahara, K., Endo, M., Ishimaru, K. and Kato, K. (2015) Epidemiological study of *Flavobacterium psychrophilum* in ayu *Plecoglossus altivelis* caught in Lake Biwa and the inflowing rivers from 1998 to 2011. *魚病研究 Fish Pathology*, 50(3): 97-104.
- 澤邊久美子・夏原由博 (2015) 景観構造がカヤネズミの生息率におよぼす影響. *応用生態工学*, 18(2): 69-78.
- 用田政晴 (2015) 古墳時代前期首長墓に共通する特異な墳形—荒神山古墳の再検討—. *淡海文化財論叢*, 第7輯: 32-36.
- 大塚泰介・有田重彦・白川勝信 (2015) 八幡湿原の珪藻と水質. *高原の自然史*, 16: 1-11.
- Kihara, Y., Tsuda, K., Ishii, C., Ishizumi, E. and Ohtsuka, T. (2015) Periphytic diatoms of Nakaikemi Wetland, an ancient peaty low moor in central Japan. *Diatom* 31:18-44. DOI:10.11464/diatom.31.18
- Fujioka, Y., Kikko, T., Saegusa, J., Usuki, T. and Ohtsuka, T. (2015) Response of sex ratio to timing of breeding in the small cyprinid *Gnathopogon caerulescens*. *Journal of Fish Biology*, 87: 958-966, doi:10.1111/jfb.12768
- 戸田 孝 (2016) 教員を学校以外へ配属する場合の人事制度の地域差. *科学教育研究*, 40(1): 92-97.
- Kusuoka, Y. (2015) Cooperation between museums and the local community. Sonoda, N., Tamura, K. and Nu Mra Zan (eds.). *Asian Museums and Museology 2013 International Research Meeting on Museology in Myanmar. Senri Ethnological Reports*, 125: 153-164.
- Kusuoka, Y. (2015) Community based activities of the Lake Biwa Museum. Sonoda, N., Hirai, K., Incherdchai, J. (eds.). *Asian Museums and Museology 2014 International Workshop on Asian Museums and Museology in Thailand. Senri Ethnological Reports*, 129: 119-126.
- Hu, X. and Kusuoka, Y. (2015) Two oxytrichids from the ancient Lake Biwa, Japan, with notes on morphogenesis of *Notohymena australis* (Ciliophora, Sporadotrichida). *Acta Protozoologica*, 54(2): 107-122.
- 大谷ジャーメンウィリアム・石田未基・上島 励・中原ゆうじ・金尾滋史 (2015) カタマメマイマイを滋賀県米原市と甲良町にて確認. *ちりぼたん*, 45(4): 242-246.
- 大久保実香 (2016) 現代山村における他出者の重要性. *東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻博士論文*: 126p.
- Okubo, M., AbrarJuhar Mohammed and Inoue, M. (2016) Out-migrants and Local Institution: Case study of a depopulated mountain village in Japan. *Asian Culture and History*, 8(1): 2-9.
- 渡部圭一 (2016) 頭没祭 持の再編と近代村落—頭人差定儀礼における神籤の変化を中心に—. *史境*, 70: 66-82.

<専門分野の著述>

- 高橋啓一 (2015) 旧石器時代から縄文時代にかけての動物相の変化. *季刊考古学*, 132: 23-27.
- Grygier, M. J. (2015) Comment on *Anolis chlorocyanus* Dumeril & Bibron, 1837 and *Anolis coelestinus* Cope, 1862 (Reptilia, Squamata): proposed conservation of the specific names and designation of a neotype for *A. chlorocyanus*. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 72(2): 155-156.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2015) (M. J. Grygier) OPINION 2354 (Case 3518). *Cornu* Born, 1778 (Mollusca, Gastropoda, Pulmonata, HELICIDAE): request for a ruling on the availability of the generic name granted. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 72(2): 157-158.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2015) (M. J. Grygier) OPINION 2356 (Case 3594). *Ecdyonurus* Eaton, 1868 and *Ephemera venosa* Fabricius, 1775 (currently *Ecdyonurus venosus*; Insecta, Ephemeroptera) : usage conserved by designation of a neotype for *Ephemera venosa*.

Bulletin of Zoological Nomenclature, 72(2): 162–163.

- International Commission on Zoological Nomenclature (2015) (M. J. Grygier) OPINION 2358 (Case 3458). *Balintus* d' Abrera, 2001, *Gulliveria* d' Abrera & Bálint, 2001, *Salazaria* d' Abrera & Bálint, 2001, *Megathecla* Robbins, 2002 and *Gullicaena* Bálint, 2002 (Insecta, Lepidoptera, LYCAENIDAE): priority maintained. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 72(2): 166–170.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2015) (M. J. Grygier) OPINION 2360 (Case 3602). *Coenosia* Meigen, 1826 and COENOSIINAE Verrall, 1888 (Insecta, Diptera, MUSCIDAE): usage of the genus-group and family-group names conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 72(2): 173–175.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2015) (M. J. Grygier) OPINION 2362 (Case 3620). *Ticinella primula* Luterbacher, 1963 (Foraminifera, Globigerinida, ROTALIPOROIDEA, ROTALIPORIDAE): specific name conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 72(3): 227–228.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2015) (M. J. Grygier) OPINION 2366 (Case 3615). *Polybothris Dupont*, 1833 (Insecta, Coleoptera): spelling conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 72(3): 235–236.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2015) (M. J. Grygier) OPINION 2368 (Case 3410). *Raja say* Le Sueur, 1817 (currently *Dasyatis say*; Chondrichthyes, Myliobatiformes, DASYATIDAE): original spelling maintained. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 72(3): 239–244.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2015) (M. J. Grygier) OPINION 2369 (Case 3604). *Helix (Helicogena) aspersa insolida* Monterosato, 1892 (currently *Erctella insolida*; Gastropoda, Pulmonata, HELICIDAE): species-group name conserved, *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 72(4): 316–317.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2015) (M. J. Grygier) OPINION 2370 (Case 3634). OMALIIDAE Handlirsch, 1904 (Insecta, Archaeorthoptera) and XENOPTERIDAE Pinto, 1986 (Insecta, Megaseoptera): emended to OMALIAIDAE and XENOPTERAIDAE respectively. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 72(4): 318–320.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2015) (M. J. Grygier) OPINION 2371 (Case 3617). *Haboroleptoides confusa* Sartori & Jacob, 1986 (Insecta, Ephemeroptera, LEPTOPHLEBIDAE): precedence given over *Habroleptoides carpatica* Bogoescu & Crașnaru, 1930. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 72(4): 321–323.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2015) (M. J. Grygier) OPINION 2372 (Case 3605). PHYCINAE Lyneborg, 1976 (Insecta, Diptera, THEREVIDAE): spelling emended to PHYCUSINAE and *Phycis* Walbaum, 1792 (Osteichthyes, Gadiformes, PHYCIDAE): usage conserved by designation of *Blennius phycis* Linnaeus, 1766 as the type species. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 72(4): 324–326.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2015) (M. J. Grygier) OPINION 2373 (Case 3626). *Phoronis* Wright, 1856 (Phoronida) and *P. muelleri* de Selys Longchamps, 1903: both names conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 72(4): 327–328.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2016) (M. J. Grygier) OPINION 2375 (Case 3639). *Krynickillus maculatus* Kaleniszhenko, 1851 (currently *Limax maculatus*; Gastropoda, Stylommatophora, LIMACIDAE): specific name conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73(1): 61–62.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2016) (M. J. Grygier) OPINION 2377 (Case 3624).

- A proposal for the rejection of 38 names in ANTHICIDAE (Coleoptera): approved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73(1): 65-69.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2016) (M. J. Grygier) OPINION 2378 (Case 3632). *Anathyris monstrum* Khalfin, 1933 (currently *Anathyrella monstrum*; Brachiopoda, Athyridida): specific name conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73(1): 70-71.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2016) (M. J. Grygier) OPINION 2380 (Case 3630). CORCORACIDAE Mathews, 1927 (Aves) and *Coracia melanorhamphos* Vieillot, 1817: names conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73(1): 74-76.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2016) (M. J. Grygier) OPINION 2375 (Case 3639). *Krynockillus maculatus* Kalenishenko, 1851 (currently *Limax maculatus*; Gastropoda, Stylommatophora, LIMACIDAE): specific name conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73(1): 61-62.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2016) (M. J. Grygier) OPINION 2377 (Case 3624). A proposal for the rejection of 38 names in ANTHICIDAE (Coleoptera): approved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73(1): 65-69.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2016) (M. J. Grygier) OPINION 2378 (Case 3632). *Anathris monstrum* Khalfin, 1933 (currently *Anathyrella monstrum*; Brachiopoda, Athyridida): specific name conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73(1): 70-71.
- International Commission on Zoological Nomenclature (2016) (M. J. Grygier) OPINION 2380 (Case 3630). CORCORACIDAE Mathews, 1927 (Aves) and *Coracia melanorhamphos* Vieillot, 1817: names conserved. *Bulletin of Zoological Nomenclature*, 73(1): 74-76.
- 吉武 啓・八尋克郎・伊藤元己 (2015) 滋賀県立琵琶湖博物館所蔵の日本産ゾウムシ上科標本 (江本健一コレクション) 目録 (1) オサゾウムシ科. *象鼻虫*, 10: 9-11.
- 戸田 孝 (2015) 「研究博物館」の組織論と活動論—琵琶湖博物館開設時の主張とその後. *博物館研究*, 50(10): 2-5.
- 戸田 孝 (2016) 博物館総合調査に見る「博物館教員」の現状. *日本の博物館総合調査研究 平成27年度報告書*: 166-175.
- 戸田 孝 (2016) 「博物館の副次的機能論」に向けた「博物館総合調査」に基づく検討. *日本の博物館総合調査研究 平成27年度報告書*: 196-202.
- 戸田 孝・榎永一宏 (2016) 「少子高齢化時代に求められる新しい手法の開発」に関する検討. *日本の博物館総合調査研究 平成27年度報告書*: 225-237.
- 保科 亮・早川昌志・楠岡 泰・洲崎敏伸 (2015) シェアされる共生藻. *藻類*, 63(1): 59.
- 金尾滋史 (2015) 生きもの調査のもつ楽しみと可能性. *JARUS*, 115: 49-53.
- 金尾滋史 (2015) 琵琶湖の環境は良くなっているの?. *コープ滋賀情報誌 スパイラル*, 9月号: 6-7.
- Tuji, T. and Ohtsuka, T. (2016) No. 121. *Gomphosphenia ryukyuensis* Tuji et Ohtsuka sp. nov. *Algae Aquae Dulcis Japonicae Exiccatae VII, Natuinal Museum of Science*: 2-3.
- 大久保実香 (2016) セッションD印象記. *環境社会学会ニュースレター*, 61: 16-17.
- 大久保実香 (2016) 郊外育ちの私と山村. 「田舎暮らし」と豊かさ—コモンズと山村振興, 日本林業調査会: 30-45.

(2014年度までの研究業績)

<専門分野の著述>

楠岡 泰 (2014) 博物館活動における地域との連携: 琵琶湖博物館の事例. *アジアにおける博物館・博物館*

学の「いま」—モンゴル, ミュージアム・クリルタイ—: 67-76 (モンゴル語訳: 255-266).

楊 平 (2015) 魚米の郷と人びとの暮らし—イネと魚とともに生きる知恵. にぎやかな田んぼ イナゴが跳ね、鳥は舞い、魚の泳ぐ小宇宙: 44-45.

大塚泰介 (2015) 田んぼの生物多様性の見方・見え方の多様性. にぎやかな田んぼ イナゴが跳ね、鳥は舞い、魚の泳ぐ小宇宙: 82-83.

大塚泰介 (2015) 探せば探すだけ、新種が見つかる! 田んぼは小さな生きものの宝庫だった. にぎやかな田んぼ イナゴが跳ね、鳥は舞い、魚の泳ぐ小宇宙: 84-91.

金尾滋史 (2015) 古老のフナが語る田んぼとヒト. にぎやかな田んぼ イナゴが跳ね、鳥は舞い、魚の泳ぐ小宇宙: 66-67.

渡部圭一 (2015) “門前の花屋”の商いと暮らし. 市川のくらしと伝承II 市川市史編さん民俗部会成果報告書③: 23-36.

渡部圭一 (2015) 氏神と氏子. 民俗学事典: 430-431.

渡部圭一 (2015) 仏教と民俗. 民俗学事典: 438-439.

渡部圭一 (2015) 宮座とオコナイ. 民俗学事典: 586-587.

(2) 新琵琶湖学セミナー

琵琶湖博物館では、「湖と人間」をテーマに、過去から現在にかけて湖と人間との関係を明らかにし、未来に向けてよりよい関係を考えていくために、研究調査を進めている。この研究成果発信の一環として2008年度から3年にわたって開催した、「新琵琶湖学入門セミナー」「新琵琶湖学専門セミナー」「新琵琶湖学創造セミナー」が幸いにも好評を得たため、2011年度からも引き続き、同形式の「新琵琶湖学セミナー」を開催することになった。

5年目にあたる2015年度は、「いざりリニューアルへ!」をテーマに掲げ、当館学芸員を中心に県内外の研究機関等に所属する講師が、現在計画中の博物館展示リニューアルに関連して、各展示室で取り上げる新たなトピックの元になる最新の研究成果について講義を行った。各回ともに多くの参加者があり、延べ166名の参加者があった。

開講日: 2016年1月23日・2月27日・3月26日の土曜日 (計3日間)

開講時間: 13:30~16:00 1日2講演

会場: 琵琶湖博物館セミナー室

第1回 1月23日 (土) 参加者52名

滋賀県の生き物の多様性を考える

「滋賀の生き物コレクション」

「滋賀県の両性・爬虫類の多様性—現状と課題—」

八尋克郎 (滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員)

松井正文 (京都大学名誉教授)

第2回 2月27日 (土) 参加者59名

バイカル湖の環境と生物多様性

「バイカル湖の生き物たち」

「バイカルアザラシを追って—その生活と環境」

桑原雅之 (滋賀県立琵琶湖博物館総括学芸員)

宮崎信之 (東京大学名誉教授)

第3回 3月26日 (土) 参加者55名

水田生態系の世界

「湖辺の田んぼの変な生きもの」

「田んぼは魚のゆりかご」

大塚泰介 (滋賀県立琵琶湖博物館専門学芸員)

前畑政善 (神戸学院大学教授)

(3) 研究セミナー・特別研究セミナー

毎月第3金曜日 13:15~15:15 に以下の研究セミナーを開催した。(場所:琵琶湖博物館会議室)

- 第1回 2015年4月17日(金) 参加者35名
大久保実香 湖上の島と二地域居住ーエチオピア調査報告
芦谷美奈子 タンポポを調べるー参加型調査と生物学的研究の間ー
澤邊久美子 滋賀県のカヤネズミ分布ー草津~甲賀エリアー
- 第2回 2015年5月15日(金) 参加者30名
大塚泰介 イノベーションを生み出す博物館活動
山川千代美・神谷悦子 滋賀県多賀町四手丘陵のアケボノゾウ発掘に伴う古植生復元
ロビン・ジェームス・スミス カイミジンコ(甲殻類)のキプリス上科の生殖について
- 第3回 2015年6月19日(金) 参加者35名
用田政晴 琵琶湖をめぐる古墳時代首長の領域と地域性
山本充孝 琵琶湖産アユにおける実用的な冷水病の防除技術
松田征也 希少淡水魚の生息域外保全
- 第4回 2015年7月17日(金) 参加者20名
八尋克郎・林 成多 滋賀県多賀町四手の古琵琶湖層群から産出した昆虫化石についてー第三次発掘調査の成果ー
桑原雅之 バイカル湖産水生生物の展示に向けて
戸田 孝・小原千夏 施設に関する外形的データからみた博物館の副次的機能
- 第5回 2015年8月21日(金) 参加者25名
亀田佳代子 北アメリカ、ヨーロッパ、日本のウ類保護管理について
金尾滋史 希少淡水魚ハリヨの滋賀県内における分布変遷と保全活動の現状
廣石伸互 アオコを溶かす微生物
- 第6回 2015年9月18日(金) 参加者32名
渡部圭一 近江の虫送り研究序説
マーク ジョセフ グライガー カイアシ類モンストリラ目の分類、文献、命名に関する研究
林 竜馬 縄文時代以降の森と人の移ろい:琵琶湖周辺における遺跡の古生態学データから
- 第7回 2015年10月16日(金) 参加者26名
池田 勝 幼児向け環境学習プログラムの開発と実践について
井関明子 愛知川の土砂移動について
- 第8回 2015年11月20日(金) 参加者30名
矢田直樹 近江の民俗信仰ー野神を中心にー
高梨純次 神仏習合と神像の成立
瀬口眞司 縄文人のエコロジーとエコノミーー森と湖の開拓者達ー
- 第9回 2015年12月18日(金) 参加者30名
水谷 智 農業用水利施設を活用した小水力発電について
榊永一宏 アシナガバエ科 *Cemocarus* 属の分類と生物地理
橋本道範 地域環境史の課題Ⅱー総合研究『前近代を中心とした琵琶湖周辺地域における自然および自然観の通時的変遷に関する研究』の取り組みー
- 第10回 2016年1月15日(金) 参加者30名
芳賀裕樹 南湖の水草繁茂の研究の今後
楊 平 食用植物がつなぐ知恵ー植物貯蔵をめぐってー
間所忠昌 教員の専門性を支える博物館の役割についてー養蚕を扱った教員研修ー

第11回 2016年2月19日(金)

参加者30名

- 高橋啓一 X線CT装置を使ったゾウ臼歯の研究
浦山重雄 県環境行政施策の特徴～過去の環境行政施策から学ぶこと～
篠原耕平 珪藻の微空間分析を利用した胃内容分析の実用化～マラウイ湖シクリッド魚類の
マイクロハビタット推定～

第12回 2016年3月18日(金)

参加者36名

- 里口保文 琵琶湖の生い立ちについてのいくつかの仮説
岡部陽造 小学校における博物館の有効活用
楠岡 泰・保科 亮 琵琶湖周辺の共生藻をもつ繊毛虫とその共生藻Ⅱ

なお、2015年度の特別研究セミナーは開催しなかった。

研究交流

(1) 海外活動

1) 研究に関する国際用務

高橋啓一

- ・2015年9月6日～9月11日, モンゴル国ウランバートル市モンゴル科学アカデミー考古学研究所およびヘンティイ県ウンドゥルハーン市地域研究博物館, 科研費基盤研究(B)「北東アジアにおける最終氷期最盛期における主要樹木分類群の分布と古植生」の研究進捗のための、モンゴル国における古脊椎動物調査

楊 平

- ・2015年9月15日～9月24日, 中華人民共和国浙江省余姚市田螺山遺跡および北京市中央民族大学・中国社会科学院植物研究所ほか, 科研費新学術領域研究(研究領域提案型)「稲作と中国文明ー総合稲作文明学の新構築ー」研究調査にかかる打合せ会議および現地調査
- ・2015年11月12日～11月21日, 中華人民共和国遼寧省瀋陽市新樂遺跡博物館, 北京市中央民族大学, 江蘇省蘇州市太湖周辺ほか, 科研費基盤研究(B)「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究のモデル構築」にかかる現地調査

林 竜馬

- ・2015年10月14日～10月23日, マレーシア・サラワク州マルディ周辺, 科研費基盤研究(B)「ボルネオ島泥炭掘削: 過去4000年間の熱帯大気対流活動の復元」の中での、現地調査および泥炭堆積物試料採取作業
- ・2016年1月20日～1月25日, オーストラリア・メルボルン, 科研費若手研究(B)「日本海堆積物の花粉分析からみる森林動態に対する海洋・モンスーン変動の影響評価」にかかる国際共同研究プロジェクトの打合せ会議および成果発表

大久保実香

- ・2015年5月25日～5月30日, カナダ・エドモントン, 国際コモンズ学会第15回国際会議への参加と研究発表

榎永一宏

- ・2016年1月12日～2月1日, アメリカ合衆国, 科研費基盤研究(B)「日本の博物館総合調査研究」に伴う先進地博物館における大人を対象とした展示・学習プログラム・運営についての事例研究、現地調査
- ・2016年2月16日～3月16日, マダガスカル共和国・フランス共和国海外県マヨット・フランス共和国海外県レユニオン・モーリシャス共和国, 科研費基盤研究(C)「インド洋における海洋性双翅目昆虫の分散と進化」に伴う調査・標本収集

用田政晴

- ・2016年2月19日～2月27日，中華人民共和國雲南省昆明市，科研費基盤研究（B）（海外學術調查）「湖沼比較民俗調査を通じた国際的博物館・大学連携研究のモデル構築」に伴う水田養魚文化論資料調査

2) 事業に関する国際用務

桑原雅之

- ・2015年6月2日～6月7日，ロシア連邦イルクーツク・リストヴィヤンカ（バイカル博物館），水族展示リニューアル用務
- ・2015年6月29日～7月5日，ロシア連邦イルクーツク・リストヴィヤンカ（バイカル博物館），水族展示リニューアル用務

林 竜馬

- ・2015年6月2日～6月7日，ロシア連邦イルクーツク・リストヴィヤンカ（バイカル博物館），水族展示リニューアル用務

山本充孝

- ・2015年6月29日～7月5日，ロシア連邦イルクーツク・リストヴィヤンカ（バイカル博物館），水族展示リニューアル用務

(2) 試験研究機関の連絡活動

琵琶湖と滋賀県の環境に関する試験研究機関連絡会議は、県立の9つの試験研究機関が、相互の試験研究の円滑な推進や情報の発信を図ることを目的として設置運営している。

2015年度は、2015年10月21日に長浜ドームびわ湖環境ビジネスメッセ会場において「平成27年度 滋賀県試験研究機関研究発表会 淡海の環境～試験研究と技術開発～」を開催した。

3 新たな参加と発見ができる博物館

展示活動

(1) 常設展示の主な更新

1) A 展示室

- ・地域の人々による展示コーナー（コレクションギャラリー内）

『琵琶湖の生い立ち』展示室にあり、「琵琶湖の生い立ち」や「地盤の成り立ち」に関係する事柄で、琵琶湖地域のおもしろさや、展示する人の想いや興味が伝わるような展示を目指して実施している。展示関係者による展示室での解説や交流を不定期に開催している。

1. 「私と化石、10年の足跡」

期間：2015年2月17日～2015年10月4日

展示した人：橋本重四郎さん・橋本悦子さん

2. 「近江マグマの雫とおくりもの展」

期間：2015年10月6日～（未定）

展示した人：福井龍幸さん・小谷富士夫さん

- ・地域の人々による展示コーナーの展示交流

展示に合わせて、展示コーナー前での標本採集や調査の話や、標本の解説・標本を触る体験など、展示している方やその関係者による展示交流を実施した。

2015年12月6日、交流した人：福井龍幸さん、小谷富士夫さん、飯村 強さん

2015年12月27日、交流した人：田中光徳さん、田中節子さん

2016年3月27日、交流した人：福井龍幸さん、小谷富士夫さん

- ・最近寄贈された標本

コレクションギャラリーのコーナーの一角にある展示で、寄贈いただいた標本を紹介するコーナーとして行っている。

2015年4月5日：県内産鉱物標本 4点

2016年3月24日：石川県産鉱物標本 3点、南極の岩石 1点

2) B 展示室

- ・収蔵資料展示「収蔵庫をのぞいてみよう！」

博物館の収蔵庫で大切に保管している琵琶湖地域関連の古い文書や絵図などを、B 展示室奥の壁面展示ケースで順番に紹介している。2015年度の展示は次の通り。

期間	展示資料名
4月21日（火）～5月24日（日）	大正十五年『マラリヤ』患者調査票 江州高嶋郡海津東町・中村町・中小路町寺社改覚 近江国蒲生郡上南村宗門御改帳、信楽御役所方博奕御察渡請書扣
5月26日（火）～6月28日（日）	湖水蒸汽船 金亀丸之図、無根水会書類 淡海録 卷三、指上申一札之事
6月30日（火）～8月2日（日）	日本書紀 卷二十九、近江郷村町名 伊勢参宮名所図会 卷一、延喜式 卷五
8月4日（火）～9月6日（日） <テーマ> 企画展示関連展示Ⅰ 琵琶湖誕生ー地層にねむる7つの謎ー	雲根志 前編卷之三、近江名所図会 卷二 淡海録 卷一、近江国琵琶湖淡水魚絵巻

期間	展示資料名
9月8日(火)～10月25日(日) ＜テーマ＞ 企画展示関連展示Ⅱ 琵琶湖誕生―地層にねむる7つの謎―	滋賀県管内全図、和名類聚抄 卷十九 和漢三才図会 卷三十八、詠象詩
10月27日(火)～11月15日(日)	宇治・瀬田川・湖南図巻、延喜式 卷十 近江名所図会 卷四、近江商人事績写真帖 上巻
11月17日(火)～2016年2月7日(日)	『木村忠兵衛家文書』より、大教院開筵・正法寺開帳寄附帖之写 家別御改帳、墓掌日長氏覚書之写、御依頼書
3月15日(火)～4月17日(日)	和漢三才図会 卷四十、近江名所図会 卷一 伊勢参宮名所図会 附録卷二、近江国阪田郡筑摩神社祭礼行列図

3) C 展示室

展示リニューアルの検討を行ってきた。2015年11月9日より閉室して工事を行っており、2016年7月14日にオープンする予定である。

4) 水族展示室

展示リニューアルの検討を行ってきた。2015年9月1日より閉室して工事を行っており、2016年7月14日にオープンする予定である。

5) ディスカバリールーム

季節に合わせた展示物の入れ替えを下記の期間で行った。今年度も引き続き常設展示の老朽化による展示物の更新、展示内容の変更を行った。また、第2期リニューアルに向けた基本設計にあたり、ディスカバリールームワーキングを作り、リニューアルの方針および展示項目案を整理した。展示項目案の参考にするため、2015年5月12日～24日に「ディスカバリールームお気に入り展示」アンケートを実施した。

＜常設展示＞

- ・「いきものつながり」コーナー：歯車の新規製作およびサイズ変更
- ・「人形げきじょう」コーナー：ブラックバス2、コウモリ2、アマガエルの人形5体を新規製作
- ・出入口扉およびおばあちゃんの台所コーナーの看板製作
- ・クールライフキャンペーン対応の来館者(保護者)向け利用案内の設置
- ・「ディスカバのひみつを探せ」シート6種の作成

＜季節展示＞

展示場所	展示内容	展示期間
音のへや	アフリカの楽器	4月8日～7月11日
	南米の楽器	7月12日～12月2日
	日本の楽器	12月3日～2016年3月31日
おばあちゃんの台所	春 version	4月2日～6月5日
	こどもの日	4月21日～5月5日
	夏 version①	6月6日～8月8日
	七夕	6月23日～7月7日
	夏 version②	8月9日～8月31日
	秋 version	9月5日～12月1日
	お月見	9月19日～9月27日
	冬 version	12月2日～2016年3月3日
	冬至	12月19日～22日

展示場所	展示内容	展示期間
おばあちゃんの台所	お正月	2016年1月2日～1月15日
	節分	1月23日～2月3日
	ひな祭り	2月21日～3月3日
	春 version	3月4日～3月31日
ブックコーナー	春 version	4月1日～6月5日
	夏 version	6月6日～8月31日
	秋 version	9月5日～11月10日
	冬 version	11月11日～2016年2月28日
	春 version	3月1日～3月31日
石の下／水の中	春 version	4月2日～6月16日
	初夏 version	6月17日～7月11日
	夏 version	7月12日～8月31日
	初秋 version	9月5日～10月1日
	秋 version①	10月2日～11月1日
	秋 version②	11月3日～12月1日
	冬 version	12月2日～2016年3月1日
	春 version	3月2日～3月31日
人形劇	春 version	4月3日～6月26日
	夏 version①	6月27日～8月31日
	夏 version②	9月5日～10月2日
	秋 version	10月3日～12月1日
	冬 version	12月2日～2016年3月22日
	春 version	2月2日～3月31日
ディスカバリーカウンター (生きものの展示)	ナマズ	常設
	アカハライモリ	常設
	カイコ	6月23日～8月31日
	ヒラタクワガタ	7月26日～3月31日
	ノコギリクワガタ	8月21日～12月19日
	アカアシクワガタ	7月26日～2016年2月4日
	ミヤマクワガタ①	7月26日～10月4日
	ミヤマクワガタ②	7月26日～8月20日

6) 屋外展示

- ・「はしかけ」さんによる樹木解説板の設置

はしかけ事業の一環として、屋外展示の有効活用を目指したはしかカフェを年11回開催し、その中で出た意見を基にした屋外展示の樹木解説板を作成した。3月のはしかけ登録講座後に樹木の解説ガイドツアーを実施し、あわせて樹木解説板を8カ所に設置した。

7) その他

- ・アール・ブリュット展示替え

滋賀県の「ふらっと美の間事業」の一環として、A展示室とB展示室の間の空間で展示している。2015年1月20日より展示していたアール・ブリュット作品4点のうち1作品を3月27日に撤収し、5月13日より別の1作品を展示した。2015年9月28日にそれまで展示していた作品を撤収し、新作品を同日より展示した。

(2) 企画展示・水族企画展示

1) 第23回企画展示「琵琶湖誕生—地層にねむる7つの謎—」

① 主旨

400 万年以上にわたる琵琶湖の生い立ちについては、これまで行われてきた多くの研究の進展によって様々なことが明らかにされてきた。その結果、現在私たちがみることのできる琵琶湖が、どのような環境変化を経てきたのか、そのイメージができるようになった。その成果は、現在の琵琶湖博物館の常設展示でも提示されている。しかしながら、生い立ちについて大まかなイメージが明らかにされることによって、まだわかっていないことが明確になると共に、より謎が深まってきたともいえる。

この企画展示では、現在知られている琵琶湖の生い立ちのイメージを示すと共に、まだ知り得ない琵琶湖の生い立ちに係る謎を、仮説も含めて紹介することによって、琵琶湖の不思議さや知ることのおもしろさを伝え、来場者に琵琶湖の価値の再発見を促す。

② 概要

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

期 間：2015年7月18日(土)～11月23日(月・祝) *実質開催日数115日

場 所：琵琶湖博物館 企画展示室

観覧料金：小中学生100円(80円)、高・大学生160円(120円)、大人200円(160円)

() 内は20名以上の団体料金)

観覧者数：73,956人

展示製作：里口保文(主担当)、林 竜馬(副担当)、高橋啓一(動物化石担当)、山川千代美(植物化石担当)、谷川真紀(展示パネルデザイン・キャラクターデザイン)

展示施行：株式会社本庄

展示協力：飯村 強(湖国もぐらの会)、井内美郎(早稲田大学)、岡村喜明(滋賀県足跡化石研究会)、古田悟郎(株式会社海洋堂)、北田 稔(伊賀盆地化石研究会)、竹村恵二(京都大学)、渡辺勝敏(京都大学)、大塚泰介(以下、琵琶湖博物館)、楠岡 泰、松田征也、八尋克郎、ロビンJ.スミス、大阪市立自然史博物館、津市立真野小学校、京都市青少年科学センター、甲賀市みなくち子どもの森自然館、滋賀県教育委員会、高島市教育委員会、多賀町立博物館、福岡管区气象台(鹿児島地方气象台)

解説書執筆：里口保文、高橋啓一、林 竜馬、山川千代美、谷川真紀

③ 展示内容

広いだけでなく日本一古く、世界でも有数の古い湖である琵琶湖について、その誕生と長い生い立ち、環境の変化、固有種がいること、現在の日本にはいない生き物がいたこと、移動してきた湖、など、まだ明らかにされていない大きな謎とされる代表的な7つを展示ストーリーの軸にすえて、現在までの研究で明らかにされたことを、豊富な化石と地層標本の展示で紹介。展示資料点数 約300点。

・) 謎のはじまり 琵琶湖の時間

琵琶湖の生い立ちを考える上での、時間的長さ(スケール)がどういう時間なのかについて、琵琶湖周辺に人が暮らし始めた時代との比較から紹介。

・) 第一の謎 存在しつづける湖 ～なぜ何十万年も湖でいられるのか?～

琵琶湖が四十万年前からあること、南湖地域では100万年前からあることなどの紹介をもとに、なぜそれだけ長い間湖であり続けられたのか?の謎に迫る。

・) 第二の謎 固有種 ～なぜここにしかない生き物がいるのか?～

琵琶湖にしかない生き物がいる不思議さを紹介。

・) 第三の謎 川だった湖 ～なぜ広い湖が消えたのか?～

琵琶湖の生い立ちの中で、広く安定した湖がなかった時代がどんな時代だったのか?なぜ、湖はなくなったのか?現在の琵琶湖固有種の起源が川の時代より前にあることはどう考えればいいのか?など、いくつかの謎とその仮説を紹介。

・) 第四の謎 絶滅した生きもの ～なぜゾウやワニはいなくなったのか?～

古琵琶湖層や他地域の同時代の地層から産出する化石を中心に、今の日本にはいない生き物と、生き物の絶滅が自然界では普通に起こっていること、なぜそのような生き物がいることができたのか?なぜいなくなったのか?について紹介。

・) 第五の謎 火山灰層 ～なぜ琵琶湖に火山灰が降ったのか?～

琵琶湖周辺には火山はないが、たくさんの火山灰層が地層中にみることができることから、火山灰層の不思議や生活の利用なども含めて紹介。

・) 第六の謎 はじめの湖 ～なぜ大きな湖の生き物がいるのか?～

もっともはじめの古琵琶湖とされる大山田湖がどのような湖だったと考えられているかの紹介。

・) 第七の謎 移動する湖 ～なぜ移動するのか?～

琵琶湖が移動する湖とされていることについて、現在考えられている移動のメカニズムを紹介。

④ 印刷物

展示解説書	B5 サイズ 71 ページ 総カラーページ 2,000 部 7月18日発行
	県内図書館等 450 部配布 販売価格 250 円
企画展示ポスター	A1 サイズ 表カラー 1,000 枚 6月18日発行
企画展示チラシ	A4 サイズ 表カラー・裏単色 50,000 枚 6月18日発行

⑤ 博物館・地域との連携

展示においては、これまで展示や交流活動と一緒に活動を行ってきた滋賀県足跡化石研究会や湖国もぐらの会の方、大津市立真野小学校をはじめとする地域の方や、大阪市立自然史博物館、京都青少年科学センター、甲賀市みなくち子どもの森自然館、多賀町立博物館などの博物館から展示資料の借用を行った。とくに、京都青少年科学センターと多賀町立博物館からは、通常は常設展示で展示されているメインとなる展示標本を借用させていただいた。

展示関連の事業としては、伊賀盆地化石研究会や滋賀県足跡化石研究会、湖国もぐらの会の方と関連観察会を企画・実施し、滋賀県立陶芸の森/世界にひとつの宝物づくり実行委員会との共催で「願いを込めたタヌキをつくろう」を実施した。

⑥ 関連事業

○プレ展示

企画展示を紹介する展示として、企画展示開催前の春休み時期に実施した。

「平成 27 年度琵琶湖誕生」関連ミニ展示。企画展示室にて、3月28日～4月19日開催、観覧無料。

○オープニングセレモニー

7月18日(土)。展示に協力いただいた方を招いて、館長挨拶、来賓の挨拶、担当学芸員による紹介、テープカットを行った。その後、担当学芸職員による展示の案内を実施。

○関連イベント

8月29日(土)、「願いを込めたタヌキをつくろう」。滋賀県立陶芸の森/世界にひとつの宝物づくり実行委員会との共催で、13時30分～15時に博物館実習室2にて実施。

○関連観察会

5月24日(日)「360万年前の化石観察会」。伊賀盆地化石研究会の協力で、三重県伊賀市にて実施。

8月23日(日)「230万年前の地層観察会」。みなくち子どもの森自然館の協力で、甲賀市のみなくち子どもの森にて実施。

10月11日(日)「260万年前の化石観察会」。滋賀県足跡化石研究会の協力で、湖南市の野洲川河床にて実施。

10月24日(土)「琵琶湖の湖底を探検」。琵琶湖博物館実習室・企画展示室にて実施。

○関連ディスカバリールームイベント

「ディスカバリーボックス だれの足あと？」期間中の土・日曜日に開催。

「化石スケッチ」期間中の土・日曜日に開催。

○関連体験プログラム

6月13日(土)「偏光☆万華鏡をつくろう」

9月12日(土)「化石のレプリカづくり」

10月10日(土)「植物化石を掘だそう」

○来場者5万人達成式典

9月21日に来場された方が5万人目となり、浅見副館長の挨拶、展示解説書およびミュージアムショップ「おいでや」とミュージアムレストラン「にほのうみ」より提供いただいた記念品の贈呈などの式典を行った。

○オリジナル缶バッチプレゼント

11月の土・日曜日および最終日に、各日50名限定先着順で、オリジナル缶バッチのプレゼントを行った。

⑦ 取材対応

2015年7月23日取材、京都新聞、企画展示の開催。

2015年7月21日取材、琵琶湖放送「テレビ滋賀プラスワン夏休みスペシャルうおーたんのわくわくこども体験隊～琵琶湖博物館で不思議を探そう!～」、企画展示の紹介、2015年8月1日放送。

2015年7月28日取材、琵琶湖放送「知ったかぶりカイツブリニュース」、企画展示の紹介、2015年8月10日放送。

2015年8月9日取材、毎日新聞 OH!Me、企画展示の紹介、2015年9月。

2015年9月21日取材、中日新聞、企画展示5万人目来館。

⑧ 目標達成度

当初の目標は、来場者数歴代トップ(8万人以上)であったが、残念ながら目標には到達できなかった。しかし、歴代2位の来場者数(73,956人)であり、現在の企画展示のあり方になったここ7年のうちでは最多で、博物館全体の来館者数に対する来場率も最高(37.2%)であった。また、展示期間中に行ったアンケート調査では、地層や火山灰層に興味をもった方が、大型化石標本に次いで多く、琵琶湖の生い立ちについて重要な地層について関心を持ってもらい、古琵琶湖層について知ってもらおうという目的は達成できたといえる。これは展示としては地味でインパクトが弱い地層というテーマでも、展示の方法や広報に工夫をすることで、興味や理解が得られることがわかった例となった。



企画展示仕様になった博物館入り口の扉



企画展示室入り口



企画展示室中央



記念撮影コーナー（発掘調査イメージ）

2) 第28回水族企画展示「琵琶湖固有の魚たちーびわ湖にしかない魚たちのあれやこれやー」

① 主旨

誕生してから400万年もの歴史のある琵琶湖には、湖内に複雑で多様な環境が存在したこともあり、琵琶湖固有の生物が多数生息している。現在、魚類では16種もの固有種（亜種を含む）が知られており、これほど多くの固有種が生息する湖は日本には他になく、琵琶湖の生物相を語る上できわめて重要な特徴といえる。

本展では、魚の固有種に焦点をあて、湖内での生息状況のほか、固有種にまつわる不思議を紹介する。また、固有種は湖の幸として私たち人間に古くから利用されてきたことから、固有種をとる漁法と湖魚の料理を併せて紹介する。

② 概要

主 催：滋賀県立琵琶湖博物館

期 間：2015年7月18日（土）～8月31日（月）

場 所：琵琶湖博物館 水族企画展示室

入場者数：62,819人（赤外線カウンターによる人数）

展示担当：松田征也・山本充孝・川瀬成吾（特別研究員）・水族飼育員

展示協力：戸田 孝・大久保実香

パネルデザイン：出口武洋

③ 展示内容

・) 水槽による水生生物の展示

ビワマス、ゲンゴロウブナ、ニゴロブナ、ビワヒガイ、アブラヒガイ、ワタカ、スゴモロコ、ホンモロコ、ヨドゼゼラ、オオガタスジシマドジョウ、ビワコガタス、ジシマドジョウ、イトコナマズ、ビワコオオナマズ、ウツセミカジカ、イサザ、ビワヨシノボリ（16種150点）

・) パネル・レプリカによる展示

1 固有種についてのあれやこれや（パネル展示）

固有種はいつからいるの!?
 魚の名前 あれや これや!
 琵琶湖のスペシャリスト ホンモロコ
 コスモポリタンな魚!? ゲンゴロウブナ
 琵琶湖を巧みに利用する魚!? ビワヒガイ
 ヒガイを漢字で書くと?
 ワタカは福井県の三方五湖にもいた?
 奈良県ではワタガが天然記念物!
 ビワマスが琵琶湖内にすめる理由?
 本当に琵琶湖にいるの!?!ヨドゼゼラ
 固有種をとる漁法
 湖魚料理
 琵琶湖固有の魚 全16種

2 固有種の料理 (レプリカ展示)

イサザ豆 ビワマスの塩焼き ビワマスの造り フナズシ

④ 展示風景



(3) ギャラリー展示・トピック展示等

1) ギャラリー展示

① 2015年度企画展示 琵琶湖誕生 関連ミニ展示

期間：2015年3月28日(土)～4月19日(日)

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：7月から開催する琵琶湖の生立ちの謎に関する企画展示を、先取りして展示予定の物を展示することで、企画展示への期待感を持っていただくとした展示。古琵琶湖にいた生き物の化石や、古琵琶湖層のはぎ取り標本などを展示した。

② 琵琶湖フォトコンテスト作品展「～伊藤園 お茶で琵琶湖を美しく。～」

期間：2015年4月28日（火）～5月31日（日）

主催：伊藤園 / 滋賀県琵琶湖政策課 / 琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：伊藤園が行っているさまざまな琵琶湖環境保全に関わる活動の一つである「お茶で琵琶湖を美しく。」キャンペーンに関連して、2015年度には「琵琶湖の自然」と「あなたの街の身近な自然」をテーマにフォトコンテストが行われた。その優秀作品の展示を伊藤園と県琵琶湖政策課との共催で展示を行った。初日の4月28日には企画展示室前にて、伊藤園から滋賀県への寄附金の贈呈式と、コンテストの大賞を受賞されたお二人への授賞式が行われた。

③ 二十歳の琵琶湖博物館生まれ変わります (2) 水族展示室「古代湖の世界」

期間：2016年1月2日（土）～2月28日（日）

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：リニューアルの進捗展示として、バイカル湖の生き物大輸送の様子など、水族展示に関わる内容を展示した。展示資料は、バイカルアザラシの本剥製、ゴロミャンカの液浸標本、ロシアのバイカルアザラシ置物、バイカル湖地図、バイカル湖模型、バイカル湖の生きもの写真、バイカル博物館との協定証、バイカル湖の生き物輸送映像、ビワコオオナマズ剥製、ナマズ剥製、湖魚料理レプリカ、新しい展示の紹介・進捗状況の紹介パネル、参加型展示・寄付企業の紹介パネル、A・B展示室の見どころ紹介、旧C展示室の模型等。

④ 魅せます！リニューアルの舞台裏

期間：2016年3月19日（土）～4月10日（日）

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：2016年7月14日に第一期リニューアルオープンする予定の展示について、その見どころと各コーナーの内容を紹介した。また展示作りの舞台裏として、展示を作るプロセスや試作品を展示した。展示資料は、ノロ（肉食ミジンコ）全長2.5mの大型模型の原型、バイカル湖の魚到着時のビデオ、ヨシたいまつのミニチュア、魚のゆりかご水田の模型（滋賀県農村振興課所有）、展示室の模型、「おすすめの琵琶湖の風景」投稿写真など。

2) トピック展示

① 滋賀が誇る逸品展「宇宙からの贈り物 ー初の里帰り隕石展示ー」

期間：2015年7月11日（土）～8月31日（月）

主催：琵琶湖・烏丸半島魅力向上活性化協議会・琵琶湖博物館

協力：国立科学博物館

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：日本最重量の田上隕鉄は、1885年（明治18年）に大津市田上山中で発見され、1905年（明治38年）に帝国博物館（後の国立科学博物館）に買上げられた。また、1918年（大正7年）1月25日、旧浅井町および旧湖北町（現在長浜市）に飛来した田根隕石1号・2号（田根隕石・速水隕石）は京都帝国大学に買上げられ（その後速水隕石は米国へ渡る）、現在は国立科学博物館で展示されている。両隕石とも発見されてから約100年が経過し、今回滋賀が誇る逸品として、初の里帰り展示を行った。展示資料は、田上隕鉄1点、田根隕石1点（いずれも国立科学博物館所蔵）。

関連講演会：「宇宙からの贈り物」 講演者：吉川 真氏（JAXA「はやぶさ2」ミッションマネージャー）
初の里帰り隕石展示を記念して、8月8日に事前申し込み制の講演会を実施した。

② 二十歳の琵琶湖博物館生まれ変わります (1) C 展示室「生き物コレクション」

期間：2015年12月11日(金)～12月27日(日)

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：現在行っているリニューアルの様子を進捗状況も含めて紹介した。リニューアルされる新しい展示を、以前の展示室の模型と比較しながら、期待感を持っていただけるような展示を行った。展示室のコーナーごとの詳しい紹介に加えて、展示制作に参加できる参加型展示の情報や、企業からのご支援の状況なども合わせて展示した。展示資料は、新しい展示の紹介・進捗状況の紹介パネル、A・B展示室の見どころ紹介、旧 C 展示室の模型、新展示のコーナー模型、関連する資料・剥製・映像など。

③ 滋賀県から発見されたニセクビボソムシの新種

期間：2016年1月23日(土)～4月10日(日)

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：日本甲虫学会の斎藤昌弘氏によって、滋賀県から新種として記載されたニセクビボソムシ科に属する2種の標本が、昨年12月に琵琶湖博物館に寄贈されたことをうけて、新種の標本を期間限定で展示した。1種は滋賀県大津市園城寺町から見つかった新属新種で、ヨツモンシガニセクビボソムシ *Shigaderus nakagawayui*。もう1種は、*Ariotus* (ナガニセクビボソムシ属) の新種で、キバネナガニセクビボソムシ *Ariotus takedai*。

④ JA 滋賀中央会第40回「ごはん・お米とわたし」作文図画コンクールの作品展 (図画部門)

期間：2016年3月24日(木)～4月10日(日)

主催：JA 滋賀中央会、琵琶湖博物館

場所：琵琶湖博物館 アトリウム

内容：滋賀県内の小・中学校から応募された図画部門の作品、1,076点の中から選ばれた入賞作品44点を紹介した。

⑤ 修験の聖地と「なりわい」—鎌倉時代における葛川の紛争—

期間：2016年2月9日(木)～3月13日(日)

場所：琵琶湖博物館 B 展示室

内容：天台修験の道場として、現代も参籠修法が行われている葛川は、平安時代の修行僧である相応が、志古淵大明神から譲られた聖地として、多くの人々の信仰を集めた。一方、炭焼きを「なりわい」とする隣の伊香立庄は、領主である青蓮院など、首都京都の需要を背景に炭焼きを拡大し、葛川と激しい紛争を巻き起こす。今回のトピック展示では、この紛争に関わる当館所蔵の「青蓮院宮尊円入道親王令旨」を初公開し、紛争の過程で作られた彩色絵図(重文・明王院所蔵)の写真パネルとともに、葛川にまつわる館蔵資料を紹介した。

展示資料：『青蓮院宮尊円入道親王令旨』／『白高院公儀御礼等請取(青蓮院宮尊円入道親王令旨付属品)』／『途中越・伊香立越・仰木越道筋最寄村々凡籠絵図』／『淡海録 卷二』／『細見新補近江国大絵図』パネル／『葛川与伊香立庄相論絵図』写真

3) 水族展示

① 水族トピック展示

水族展示室内のふれあい体験室前または水族企画展示室前に設置した小型展示水槽を使って、常設展示では観察することの難しい水生生物を展示した。

期 間	内 容
8月4日(火)～8月31日(月)	天然記念物 アユモドキの稚魚
7月14日(火)～8月2日(日)	ミナミメダカの稚魚 (メダカ科)
6月30日(火)～7月12日(日)	絶滅危機増大種 イトモロコの稚魚
5月26日(火)～6月21日(日)	絶滅危惧種 カゼトゲタナゴの稚魚

② 守ろう アユモドキ！連携展示

期間：2015年4月21日(火)～6月14日(日)

場所：琵琶湖博物館 水族企画展示室

内容：アユモドキは琵琶湖淀川水系、岡山県と広島県内の河川などに分布するアユモドキ科の魚で、全長10～15cmになり、口ヒゲは6本ある。水田やそのまわりの水路、河川などにすみ、昔は普通にみられた魚である。しかし、生息場所の改変や、水利用の変化、魚食性の外来魚などの影響により、今では、京都府亀岡市と岡山県岡山市の一部の河川でしかみられなくなり、環境省のレッドリストでは絶滅の危険性が最も高い「絶滅危惧ⅠA類」とされている。この展示では、アユモドキの保全について考えていただく機会の一つとして、アユモドキの生息域外保全を実施または応援する水族館をはじめとした11の施設が、平成27年度に開催した。なお、(公社)日本動物園水族館協会の野生動物保護募金助成を受けて、チラシ、クリアファイルを印刷して参加施設にて配布した。

主催：守ろう アユモドキ！連携展示実行委員会（滋賀県立琵琶湖博物館、世界淡水魚園水族館、志摩マリンランド、京都水族館 宮津エネルギー研究所水族館、亀岡市文化資料館、大阪府立環境農林水産総合研究所水生生物センター、海遊館、神戸市立須磨海浜水族園、姫路市立水族館、宮島水族館）

共催：(公社)日本動物園水族館協会・生物多様性委員会

協力：環境省近畿地方環境事務所

後援：岡山市教育委員会、亀岡市教育委員会、京都府

(4) 集う・使う・創る 新空間

地域の人びとが、自分たちの行っている活動や考えなどについて、この展示室で自ら情報を発信し、来館された方々と意見を交換し、交流を深めていただくための空間として運営している。2015年度は12件の利用があり、来館者への説明やイベントなど、交流を行った。

期間	タイトル	主催者
4月1日～4月30日	みんなで調べよう！滋賀のタンポポ！！	タンポポ調査・西日本実行委員会
5月2日～5月30日	水辺の肖像展	安部 泰
6月2日～6月28日	びわ湖のトンボの自由研究展	白神宏恵
7月3日～7月5日	企業の環境保全 CSR 活動紹介	6社（ダイフク、コクヨ工業、パナソニック、伊藤園等）
7月10日～8月6日	楽しい化石採集	湖国もぐらの会
8月7日～8月31日	鉱物の楽しみ方	八日市地学趣味の会
9月1日～9月30日	びわ湖環境フェスタ2015～みんなでウォーターパラダイスへ行こう～	一般社団法人長浜商工会議所
10月1日～10月30日	はしかけグループ温故写新「温故写新な10年」	はしかけグループ温故写新
10月31日～12月13日	ブルキナファソと恵みの水	ブルキナファソを知る会
12月19日～ 2016年1月31日	15周年記念 冬の使者「コハクチョウと仲間たち」環境展～びわ湖を美しく いつまでも残したい良い環境～	環境ボランティア 草津湖岸コハクチョウを愛する会

期間	タイトル	主催者
2月2日～2月28日	まんぼの世界展	森野 秀三
3月1日～3月30日	同志社小学校「道草展」～自分とのつながりに目を向けて	同志社小学校

展示交流

(1) フロアートーク

開館以来、展示室内での交流活動の1つとして、学芸職員による展示解説「フロアートーク」を行っている。学芸職員が日替わりで担当する「質問コーナー」の当日担当学芸職員がフロアートークを行う。学芸職員は、基本的には月1回の学芸会議が行われる第3金曜日を除く開館日に、1日1回、午前11時から展示を使ってレクチャーを実施する。フロアートークの場所や内容は当日担当の学芸職員が決定し、場合によっては実施時間が変更されることがあり、玄関入口にある催し物ボードにも、当日のフロアートークの案内を掲示している。

なお、リニューアル工事に伴い10月1日～3月24日までは土曜、日曜、祝日にのみ開催した。

また、通常フロアートークとは別に7月に実施した琵琶湖博物館イベント「びわ博フェスティバル」では、アトリウムステージで学芸員がとっておきのフロアートークを開催した。

期間	2015年4月1日～2016年3月31日
実施回数	150回
総参加人数	1,682名

(2) ディスカバリールームのイベント

ディスカバリー・ルームでは、季節展示に効果を加える目的で、参加型のイベントを実施した。ザ！ディスカバはしかけ主催によるイベントも含めて13件のプログラムを実施した。今年度は、企画展示連携イベントとして、ディスカバリーボックス「だれの足あと？」と「化石スケッチ」を企画展期間中に実施し、多くの来館者が参加した。

開催日	イベント名	参加者
5月5日(火)	カブトを作ろう！	110名
4月18日(土)～5月6日(水)	みんなで「びわこいのぼり」を作ろう！	298名
5月23日(土)	ディスカバ紙芝居☆「ゲンタのたんじょうものがたり」(はしかけ主催)	48名
6月23日(火)～7月7日(火)	七夕☆短冊に願いをかこう！	約300名
6月23日(火)～8月31日(月)	みんなで「かいこ絵日記」をつくろう！	約100名
7月4日(土)	ツバキのタネで虫バッチをつくろう！ (びわはくフェス)(はしかけ主催)	83名
7月18日(土)～11月23日(月) の毎週土日(11月23日(月) は実施)	・企画展関連BOX「だれの足あと？」 ・企画展関連イベント「化石スケッチ」	多数 200名
12月13日(日)	コーヒーかすを使ってにおいとりを作ろう！(はしかけ主催)	13名
12月26日(土)	はたきを作ろう！	24名
2016年1月26日(火) ～2月3日(水)	節分☆オニのお面をつくろう！	70名
2月7日(日)	ジュズダマでお手玉を作ろう！(はしかけ主催)	13名
2月23日(火)～3月3日(木)	おひなさまをつくろう！	65名



企画展示関連イベント「化石スケッチ」



はたきを作ろう！

(3) 展示交流員と話そう

展示交流員は、展示室における 1)安全確保、2)快適な環境の提供、3)展示室での発見のサポート(展示交流)といった3つの働きをしている。特に「展示交流」は、展示室におけるコミュニケーションを通じて来館者に身近な自然や暮らしについて関心を持っていただくためには重要な要素であると考え、開館以来行われてきたものである。展示交流のいっそうの充実をはかるための手段として、今年度も「展示交流員と話そう」を実施した。展示交流員が普段の展示交流によって得られた「きっかけ」を生かし、できるだけ自然なスタイルで臨んだ。実施にあたっては、事前に各自がテーマを設定し、担当学芸員のアドバイスを受け、知識の習得、交流方法の検討、資料作成等の準備を行った。実施の方法は、用意した資料を触っていただく、自作の資料を見ていただく、複数の実施コーナーを柔軟に活用する等、テーマに即して来館者の興味を引き出す様々な工夫を行った。

期間：2015年12月1日～2016年3月31日

人数：展示交流員 20名

回数：展示室での来館者の状況により随時実施

実施内容

展示室	氏名	実施テーマ	実施展示コーナー
A	本田幸子	「咽頭歯」って??	自然史研究室
	斎藤文子	隕石にさわってみよう	コレクションギャラリー
	坂上麻里	化石は語る(ゾウ マチカネワニ)	コレクションギャラリー
	木村寿枝	化石の疑問	コレクションギャラリー
	登尾尚美	竜骨エピソード	コレクションギャラリー
	野口千春	ゾウの歯の生え替わりについて	コレクションギャラリー
B	森 みさと	琵琶湖観光パンフレット	長浜駅舎
	奥村恵子	漁具をさわってみよう	漁師の家
	井出範子	疎水を歩こう	治水・利水
	木下睦司	山の高さはどこから測る?琵琶湖の水位は?	治水・利水
	芦田弘美	明治の地図を使って昔の街道を探そう	水へのとりくみ
	林 克子	丸子船 ミニガイド	丸子船
	久保瞳美	滋賀の昔ばなし	B展示室内
	今泉美保	エリ とは	エリ模型前
	坂井麻紀	琵琶湖の伝統食	漁師の家
ディスカバリー ルーム	笹山恵里菜	きれいなヘビには毒がある?ボックス	ディスカバリーコーナー
	橘川 絢	まつぼっくりをかわいくデコレーション	ディスカバリーコーナー
	北田昌子	カヤネズミの紙フィギュアを作ろう	ディスカバリーコーナー
	國近尚子	日本のおもちゃであそぼう ボックス	ディスカバリーコーナー
	板垣真由美	アンモナイトとオウムガイ	むかしの生きもの

博物館連携

(1) 滋賀県ミュージアム活性化推進事業

文化庁の助成事業である、平成27年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業の助成を受け、滋賀県ミュージアム活性化推進委員会の加盟館として、滋賀県の歴史文化形成の基盤を形成する琵琶湖に関する文化資源の顕在化とその価値の定着化を図るためのライブミュージアム琵琶湖事業を実施した。そのなかで当館が中心となり、「市民と考える文化の歴史Ⅱ」を実施した。

1) 報告書の作成

昨年度「平成26年地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」として実施した「湖上フォーラム みんなで語る「ふなずし」の歴史」（2014年11月8日）の報告書について、秋道智彌氏、齊藤慶一氏、櫻井信也氏、日比野光敏氏、藤岡康弘氏ら7人の執筆者による報告書、滋賀県ミュージアム活性化推進委員会編『みんなで語る「ふなずし」の歴史』（2015年12月20日）を刊行した。その結果、「滋賀県の現在の「ふなずし」」は、古代の苏の形態をそのまま伝えるものではなく、「恐らく江戸時代に、近江の人たちが結桶を利用して、発酵に工夫を重ねて独自に発達させたブランド品であり、今も多様なありかたが工夫され続けている」とする研究史上画期的な成果を得ることができた。この報告書については、滋賀県内の博物館・図書館等に配布している。

2) 公開座談会の開催

次に、その成果を受けた「公開座談会 「ふなずし」の歴史が変わる」（2016年1月30日）では、石毛直道氏ら食文化や発酵についての専門家を招き、研究者ら54人の参加者の前で、報告書の結論が、課題はあるものの、研究史上大きな意義があることを確認することができた。この内容については、NHK、新聞各紙でも大きく取り上げられ、研究上の進展があったことを県民の皆さんに伝えることができた。

(2) 滋賀県博物館協議会

滋賀県博物館協議会は県内の68館(2016年3月末現在)で構成する団体である。広報、研修、記念事業の3つの委員会を持ち、ウェブによる加盟館紹介や新聞連載、年3回の研修・情報交換事業、5年に1度の記念事業などを実施している。一昨年は英語版ガイドブック、昨年は日本語版ガイドブックを発行した。

琵琶湖博物館は、開館以来、同協議会の事務局を担当し、2015年度も理事会や総会の準備・運営や全体の調整、会計などの事務を行った。

(3) 烏丸半島活性化連携事業

烏丸半島で事業を実施する施設、企業、団体等で構成する琵琶湖・烏丸半島魅力向上活性化協議会を設立し、烏丸半島の魅力向上と観光振興を図るための取組を行った。

1) 烏丸半島の魅力度アップ事業

① 烏丸半島探検ツアー

実施時期：7月～8月

内 容：探検ノートを配布し、スタンプラリーを実施。3施設で押印した参加者にオリジナルプレゼント贈呈。

- ・探検ノートの印刷、配布
- ・レンタサイクルの貸出
- ・アンケートの実施

② 烏丸半島で「滋賀の日本一」を探そう！事業

- ・ 滋賀が誇る逸品展「宇宙からの贈り物」
 - 隕石展示（田上隕石、田根隕石） 7月11日～8月31日
 - 講演会「宇宙からの贈り物」 8月8日
- ・ 「滋賀の日本一を体感」
 - 熱気球 7月24日～8月10日
 - ハスクルージング 7月18日～8月16日
- ・ 「滋賀の日本一」の情報発信
 - 「からすまいちばん」チラシ印刷、配布 5月～8月
 - 「からすまいちばん」ポスター印刷、配布 5月～8月
 - FM滋賀（20秒CM 2種類） 7月～8月
 - 無料広報
 - ・ FM草津 7月3日、31日
 - ・ 滋賀ガイドホームページ 7月～8月
 - Facebook 6月20日～
 - イベントカレンダー（ホームページで掲載） 10月～3月

4 体験と交流を促す博物館

一般利用者へのサービス

(1) 観察会・見学会等

2015年度は、博物館周辺や県内各地で行う博物館観察会等15件の事業を企画、実施した。特にリニューアルで新しくなるC展示室と水族展示室の魅力を紹介することを目的として、博物館の周辺や屋外展示、展示室を活用した体験と交流をとおして、フィールドを感じてもらえる観察会・見学会を計画的に実施した。地域での観察会・見学会については、8件全てで地域の他団体や個人と協働して実施した。また、企画展示に関連した地域での観察会を4件企画し、企画展示との連動で双方の事業を盛り上げることができた。

観察会・見学会に対する参加者の評判はおおむねよかった。各事業のタイトル、開催日、定員、参加者数等を下表に示した。

	開催日		曜日	事業名	定員	参加者数	共催関係
	月	日					
1	4	18	土	からすま半島たんぼぼ調査	20	26	はしかけタンポポ調査はしかけ
2	5	5	火	朽木の春 セラピーの森を歩こう	30	42	くつきの森
3	5	16	土	シイノキの花と森を調べよう	20	15	琵琶湖博物館フィールドレポーター
4	5	24	日	企画展関連「360万年前の化石観察会」	30	31	
5	6	21	日	滋賀の鳥たち最前線	30	19	日本野鳥の会滋賀支部
6	8	1	土	びわ湖バレイでアキアカネ調査に参加しよう	15	12	琵琶湖博物館フィールドレポーター
7	8	22	土	プランクトンでアート	20	19	成安造形大 はしかけびわたん
8	8	23	日	企画展関連「230万年前の地層の観察会」	20	17	
9	8	29	土	ヨシあーとで学ぼう！	20	11	ヨシ灯り展実行委員会
10	8	29	土	企画展関連「願いを込めたタヌキをつくろう」	30	34	滋賀県立陶芸の森／世界にひとつの宝物づくり実行委員会
11	9	26	土	50年前の暮らしを探検	40	25	
12	10	11	日	企画展関連「260万年前の化石観察会」	30	24	
13	10	11	日	「三上のずいき祭り」見学会	15	20	
14	10	24	土	琵琶湖の湖底を探検	30	16	
15	10	31	土	秋の里山 宝物をさがしにいこう	30	52	かわせみ自然の会

(2) 講座

講座は、研究部が主体となって実施する講座、学芸員が専門テーマについて解説する講座（各種講座）、教員や地域の指導者等を対象とした講座（指導者向け講座）に区分できる。

2015年度に開催した講座の実績を以下に記した。

1) 各種講座

2015年度は、以下に示した4件の事業を実施した。

	内 容	開催日	曜日	募集数	参加者	講 師
1	回転実験室で水槽実験を！	8月5・6日	水・木	40	20	戸田 孝
2	空飛ぶ花粉を見てみよう	10月25日	日	20	28	林 竜馬
3	はしかけ登録講座（全3回）	5月10日 10月25日 3月13日	日		61	大塚泰介・水谷 智
4	新琵琶湖学セミナー（全3回） （詳細は研究発信(2)P.25 参照）	1月23日 2月27日 3月26日	日	各回70	185	

2) 指導者向け講座

2015年度は2件の指導者のための博物館活用講座を開催した。

開催日	内 容	受講者数	担当者	共催・後援
6月25日	プランクトンの観察	15	楠岡 泰・岡部陽造・間所忠昌	滋賀県総合教育センター
8月19日	土壌生物の観察	16	中川 優・岡部陽造・間所忠昌	滋賀県総合教育センター

■指導者向け講座のようす



(3) 体験教室

2015年度も、昨年同様に野洲市大篠原の里山林周辺で里山体験教室を開催した。また、琵琶湖博物館の屋外展示と生活実験工房において、田んぼ体験を開催した。

1) 里山体験教室（担当：安福俊幸・草加伸吾）

「里山」という言葉は知っているが、行ったことがない。子どもの頃は野山で遊んだが久しく行ったことがない。このような里山ビギナーの方々に、里山へ訪れるきっかけとして、里山体験教室を「はしかけ里山の会」の協力により開催している。

人里の外側に広がる田畑、草原、河辺林といった里山の空間的広がりを感じてもらうために、借地している林に留まらず、各回周辺を歩いて、季節による変化や時間の連続性を感じ、四季折々の里山の表情を楽しむため年4回実施している。

参加者は、家族単位での参加がほとんどで、子どもたちの体験の機会として応募されているが熱心なのは保護者の方という場合も多い。

春は、里山を歩き、春の息吹が感じられるよう植物を中心に観察した。食べられる植物を紹介しながら、身近な草花への興味を促した。野草や木の芽のテンプレを楽しんだ。午後は、木の名札をつくった。

夏は、夏の里山遊びの王道「虫とり」を午前中楽しんだ。午後は、ロープを使ったブランコ、シーツを利

用した簡単お手軽「ハンモック」づくり、最後にススキの葉で虫をつくる「草遊び」を体験した。

秋は、里山を散策して木の実や紅葉などの「里山の秋色さがし」、午後は、木の実や枝葉を使った「モバイルづくり」、「里山林の手入れと薪づくり」を行った。

冬は、「はしかけ里山の会」のプロデュースにより、冬の里山めぐり、花炭、煙の空気砲遊びなどを楽しんだ。また、たき火料理として、汁物・焼きマシュマロを味わった。

回	開催日	内容	参加人数	担当者
1	4月19日	里山の春をみつけよう	39	安福、草加
2	7月19日	里山の夏を楽しもう	38	安福、草加
3	10月18日	里山の秋さがし	27	安福、草加
4	1月17日	冬の里山を楽しもう	41	安福、草加



春：植物観察



夏：草遊



秋：薪づくり

2) 生活実験工房 田んぼ体験

生活実験工房では年間を通して、一般の参加者とはしかけ会員を対象に、暮らしと田んぼの体験教室を実施し、4月から11月初旬までは、主に水稻栽培に関する体験を行い、11月中旬から翌年3月までは、わらなど収穫した材料や工房周辺にある材料を使った体験活動を実施している。水稻栽培では、昔ながらの苗代づくりから手作業による田植えや稲刈り、脱穀までを昔の農具を使いながら体験を行ってきた。11月の収穫祭では、収穫したモチ米を蒸し、もちつきを行い農の恵みを味わうことができた。

また、農閑期となる冬季では、工房内でしめ縄やわら細工など、わらを有効活用した手作業による体験活動を行い、農具や道具などの使い方を学び、参加者同士が協力し交流を深めながら、昔暮らしの作業体験に取り組んだ。

参加者の中には、家族で継続した参加もあり、子どもたちの成長を見ながら親と子の絆を深める機会にもなっているほか、今年度は、行事の一部を学校団体やはしかフェとの共催にて実施した。

「生活実験工房 田んぼ体験」のおもな活動

活動日	内容	参加者数
4月18日	種まき、苗代づくり	職員対応
5月17日	田植え、さなぶり	35名
6月17日	田んぼの草取り	職員対応
7月26日	昆虫採集	30名
9月13日	稲刈り（早稲品種：みずかがみ）はさ掛け	31名
10月4日	稲刈り（晩稲品種：滋賀羽二重糯）はさ掛け	21名
10月26日	脱穀、唐箕（近江八幡市立武佐小学校4年生体験学習と共催）	42名
11月15日	収穫祭	39名
12月20日	しめ縄づくり	41名

活動日	内 容	参加者数
12月 23日	門松づくり	職員対応
1月 18日	どんど焼き	職員対応
1月 30日	かきもちづくり (はしかフェと共催)	8名
2月 7日	わら細工	20名
3月 12日	一年間のふりかえり	13名



7月 昆虫採集風景



10月 稲刈り、ハサ掛け

(4) 体験学習

1) 「琵琶湖博物館わくわく探検隊 (体験学習の日)」の活動

(担当：岡部陽造、間所忠昌、黄瀬金司、小嶋陽太)

当館を訪れる小・中学生を対象に、博物館の展示室への興味や関心を高めるための体験活動を「琵琶湖博物館わくわく探検隊」として実施した。子ども向けイベントではあるが、広く来館者に体験学習を楽しんでもらえるよう保護者の付き添いのある幼児や大人のみでも参加可能とした。基本的には、第2土曜日の午後1時より受付を開始し、プログラム実施は午後1時半～3時までとした。今年度も、はしかけグループの「びわたん」を中心に企画と運営を行った。年間11回、503名の参加者があった。

回	月 日	館内の事業	参加者数
1	4月 11日	春の草花でしおりをつくろう	26
2	5月 9日	タンポポ調査にチャレンジしよう	22
3	6月 13日	偏光☆万華鏡を作ろう	42
4	7月 11日	葉っぱ模様のハンカチづくり	86
5	9月 12日	化石のレプリカづくり	82
6	10月 10日	植物化石を掘りだそう	58
7	11月 14日	秋の色さがし	33
8	12月 12日	綿に触れてみよう	33
9	1月 9日	火起こし体験	47
10	2月 13日	よし笛をつくろう	34
11	3月 12日	琵琶湖の模型をつくろう	40
			503

■わくわく探検隊のようす



2) 一般団体向け (担当：岡部陽造、間所忠昌、黄瀬金司、小嶋陽太)

子どもたちの自然や文化への興味関心を高めるとともに、親御さんの理解を深めるため、地域子ども会などの一般団体に対して体験活動を行った。

実施数	内 容
3 団体 (69 名)	ヨシ笛づくり、化石のレプリカづくり

学校連携

(1) 学校団体

団体扱いで入館した学校数・児童生徒数を以下にあげる。本年度9月より水族展示室、11月よりC展示室のリニューアル工事が開始され、特に、県内外ともに秋以降の小学校および特別支援学校における来館が減少した。一方、一昨年度まで減少傾向であった高等学校における利用については、当館が全国高等学校総合文化祭の会場となったこともあり、昨年度の準備段階から今年度にかけて増加が見られた。来年度7月14日(木)のリニューアルオープンを機に、県内外を問わず各校種の利用増加が期待される。校外学習にあてる時間数確保が難しい学校現状ではあるが、新展示だけでなく既存のA・B展示を活かした魅力ある学習プログラム(体験学習・サポートシートなど)が提供できるようにしていきたい。

1) 学校団体の受け入れ (担当：岡部陽造、間所忠昌、黄瀬金司、小嶋陽太、草加伸吾)

地域	校 種	入館学校団体数			入館児童生徒数		
		H26 年度	今年度	増減	H26 年度	今年度	増減
県内	小学校	181	108	-73	11,644	7,920	-3,724
	中学校	19	20	1	1,775	1,890	115
	高等学校	30	17	-13	1,580	1,206	-374
	特別支援学校	13	7	-6	190	200	10
	大学など	5	12	7	197	708	511
	合 計	248	164	-84	15,386	11,924	-3,462
県外	小学校	221	127	-94	19,318	11,343	-7,975
	中学校	69	66	-3	10,159	8,996	-1,163
	高等学校	32	36	4	3,141	3,495	354
	特別支援学校	13	7	-6	369	245	-124
	大学など	43	42	-1	1,520	1,919	399
	合 計	378	278	-100	34,507	25,998	-8,509
総合計		626	442	-184	49,893	37,922	-11,971

2) 学校団体向け体験学習（担当：岡部陽造、間所忠昌、黄瀬金司、小嶋陽太）

リニューアル工事にともない来館学校数の減少が顕著だったものの、体験学習を希望する学校数はそれほど減少しなかった。博物館の見学が各校の教育カリキュラムに寄り添ったものとなるよう事前の聞き取りを十分に行い、体験学習の実施方法を工夫することで、学校からの要望だけでなく博物館の意向も各種体験活動に反映させることができた。実習室・セミナー室・生活実験工房などを利用して行った今年度の体験学習を下記に挙げる。

また昨年度と同様に、展示見学学習を支援する「サポートシート」の利用を、教員研修や下見受付を通して、学校へ呼びかけた。ダウンロードにも対応している。

校 種	主 な 活 動 内 容
小学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖の生き物、博物館の展示についてなど）、化石のレプリカづくり、ヨシ笛づくり、プランクトンの採集と観察、昔くらし体験（足踏み脱穀、石臼、手押しポンプ、綿繰り）、生活実験工房の施設見学、シジミのストラップづくり、質問対応
中学校	講義（琵琶湖と環境、琵琶湖条例ができるまで、琵琶湖総合開発、博物館の展示についてなど）、プランクトン採集と観察、ヨシ笛づくり、外来魚の解剖、化石のレプリカづくり、質問対応
高等学校	講義（琵琶湖と環境、博物館の展示についてなど）、プランクトンの採集と観察、化石のレプリカづくり、外来魚の解剖実習、火山灰の観察実習、植物化石実習、課題研究、質問対応
特別支援学校	化石のレプリカづくり

■体験学習実施数

校 種	県 内		県 外		合 計	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	42	2,711	33	2,494	75	5,205
中学校	12	1,576	12	1,669	24	3,245
高等学校	6	253	10	860	16	1,113
特別支援学校	2	56	0	0	2	56
大学など	1	44	1	32	2	76
合 計	63	4,640	56	5,055	119	9,695

■体験学習のようす



3) ミュージアムスクールの運営 (担当：間所忠昌、岡部陽造)

2015年度は立命館守山中学校を受け入れた。

立命館守山中学校「琵琶湖学習」の取り組み

1年生162名が参加し、3回の展示見学と学芸員の講義を通して、琵琶湖や滋賀のことについて学習を深めた。特に、課題解決型学習を進めるにあたってのポイントを学芸員から直接指導を受け、データやグラフの読み取りや分析など研究手法を学ぶ機会となった。

① 2015年5月23日(土) 琵琶湖博物館

- ・9:40~10:40 講義「琵琶湖の概要、琵琶湖博物館の概要」(間所)：ホール
- ・10:40~11:50 常設展示見学

② 2015年6月27日(土) 琵琶湖博物館

- ・9:45~11:15 常設展示見学

■夏休み…展示見学と講義から琵琶湖について特に興味を持ったことがらについて、各自が夏休み課題としてレポートにまとめる。

③ 2015年9月26日(土) 琵琶湖博物館

- ・9:40~10:40 講義「問題解決へのアプローチの方法」(八尋)：ホール
- ・10:45~11:50 常設展示および企画展示見学

④ 2016年2月6日(土) 琵琶湖博物館

- ・9:40~11:30 班ごとのテーマに合わせて各交流ゾーンで中間発表会
高橋・楠岡・松田・渡部・間所にコメントをもらう

⑤ 2016年2月20日(土) 立命館守山中学校

- ・学習発表会
- ・学芸員のアドバイスをもとに仕上げたものを保護者向けに発表。
- ・琵琶湖学習発表会(立命館守山中学校メディアホール) 審査・講評(間所)

■ミュージアムスクールのようす



4) 自然調査ゼミナール (担当：間所忠昌、岡部陽造)

自然調査ゼミナールは、滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育研究委員会に所属する教員が中心となり、中学生が自然調査を通して複雑な自然を知り深く理解することを目的として、1977年より開催されている自然観察研修会である。1997年からは琵琶湖博物館を会場として開催してきた。昨年度と同様に主催：琵琶湖博物館、共催：滋賀県中学校教育研究会理科部会、後援：滋賀県教育委員会で行った。中学生58名、教員28名が参加した。中学生たちは学芸員のアドバイスを受け、地域の自然を調査し、ホールにて結果をグループごとに発表した。

① 期日 2015年8月4日（火）～8月5日（水）

② 内容

昼の部		夜の部	
9:40～10:00	受 付	19:30～22:00	夜のコース別活動
10:00～10:30	開講式・オリエンテーション		びわたんワークショップ（偏光）、
10:40～15:00	班別調査活動（昼食含む）		水族探検、昆虫探検、星空観察
15:15～16:00	調査結果まとめ	22:30～	就寝（水族展示室にて）
16:00～17:30	調査報告会	6:30～7:30	起床・朝の生物観察（ほ乳類班）
17:30～18:30	企画展示室見学・休憩	7:30～8:00	朝食・アンケート記入

■昼の部班別テーマ

調査班	テーマ	学芸員	生徒数	教員数
地球物理班	回転実験室でコリオリの力を調べよう	戸田 孝	10	3
水草班	採取や種類分けを通して水草の生態を調べよう	芦谷美奈子	9	4
ほ乳類班	巢の調査や映像資料からほ乳類の生態を調べよう	澤邊久美子	10	3
プランクトン班	琵琶湖のプランクトンについて、分類方法と特徴について調べよう	楠岡 泰	9	4
魚類班	琵琶湖にいる魚の解剖を通して、魚の生態を調べよう	松田征也	10	5
貝類班	貝の採集や解剖を通して、貝の生態を調べよう	松田征也	10	3

■夜の部

活 動	担 当
ワークショップ「偏光☆万華鏡」	里口保文、びわたん、中学校教員
夜の水族展示探検	間所忠昌、中学校教員
夜の昆虫観察	金尾滋史、岡部陽造
天体観測	岡部陽造、中学校教員

■自然調査ゼミナールのようす



5) 職場体験実習受け入れ（担当：間所忠昌、岡部陽造）

2015年度は草津市立新堂中2年生3名を受け入れた。中学校が設定している5日間のうち、休館日（月曜日）を除いた火～金曜日の4日間で実施した。

月日	体験内容	担当職員
11月10日(火)	博物館の概要、外来魚の調達、外来魚の解剖補助	間所、黄瀬、小嶋
11月11日(水)	生活実験工房の作業(薪割り)、工房見学の準備、昔の道具について学習、ヨシ・シジミストラップ材料準備	間所、岡部、黄瀬、小嶋、水谷、中川
11月12日(木)	化石のレプリカ体験学習の準備及び補助、工房ガイドのリハーサル、工房見学のガイド、ヨシ笛・化石レプリカ材料準備	間所、岡部、黄瀬、小嶋、水谷
11月13日(金)	ヨシ・シジミストラップ材料準備、火起こし体験、外来魚の調達、わくわく探検隊の準備	間所、岡部、黄瀬、小嶋、草加、水谷

■職場体験のようす



6) 2015 滋賀びわこ総文 (担当：間所忠昌、岡部陽造)

2015年7月28日(火)から8月1日(土)に、滋賀県において第39回全国高等学校総合文化祭「2015 滋賀びわこ総文」が開催された。琵琶湖博物館は産業部門と自然科学部門の会場となり、県内外の高校生たちが多数来館した。

① 日程

7月29日(水)	産業部門 前日準備・リハーサル
7月30日(木)	産業部門 大会1日目
7月31日(金)	産業部門 大会2日目
8月1日(土)	自然科学部門 巡検、体験活動(植物化石、プランクトン観察、外来魚解剖)等

② 活動内容

産業部門	各校の実践報告(会議室、セミナー室)、草木染めや木工アクセサリー体験(実習室) アドベリークッキーなどの物販(ホール前)
自然科学部門	植物化石のクリーニング体験(セミナー室)、プランクトンの観察(実習室1)、外来魚の解剖(実習室2)、展示ガイド(A展示室、C展示室、水族展示室)、学芸員の講義(ホール)

③ 総文スタッフの動員数

	県内高校生	県内教員	県外高校生	県外教員
7月29日	5	54	3	3
7月30日	99	61	3	5
7月31日	96	48	2	8
8月1日	129	47	211	78
述べ人数	329	210	219	94

■会場のようす



(2) 教育指導者等研修 (担当：岡部陽造、間所忠昌)

1) 教職員研修

本年度も学校などへの出張講座、県総合教育センターなどと連携した講座、各地の理科教育研究会からの依頼を受けた研修など多岐にわたり、691名の受講があった。今年度も滋賀大学のCST(コア・サイエンス・ティーチャー)事業に参加している関係で、博物館の教員が出張で講座をさせていただく機会があった。

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
6月18日	木	高島市小学校教育研究会理科部会研修会	12	高島市小学校教育研究会理科部会
6月25日	木	指導者のための博物館活用講座	15	滋賀県総合教育センター
7月3日	金	愛知県私学協会理科研究会	20	愛知県私学協会理科研究会
7月27日	月	三泗小学校理科教育研究協議会	30	三泗小学校理科教育研究協議会
8月6日	木	滋賀県小学校教育研究会理科部会研究委員総会	30	滋賀県小学校教育研究会理科部会
8月7日	金	滋賀県環境教育研究協議会	125	滋賀県教育委員会
8月10日	月	滋賀県小中学校教育研究会栗東支部夏季研修会	8	滋賀県栗東市立小学校理科部会
8月19日	水	指導者のための博物館活用講座	16	滋賀県総合教育センター
8月25日	火	滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育委員会研修会	18	滋賀県中学校教育研究会理科部会 環境教育委員会
11月6日	金	彦根市立若葉小学校	2	彦根市立若葉小学校
11月17日	火	初任者研修	41	滋賀県総合教育センター
11月18日	水	校内研究会(4年生理科授業)	20	守山市立立入が丘小学校
11月19日	木	初任者研修	44	滋賀県総合教育センター
11月24日	火	初任者研修	42	滋賀県総合教育センター
11月26日	木	初任者研修	37	滋賀県総合教育センター
11月28日	土	滋賀の教師塾	156	滋賀県教育委員会
1月27日	水	校内研究会(5年生理科授業)	20	守山市立立入が丘小学校

実施日	曜日	講座名	受講者数	共催・後援
2月 5日	金	滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育委員会研修会	10	滋賀県中学校教育研究会理科部会環境教育委員会
2月 21日	日	プール学院高等学校(大阪)	8	プール学院高等学校(大阪)
2月 27日	土	フラスコ会総会	37	滋賀大学教育学部化学教室理科教育研究会
合 計			691	

■滋賀の教師塾の様様



2) その他の視察研修 (担当：岡部陽造、間所忠昌)

2015年度に受け入れた学校連携・教育普及活動に関する視察は、合計5件45名であった。

月日	研修	人数
7月 8日	タイ博物館から	2
8月 11日	岩崎一彰氏	4
11月 8日	九州国立博物館	6
11月 28日	さくらサイエンスプラン交流事業(中国湖南省からの視察)	11
1月 23日	京都文化博物館	22

(3) サテライト博物館事業 (担当：岡部陽造、水谷 智、間所忠昌)

2007年度から始まった学校サテライト博物館事業は、中長期目標「地域だれでも・どこでも博物館」を具現化するため、学校に限らず、地域の公民館等にも展開していく方向性を持って、サテライト博物館事業と名称を変更して取り組んできた。設置を希望される地域の方が運営主体となり、学校と博物館をつないでいただくこと、自己運営できることを事業目的としてきた。

過去、長浜市・高島市・甲賀市などの遠方の地域と博物館をつなぐ役割を果たしてきたが、短期間の展示ニーズが増えてきたことや長年活用してきた展示キットの老朽化などを理由に、一昨年度から続く高月駅前の田園空間博物館総合案内所、高月小学校・富永小学校での開催を最後に、移動博物館に統合することとなった。利用できる展示パネル等については、県内公立学校へ貸与し、学校現場での再利用を図っている。

企業連携

2016年に予定している当館のリニューアル展示をはじめ、今後の博物館の運営を継続させていくためには、企業との連携は欠かせないものの1つである。博物館は企業が行う研修や社会貢献活動を通じて、参加者に博物館の理念である湖・自然と人間のよりよい関係を考える機会を提供し、また学術的な観点から正しい認識を伝えていく必要がある。また、外部資金を獲得する方法のひとつと位置づけ、企業連携の強化を図った。

今年度としては、次のような連携事業を展開した。

4月14日：成安造形大学

成安造形大学と滋賀県立琵琶湖博物館との連携協力に関する協定書の調印式

7月18日～8月23日：東急ハンズ心齋橋店ほか6店

琵琶湖博物館の移動博物館の開催

7月25日：日本生命保険相互会社

「ニッセイ『森の探検隊』」の開催

研修・実習

(1) 国際交流

1) JICA 博物館とコミュニティ開発コースの実施

国際協力機構（JICA）からの委託事業として、国立民族学博物館と共催で「博物館とコミュニティ開発コース（Museum and Community Development Course）」（2015年度～2019年度）として外国籍の博物館等職員を対象に集団研修を実施した。この研修は、新規事業としてコミュニティ開発に重点を置くように内容を見直した初年度にあたる。国立民族学博物館が事務局となり、当館は運営委員2名と専門委員1名が運営に関わった。今年度の研修は、10月1日から12月18日に、8カ国（アルメニア、エジプト、パレスチナ、ミャンマー、フィジー、ペルー、セーシェル、ヨルダン）から計10名の研修員が参加した。当館は、技術研修として10月13日～18日までの6日間のプログラムを実施した。また、中越・東京研修や広島・直島研修にも各1名が随行した。なお、1名が家族の病気のため、数日早く帰国した。

なお、この研修は、JICAが1994年から博物館運営に関する基礎技術を習得する「博物館技術コース」として開設し22年にわたり行われている。当館は地域連携に係わる部分で2004年度から協力している。

① 研修員 計10名

グカシヤン ヴァハゲン（Ghukasyan Vahagn）

アルメニア マリアム&エラスヒ・アスラマジアン姉妹ギャラリー

アブデルラハマン オスマン マスード エルサイエド（Abdelrahman Othman Masoud Elsayed）

エジプト 国立エジプト文明博物館

モハメド イمام アブダラ イمام（Mohamed Emam Abdallah Emam）

エジプト 大エジプト博物館

コロ ヴィカ ナイオヴィ（Koro Vika Naiovi）

フィジー フィジー博物館

ツタニ ジェイスン（Tutani Jason）

フィジー シガトカ砂丘国立公園博物館ギャラリー

エイ ティダ ウ（Aye Thidar Oo）

ミャンマー ヤンゴン国立博物館

カリオン アルバン ロサンジェラ ヤニナ（Carrion Alban Rosangela Yanina）

ペルー パカチャマック遺跡博物館

バルー ニコル サブリナ（Barreau Nicole Sabrina）

セーシェル セーシェル国立博物館

カイス トウェヌィ（Qais Tweissi）

ヨルダン ペトラ考古学公園

アラマ エルハム フセイン（Alama Elham Hussien）

パレスチナ ヒシャム宮殿博物館

② スケジュール

10月1日(木)	開講式・レセプション (国立民族学博物館)
10月2日(金)	ミュージアム・レポート・運営委員会(琵琶湖博物館)
10月5日(月)～11月20日(金)	技術研修(国立民族学博物館)
・10月9日(金)	兵庫県立美術館
・10月16日(金)	(公財)元興寺文化財研究所、大阪府近つ飛鳥博物館
・10月30日(金)	大阪歴史博物館、大阪人権博物館
10月13日(火)～10月18日(日)	技術研修(琵琶湖博物館)
・10月15日(木)	東近江市能登川博物館、五個荘近江商人屋敷、(株)オムロン野洲事業所
・10月16日(金)	MIHO MUSEUM、滋賀県立陶芸の森、甲賀市信楽町内の民家
・10月17日(土)	守山市下之郷史跡公園
10月27日(火)～28日(水)	広島・直島研修(家プロジェクト、地中美術館、広島平和記念資料館)
11月3日(土)	公開フォーラム(国立民族学博物館)
11月10日(火)～13日(金)	中越・東京研修(長岡震災アーカイブセンター、川口きずな館、おちや震災ミュージアム、国立科学博物館、東京国立博物館)
11月23日(月)～12月14日(月)	個別研修(主会場：国立民族学博物館)
12月17日(土)	ファイナルレポート・総合討論・修了式
12月18日(日)	評価会・運営委員会

③ 琵琶湖博物館での研修

・ミュージアム・レポート	10月2日(金)	
・技術研修	10月13日(火)～10月18日(日)	
10月13日	琵琶湖博物館の概要および設立経緯	高橋
	展示見学1,2	グライガー
	琵琶湖博物館リニューアル	藤村
10月14日	交流事業の考え方	榊永
	体験学習の実践	間所、岡部
	地域資料の整理と保管	八尋
	博物館の研究活動	八尋、高橋、古琵琶湖発掘隊、大塚
10月15日	地域博物館等視察	
	東近江市能登川博物館	グライガー、山本
	五個荘近江商人屋敷	グライガー、山本
	(株)オムロン野洲事業所	グライガー、松田、山本
10月16日	地域博物館等視察	
	MIHO MUSEUM	用田、グライガー
	滋賀県立陶芸の森	用田、グライガー
	甲賀市信楽町内の民家	用田、グライガー
10月17日	フィールドレポーターとはしかけの話	楠岡
	地域活動の見学と意見交換	中村(アキツ)、グライガー、松田、山本
	(守山市下之郷史跡公園)	
	博物館スタッフとの交流	グライガー、楠岡、山本、他多数
10月18日	展示評価	黒岩(Learnig Innovation Network)
	専門レポートおよびディスカッション	グライガー・山本

2) 海外からの視察・研修

当館では、上記 JICA 研修の実施以外にも、海外からのさまざまな団体による視察や研修に対応しており、今年度は 15 件に対応した。 *JICA ; (独法) 国際協力機構 ILEC ; (公財) 国際湖沼環境委員会

月	日	視察者	依頼者	人数	対応
5	26	ミシガン州立大学連合日本センター受講生	ミシガン州立大学連合日本センター	10	グライガー
6	2	タイ・カセサート大学学生	京都大学国際交流推進機構	18	スミス
6	3	マレーシア国立水理学研究所長他	マレーシア大使館	3	高橋、芳賀
6	16	JICA「水環境行政」コース研修生	(公財) 北九州国際技術協力協会	14	楠岡
7	1	ベトナム・ハイフォン市天然資源環境局長他	県商工政策課	17	浅見、戸田、澤村
7	8, 15	タイ博物館(National Discovery Museum Institute) 研究員	タイ博物館(National Discovery Museum Institute)	2	館長、戸田、間所
8	28	中国湖南省研修生	(公財) 淡海環境保全財団	10	楊
9	9	中国江蘇人民政府環境管理部門幹部	JIT(株)	7	楊
9	29	JICA「湖沼環境保全のための統合的流域管理」研修生	ILEC	10	楠岡
10	21	中国社会科学院研究者	県琵琶湖環境科学研究センター	5	楊
10	22	インド行政・企業関係者	県商工政策課	14	高橋
10	23	バイオミメティクスに関わる国内外研究者	ISO 国内審議委員会	20	グライガー
11	11	マレーシア・PEKA (Persatuan Kejuruteraan Awam) 大学学生	マレーシア・PEKA (Persatuan Kejuruteraan Awam) 大学	12	スミス
11	28	中国山東省環境保護庁職員	東華商事(株)	20	藤村
2	6	「びわ湖国際環境ビジネス人材育成事業」留学生	ILEC	20	松田

(2) 博物館実習

・期間：2015年8月2日(日)～8月7日(金)；ただし8月3日(月)は休み

大学生が学芸員の資格を取得するための実習を開催した。国内8大学、18名の学生を対象に、琵琶湖博物館の基本理念・活動方針と、それに基づく資料整備、交流、展示などの活動について、講義および実習を行った。交流事業の実習では、中学生を対象とした自然調査ゼミナールへスタッフとして参加し、企画展示やユニバーサルデザインチェックの実習では、実際に展示室に出て展示評価のための調査やユニバーサルデザインのチェックなどを行った。1週間を通じた実習全体の課題としては、リニューアル展示における大学生ならではの提案をグループ毎に考えてもらい、最終日にはその発表会を行った。発表会では、博物館職員との意見交換も行われた。

・実習日程と内容

月日	内容(午前)	内容(午後)
8月2日(日)	<ul style="list-style-type: none"> 全体オリエンテーション 講義「琵琶湖博物館の概要」 講義「琵琶湖博物館の研究活動」 	<ul style="list-style-type: none"> 講義「常設展示の概要」 見学「常設展示室の見学」 実習「展示交流とは」
8月3日(月)	〈実習・休み〉	
8月4日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 講義「琵琶湖博物館における交流事業」 実習「自然調査ゼミナール補助」 	

月日	内容 (午前)	内容 (午後)
8月5日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「展示リニューアルと広報・営業」 ・見学・実習「企画展示の見学と展示評価」 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習「ユニバーサルデザインチェック」 ・実習「発表課題内容の検討」
8月6日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「博物館の資料と整理」 ・講義「IPMについて」 ・見学「収蔵庫空間見学」 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習 各資料分野に分かれて課題実習
8月7日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習「発表課題内容の準備・まとめ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習 成果発表会、修了式

・実習生の大学と人数：8大学，18名（内訳）

所 属	人 数	所 属	人 数
滋賀県立大学	6	龍谷大学	2
成安造形大学	1	京都産業大学	1
近畿大学	5	関西学院大学	1
東海大学	1	金沢大学	1

5 対話と応援ができる博物館

利用者主体の事業

(1) フィールドレポーター

フィールドレポーター制度とは、滋賀県内の自然とくらし・文化について、地域の方々に身の回りの調査をしていただき、得られた情報を博物館の展示、交流、研究活動に活かす「地域学芸員」のような制度である。博物館に登録票を提出すれば誰でも参加できる。任期は1年で、更新すれば何年でも引き続き行うことができる。2015年度の登録者数は204名（2015年度登録更新者156名）である。

フィールドレポーターの主な活動としては、月2回（原則第1,3土曜日）の定例会の開催、1年に2回程度のアンケート型調査の企画、実施とその結果をまとめた報告書の編集・印刷・発行、館内の展示および更新、および自由交流型調査のまとめと掲示板発行、そして会員どうしの交流会、館内外で開催される交流会・イベントなどへの参加がある。こうした活動は、フィールドレポーターの有志からなる「フィールドレポータースタッフ」によって支えられている。2015年度は、フィールドレポータースタッフを中心に、毎月第1・3土曜日（原則）の『定例会』等の会合・行事を計29回開催した。

フィールドレポーターの調査には、テーマを決めて行う「アンケート型調査」と、自由な内容で身近な情報を随時報告する「自由交流型調査」がある。アンケート型調査の結果は「フィールドレポーターだより」として、自由交流型調査の結果は「フィールドレポーター掲示板」として、それぞれまとめられる。

2015年度のアンケート型調査として、3月から5月にかけて「タンポポ調査」、9月から11月にかけて「セイタカアワダチソウ調査」を実施した。フィールドレポーターだよりについては、2014年度の「身近なシイノキとその花を調べてみよう」「みんなも着ている!? 和服大調査」および、2015年度の「タンポポ調査」の、計3号（通巻43-45号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。

2015年度の自由交流型調査では、2008年以降継続している「アキアカネふるさと探し」調査をびわこバレイ蓬萊山頂付近において実施した。また、秋には大津市伊香立で里に下りたトンボの追跡調査を実施した。フィールドレポーター掲示板については、計4号（通巻79-82号）を発行し、琵琶湖博物館ウェブサイトで公開した。

5月16日（土）に実施した「フィールドレポーター交流会」では、「身近なシイノキとその花を調べてみよう」「みんなも着ている!? 和服大調査」を報告するとともに、「タンポポ調査」のガイダンスが行われた。6月20日（土）～21日（日）の「フィールドレポーター出張交流会 with はしかけ」は、長浜市西浅井町菅浦への一泊旅行を、学芸職員およびはしかけ会員とともに行い、菅浦探索、ホテル観察、湖北の巨木めぐりなどを行った。7月4日（土）の琵琶湖博物館主催『琵琶博フェス2015』では、クイズ「あなたもセミ博士」を実施し、全クイズをクリアした参加者には「蝉プロ認定証」が贈られた。

フィールドレポーターの調査内容等一覧

内 容	実施期間	報告(件)
1) タンポポ調査	3月～5月	582件
2) セイタカアワダチソウ調査	9月～11月	251件
3) 自由形調査(掲示板)	通年	通巻79～82号

フィールドレポーター 活動の記録

	月日	曜日	出席者	内容	
1	4月 4日	土	11	定例会	新体制への引継ぎなど
2	4月 18日	土	10	定例会	だより第43号の発送、掲示板の担当調整、交流会の相談
3	5月 9日	土	7	定例会	和服調査の結果検討、シイノキ調査の報告、交流会案内発送
4	5月 16日	土	10	定例会	出張交流会計画、琵琶博フェス準備
5	5月 16日	土	約30	交流会	調査報告、学習会(生活実験工房)
6	5月 30日	土	6	非定例会	和服調査のまとめの検討
7	6月 6日	土	9	定例会	出張交流会調整、琵琶博フェス準備
8	6月 13日	土	3	非定例会	びわ博フェス準備
9	6月 20日 21日	土 日	16	出張交流会	菅浦探索、ホテル観察、湖北の巨木めぐりなど (菅浦(長浜市))
10	7月 4日	土	約80	琵琶博フェス2015	あなたもセミ博士(会議室)
11	7月 18日	土	10	定例会	掲示板第79号・だより第44号の発送、アキアカネ調査準備
12	8月 1日	土	11	調査会	アキアカネ・マーキング調査(びわこバレイ)
13	8月 8日	土	6	定例会	次回アンケート調査の検討
14	8月 22日	土	7	定例会	次回アンケート調査をセイトカアワダチソウに決定
15	9月 5日	土	7	定例会	アキアカネ観察会、日程場所検討
16	9月 19日	土	7	定例会	掲示板80号印刷発行・セイトカ調査票印刷・発送
17	10月 1日	土	14	調査会	里に降りてきたアカトンボの調査と観察(大津市伊香立)
18	10月 17日	土	6	定例会	アカトンボ調査の集計結果報告、タンポポ調査報告書の検討
19	11月 7日	土	7	定例会	だより第45号の発送、セイトカアワダチソウ調査の進行状況報告
20	11月 21日	土	8	定例会	セイトカアワダチソウの調査状況報告、次回調査テーマの協議
21	12月 5日	土	8	定例会	セイトカアワダチソウ調査のまとめ方検討、次回調査について協議
22	12月 13日	日	3	研究発表	「琵琶湖地域の水田生物研究会」でタンポポ調査の成果を報告(ホール)
23	12月 19日	土	7	定例会	セイトカアワダチソウ調査のまとめ方検討、次回調査について協議
24	1月 9日	土	7	定例会	掲示板第81号発送、セイトカアワダチソウ調査データの検討と考察、飛び出し坊や調査計画検討
25	1月 16日	土	11	予備調査	飛び出し坊やの話を伺って、調査内容を検討(能登川博物館)
26	2月 6日	土	10	定例会	セイトカアワダチソウ調査データの検討と考察、飛び出し坊や調査の調査内容検討
27	2月 20日	土	7	定例会	セイトカアワダチソウ調査データの検討と考察、飛び出し坊や調査の調査内容検討
28	3月 3日	土	8	定例会	セイトカアワダチソウ調査データの検討と考察、飛び出し坊やの資料映像を見る、飛び出し坊や調査の質問項目検討
29	3月 19日	土	7	定例会	セイトカアワダチソウ調査データのまとめ、飛び出し坊や調査の質問項目検討

(2) はしかけ制度

「はしかけ制度」は、琵琶湖博物館の理念に共感し、博物館活動をともに創っていこうとする利用者のための登録制度として、2000年8月に発足した。「はしかけ」という名称は、様々な活動を通して博物館と地域

との橋渡し役となってもらふことを希望してつけられた。この制度に登録すると、博物館の様々な事業・研究にかかわることができ、さらに新しい活動を提案して自ら展開することも可能である。

活動に参加するためには、最初に琵琶湖博物館の理念とはしかけ制度の概要を理解するための登録講座を受講し、加えてボランティア保険に加入する必要がある。また、活動は原則としてグループで行うこととしている。登録更新票の提出とボランティア保険への加入により、1年毎に何回でも更新できる。今年度は登録講座を、5月10(日)、10月25(日)、3月13日(日)の3回実施し、それぞれ18名、19名、29名の新規登録者があり、2015年度末の会員数は321人となった。

はしかけの各グループは、それぞれのテーマをもって多岐にわたる活動を行い、琵琶湖博物館の設置理念と、中長期基本計画の核心である「地域だれでも・どこでも博物館」の実現への推進力となってきた。2015年度には、「淡海スケッチの会」「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」「森人」の3グループが新たに設立され、2015年度末時点で19グループが、琵琶湖博物館および県内を中心とした各地で活動を展開している。

2015年度は「はしかフェ」を毎月1回開催し、新規登録者のグループ活動への導入、はしかけ登録者同士や学芸員との交流、新たな参加者ニーズの開拓、リニューアルへ向けた意見聴取などを行って、新たな交流活動の展開を目指した。3月に発足した「森人」は、はしかフェを母体として生まれたグループである。

各グループの活動

〇うおの会

会長：中尾博行 担当学芸員：松田征也 会員数：54名

[設立の趣旨]「魚を愛し、魚採りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来にのこそう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」という目標をたて、お魚とりが大好きな人々が集まって、魚つかみを楽しみながら、共に調査を実施して記録を残し、身近な環境を見つめなおすことを目的にしている。2000年の発足から、お魚とりが大好きな皆さんに、博物館を利用した活動の場を提供しながら、調査によって得られた成果を活用し、身近な環境に棲息している魚たちの情報を21世紀初頭の記録として貴重な博物館資料とすることを目指している。

[活動の概要] 月1回の定例調査を琵琶湖流域の各地で開催するとともに、各会員が日常的に調査活動を実施している。今年度は、一昨年度、昨年度に引き続いてカネヒラ稚魚群の調査を琵琶湖全域の湖岸で実施した。今年度も各地でその姿を確認することができた。また、これまで確認されていなかった南湖西岸においても確認することができた。定例調査は原則として河川単位で実施しており、今年度は喜撰川、大同川、野洲川流域支流と水路、天神川で実施し、さまざまな魚に出会うことができた。なお、喜撰川については4月、9月、12月に定点調査を実施し、魚類相の季節変化を観察した。また、会員の研鑽の場として、冬季に2回の勉強会を実施したほか、湖魚を食して会員間の親睦を図る「湖魚に親しむ会」を開催した。調査活動のほかに、琵琶湖博物館行事への参加・協力をはじめとして、琵琶湖を戻す会、琵琶湖と田んぼを結ぶ連絡協議会、志津南小学校、水資源機構等の各種団体による自然観察会や環境学習等への協力を行った。なお今年度は、中尾会長が韓国・巨済島で行われた国際ワークショップに参加し、琵琶湖周辺の淡水魚保全活動について講演を行なった。活動計画の立案や他団体への協力、調査活動の運営、活動上の諸課題の解決等は、11名の運営委員が中心となって行った。

「うおの会」のおもな活動

活動日	内 容	参加者数
4月12日	喜撰川下見調査	3名
4月19日	第108回定例調査 喜撰川 ※雨天中止（自主調査の実施者有り）	4名
5月10日	琵琶湖博物館「はしかけ登録講座」で会の活動紹介	2名
5月17日	第109回定例調査 カネヒラ浮上の一斉調査・南湖沿岸	25名
5月31日	第110回定例調査 カネヒラ浮上の一斉調査・北湖南部沿岸	19名

活動日	内 容	参加者数
6月14日	第111回定例調査 カネヒラ浮上の一斉調査・北湖北部沿岸	16名
7月4日	「びわ博フェス2015」に「お魚キーホルダーを作ろう」	18名
7月19日	第112回定例調査 大同川	15名
8月29日	親睦会「湖魚を食して楽しむ会」(守山市「来ゃん太」)	8名
9月20日	第113回定例調査 喜撰川	15名
10月18日	第114回定例調査 野洲川流域水路、支川	19名
10月25日	琵琶湖博物館「はしかけ登録講座」で会の活動紹介	1名
11月15日	第115回定例調査 天神川	15名
12月20日	第116回定例調査 喜撰川	16名
1月18日	勉強会「韓国ワークショップ参加報告・生き物なんでも話そう会」	19名
2月15日	勉強会「2015年度まとめの会」	22名
3月13日	琵琶湖博物館「はしかけ登録講座」で会の活動紹介	1名
3月22日	総会	23名

(上記の他に運営会議を5回開催)

○淡海スケッチの会

担当学芸員：篠原 徹・榊永一宏

[設立趣旨] 滋賀県内の現場へ赴き、絵画や俳句等により、風景やものを写生することを目的とする。

[活動概要] 月1回(基本的に第4日曜日)、滋賀県内各地でスケッチ会を開催。また、随時、琵琶湖博物館周辺において吟行句会を行っている。2015年秋に設立。若い会であるため、会員と共にミーティングを重ねながら活動中。風景に限らず、将来的には植物や博物館内の魚などもスケッチをしたいと考えている。

「淡海スケッチの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
11月22日	写生会、ミーティング	琵琶湖博物館周辺、生活実験工房	4名
3月27日	写生会・吟行、ミーティング	安土城跡および、安土城考古博物館周辺	7名

○近江はたおり探検隊

担当学芸員：林 竜馬

運営・ホームページ担当：辻川智代

会員数：20名

[設立の趣旨] 2004年度、民俗資料展「糸を紡いで布を織る」での機織り体験講座がきっかけで、現在、「失われてしまった近江の良さを再発見し、地域の人々とともにその良さを伝えていく」ことを目的に活動している。

[活動の概要] 博物館に収蔵される機織り用具の調査を通じ、地域に残る機織りの技を再現することを目標とし、織姫の会、研究会、はたおり探検などの活動を行っている。平成18年度から「野良着部会」で琵琶湖南部特有の縞柄の藍染木綿の復元を進めている。

「近江はたおり探検隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月11日	織姫の会	生活実験工房	5名
4月22日	織姫の会	生活実験工房	10名
5月9日	織姫の会	生活実験工房	5名
5月27日	織姫の会	生活実験工房	5名
6月6日	織姫の会	生活実験工房	6名
6月17日	「紺喜染織」見学	湖南市下田	10名
6月24日	織姫の会	生活実験工房	5名

活動日	内 容	場 所	参加者数
7月 4日	織姫の会（びわ博フェス：網袋をつくろう）	生活実験工房	10名 体験者：24名
7月 22日	織姫の会	生活実験工房	5名
8月 29日	「朽木の織を知る」見学	大津市朽木	4名
9月 5日	織姫の会	生活実験工房	3名
9月 30日	織姫の会	生活実験工房	8名
10月 17日	織姫の会	生活実験工房	6名
10月 28日	織姫の会	生活実験工房	6名
11月 7日	織姫の会	生活実験工房	2名
11月 7日	「全国古代体験フェスティバル」見学	兵庫県立考古博物館	4名
11月 25日	織姫の会	生活実験工房	3名
12月 12日	わくわく探検隊「綿に触れてみよう」	生活実験工房	4名
12月 23日	織姫の会	生活実験工房	7名
1月 6日	織姫の会	生活実験工房	5名
1月 23日	織姫の会	生活実験工房	6名
2月 10日	織姫の会	生活実験工房	4名
2月 20日	織姫の会	生活実験工房	4名
3月 2日	織姫の会	生活実験工房	7名
3月 26日	織姫の会	生活実験工房	7名

○大津の岩石調査隊

代表者：梅澤正夫 担当学芸員：里口保文 会員数：9名

[設立の趣旨] 市街地から近い音羽山の地域を中心に歩いて、ハイキングするような心持ちで、地域の岩石など地質の勉強をしながら調査を行なっていきたい。

[活動の概要] 基本的には、音羽山付近を歩いて、野外でみられる岩石や断層について、観察・調査をした。冬季は、博物館の室内で、岩石薄片の作成実習や顕微鏡観察をしたり、最近では担当者をきめてのあるテーマでの勉強会も行っている。顧問として特別研究員の中野聰志さんに参加してもらい、野外や室内での勉強会での大きな力になってもらっている。また、今年度からオープンハウスに参加し、博物館の来館者に、岩石の説明や岩石をハンマーで割る体験を実施し、好評を得た。メンバーが少しずつ増えてきているので、調査地なども希望を聞きながらすすめていきたい。

「大津の岩石調査隊はしかけ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
4月 29日	三田川上流での岩石調査	大津市国分	7名
5月 30日	相模川上流での岩石調査	大津市膳所池ノ内町付近	4名
6月 17日	オープンハウスで使用する岩石の採集	大津市	4名
6月 23日	オープンハウスの打ち合わせ	琵琶湖博物館	6名
7月 4日	オーオープンハウス実施	琵琶湖博物館	6名
8月 6日	今後の活動の打ち合わせ	琵琶湖博物館	4名
9月 6日	クリノメーターの使い方実習・岩石勉強会	琵琶湖博物館	7名
10月 7日	安曇川上流の断層・岩石調査	大津市葛川町居町など	9名
11月 29日	吾妻側上流の断層・岩石調査、調査後懇親会	大津市逢坂	8名
1月 14日	岩石薄片実習、勉強会	琵琶湖博物館	8名
2月 2日	岩石薄片実習・観察、勉強会	琵琶湖博物館	8名
3月 18日	岩石薄片観察、勉強会	琵琶湖博物館	9名

○温故写新

連絡係：谷口雅之

担当学芸員：金尾滋史

会員数：25名

[設立の趣旨] 写真とカメラを愛し、撮影を楽しむ人たちのはしかけグループ。主に滋賀県内における感動的な美しい生命の活動、人の生活や自然の移りゆく様子を記録に残し、写真を通じて博物館活動に貢献することを主旨とする。

[活動の概要] 今年度は記念すべき活動10周年という年でもあり、集う・使う・創る 新空間やびわ博フェスでの記念写真展を開催した。特に新空間での展示はこれまでの10年間の活動の紹介や各メンバーの撮影した写真、自慢のカメラ、また大橋宇三郎さんの今昔写真をめぐる活動やゆかりのカメラなどの紹介を行い、多くの方に来場してもらうことができた。また、県内での撮影会や博物館映像資料（大橋コレクション）の整理作業、博物館行事の写真記録なども行ない、それらを通じて他のグループ・機関との交流も進めることができた。いずれの活動も写真を通じて博物館活動に貢献できるようはじまったものであり、今後はしかけ活動を通じてさらなる交流と展開を目指していきたい。これまでの主な活動の記録は、温故写新のブログで紹介している。<http://onkosyashin.shiga-saku.net/>

「温故写新」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月19日	10周年記念写真展の企画、計画	博物館会議室	5名
5月24日	信楽撮影会	甲賀市信楽町	6名
6月27日	びわ博フェス2015での出展内容検討	博物館会議室	5名
7月3日	びわ博フェス2015の準備	博物館アトリウム	4名
7月4日・5日	びわ博フェスでの展示および館内の記録撮影	博物館内	9名
8月22日	大橋コレクションの整理	博物館会議室	6名
9月12日	新空間での展示の企画、準備	博物館セミナー室	7名
9月26日	新空間での展示準備、パネル作成	博物館実習室1	6名
10月2日	新空間での展示準備	集う・使う・創る 新空間	5名
10月3日～31日	10周年記念写真展「温故写新な10年」開催	集う・使う・創る 新空間	のべ18名
11月1日	新空間展示撤収作業	集う・使う・創る 新空間	6名
1月30日	大橋コレクションの整理	博物館実習室1	6名
3月13日	2014年度総会	会議室	7名

■その他の活動

- ・博物館行事や他はしかけグループの活動における写真記録
 - ・博物館の行事チラシなどへの写真提供
 - ・博物館リニューアル「おすすめの琵琶湖の風景」への協力
 - ・ブログ「温故写新な日々」の運営

○暮らしをつづる会

代表：中尾京子

担当学芸員：大久保実香

会員数：1名

[設立の趣旨] 地域の生活のあり方を考えながら地域の生活誌を記録に残し、伝えていくことを目指している。

[活動の概要] 2015年度は、4月に2014年度からお話を伺っている草津市南山田での暮らしについての聞き書きの記録をまとめた。90歳代と80歳代の女性お二人に、一緒にお話を伺うことで相互効果が生まれ、沢山の話をお聞きすることができた。大正から昭和初期の時代、琵琶湖畔に暮らした人々にとって舟は大切な交通手段であり、輸送手段であったが、琵琶湖の北部や南部など、地域によって舟の利用方法は様々であった。お話を伺った草津市南山田では、近くにあったレンガ工場のレンガを舟で運ぶことを生業にする人々や、農家が草津で採れた野菜を大津の市場に運んだり、大津からさらに京都に運んだこと、下肥を大津に貰いに行き、舟で草津まで運んだことなど、舟にまつわるたくさんのお話を聞きすることができた。

また、思いがけず、室戸台風で倒壊した山田小学校のお話も聞くことができた。他にも、琵琶湖大橋のできるまでの暮らしについて、暴雨風のときの琵琶湖の怖さ、それとは反対に琵琶湖の恵みの豊かさなど、今では想像できない暮らしにまつわる話が聞けた。これらの貴重な話を、小学校の子供たちに届けたいと考え、聞き書きをまとめた冊子を山田小学校の先生に、教材として使っていただくようお願いし、了承頂いた。6月に入って、かねてからお願いしていた、多羅尾での聞き書きを開始した。多羅尾の暮らしや、多羅尾代官屋敷の話、多羅尾水害について話をお聞きした。多羅尾コミュニティセンターに集まっていた方々に、他の地域の人達に一番伝えたいことは何かと質問したところ、みなさん様に、多羅尾大水害の話と答えられた。多羅尾の皆さんの、水害の記憶を継承していきたいという熱意を感じ、琵琶湖博物館の新空間での展示会を計画、2016年度の8月に展示を行うことにした。現在、展示の準備中である。9月には、長浜市余呉町の高時川上流に暮らしておられた方にお話を伺った。奥川並地区と岐阜県の県境にブナの原生林があり、県下最大のブナの木が発見されたことや、奥川並での生活の様子について話を伺うことができた。2016年度は、8月に多羅尾大水害に関する展示を琵琶湖博物館の新空間で企画している。余呉町での聞き書きも、引き続き行う予定である。

「暮らしをつづる会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月 8日	琵琶湖大橋ができるまでの暮らしの様子について話を聞いた	草津市南山田
4月 18日	草津市南山田での聞き書きの報告とまとめ	琵琶湖博物館
6月 11日	多羅尾の暮らしの話について話を聞いた	多羅尾
7月 11日	多羅尾の聞き書きの報告とまとめ	琵琶湖博物館
7月 22日	多羅尾の水害に関する展示について話し合い	琵琶湖博物館
8月末	草津市立山田小学校に聞き書き資料送付	
9月 27日	高時川上流での暮らしについて話を聞いた	余呉町
9月 28日	多羅尾コミュニティセンターで多羅尾の水害に関する展示について、関係者と話し合い。多羅尾小学校訪問、打ち合わせ	多羅尾
11月 17日	展示について話し合い	琵琶湖博物館
2月 11日	いきいきサロンにて、水害の話を聞いた	多羅尾
3月 8日	多羅尾の聞き書きについて報告とまとめ	琵琶湖博物館
3月 22日	追加取材	多羅尾

○古琵琶湖発掘調査隊

会長：杉山國雄 事務局長：安原 輝 担当学芸員：高橋啓一 会員数：17名

[設立の趣旨] 多賀町四手で計画されている180万年前の古琵琶湖層群調査において、市民参加の参加者を指導し、自らも研究できるような人材になることを活動の目的としている。

[活動の概要] 活動は2013年1月から行っているが、最近では多賀町四手の発掘調査を行いながら、得られた化石を整理・分析できるように、毎月1回程度現場や屋内で標本の整理や勉強会を行っている。

「古琵琶湖発掘調査隊」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
3月14日～4月12日	発掘調査	多賀町四手	のべ67名
5月 2日	多賀町立博物館「親子で発掘体験」協力	多賀町四手	5名
6月 13日	発掘されたシカ化石のクリーニング	琵琶湖博物館	6名
7月 12日	発掘されたシカ化石のクリーニング	琵琶湖博物館	4名
8月 9日	現生淡水貝類の見分け方学習会	琵琶湖博物館	6名
9月9日～13日	発掘調査	多賀町四手	のべ9名
9月 22日	化石貝類の同定学習会	琵琶湖博物館	7名

活動日	内 容	場 所	参加者数
10月14日	JICA研修での講師	琵琶湖博物館	1名
11月15日	発掘された植物化石の学習会	琵琶湖博物館	7名
12月23日	発掘されたシカ化石の強化と部位同定の学習会	琵琶湖博物館	12名
1月10日	現生シカの骨の同定学習会	琵琶湖博物館	7名
2月28日	発掘された貝化石のクリーニング	多賀町立博物館	4名
3月21日	発掘された植物化石の同定学習会	琵琶湖博物館	5名

○湖（こ）をつなぐ会

代表：中山法子 担当学芸員：林 竜馬 会員数：5名

[設立の趣旨] 「うた」を通じて、琵琶湖の文化的・社会的価値を再発見することをめざす。

[活動の概要] 子ども達に歌ってほしい琵琶湖の歌として生まれた「生きている琵琶湖」を広く知ってもらい活動をしている。琵琶湖博物館に来館した小さな子ども達に「びわこの旅」の紙芝居を使いながら、琵琶湖といきもの達との関わりを少しでも理解してもらえるように伝え、「生きている琵琶湖」がどこかで聞いたことがある歌だなと思ってもらえるようになればと活動を続けている。

「湖（こ）をつなぐ会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
5月10日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
7月4日	びわ博フェス 紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館会議室
7月27日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
8月17日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム
3月6日	紙芝居「びわこの旅」上演	琵琶湖博物館アトリウム

○ザ！ディスカバはしかけ

担当：澤邊久美子、浦山重雄、森 智美、片淵綾香 会員数：9名

[設立の趣旨] 子どもからお年寄りまでディスカバリールームを訪れる方々に展示のメッセージがよりよく伝わるように分かりやすく楽しい空間を創ることをめざしている。

[活動の概要] 2005年度にイラストや裁縫・人形劇など展示物の作成および補修など個人から始まった活動は、2015年度は新しい企画が増え、活動の幅が広がりつつある。2015年度は、はしかけオープンハウスで新しいプログラム「ツバキのタネでバッジをつくろう」を実施した。メンバーのアイデアを持ち寄り、参加者にも楽しんでもらえた。

「ザ！ディスカバはしかけ」のおもな活動

実施日	タイトル	内 容	参加者数
5月10日	はしかけ登録講座	ザ！ディスカバはしかけの紹介をしました。	1名
5月23日	ディスカバ紙芝居「ゲンタのたんじょうものがたり」	2回公演。ディスカバの人形を使って、ホタルの一生について学びました。	4名
7月4日	びわはくフェス参加 「ツバキのタネで虫バッジをつくろう」	前半はホタルの紙芝居、後半にツバキのタネでバッジ作りを行いました。2回とも満員で、とてもかわいいバッジができました。	5名
9月13日	匂いイベントの試作品	匂いイベントの試作品を見ながら相談しました。	1名
10月25日	総会	匂いイベントの試作品をみんなで作りました。	3名

実施日	タイトル	内 容	参加者数
12月13日	コーヒーがらを使って におい取りをつくろう	鼻を使って匂いをかぎ分けよう！コーヒー殻の脱臭効果を使ってにおい取りを作りました。	
2月7日	はしかけイベント「お手玉をつくろう！」	小豆以外に、ジュズダマや色々な種などを入れてお気に入りの音のお手玉を作りました。	
3月12日	はしかけ登録講座	ディスカバはしかけの活動について紹介しました。	

○里山の会

世話役:志賀 暁子、千田はる恵、寺尾尚純、前田博美、松里香織、宮本直興、柳原徳子、山川栄樹、吉井 隆
担当学芸員:安福俊幸、楠岡 泰 会員数:35名

[設立の趣旨] 交流事業「里山体験教室」の卒業生が中心となり、2001年から活動している。里山体験教室のホスト役を通して、一般市民への里山理解を深める活動や現代における里山利用を実践している。

[活動の概要] 里山の会の主な活動である里山体験教室は、2006年度より野洲市大篠原の里山林を拠点として開催している。当初このフィールドは、林縁部がマント群落に覆われ、枯アカマツが点在し、亜高木のソゴヤヒサカキに埋め尽くされた暗い林であったが、数年にわたり、小径木、灌木を伐採し、落ち葉をかくことで、少しずつ明るさを取り戻し、林床には芽生えが確認されるようになった。このような雑木林と周辺の自然環境の中で、春の山菜料理、夏の昆虫・生物観察、秋色探し、冬の焚き火(伐採した木々を使い、火おこし術、花炭、焼き芋など里山の燃料を使った遊び)など四季いろいろの里山の恵みや利用を通して里山の価値を感じている。このフィールドを共に利用している他の団体から「はしかけの森」と呼ばれるようになり、活動地域での認知度も高まってきている。また、琵琶湖博物館内でそば、きのこ栽培など里山関係の企画を提案し博物館活動に参加している。

「里山の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月12日	里山体験教室(春) 下見、里山歩き	野洲市大篠原 はしかけの森
4月19日	里山体験教室(春) 本番「里山の春をみつけよう」	野洲市大篠原 はしかけの森
5月6日	春の大篠原里山遊び	中止
6月3日	潮干狩り	三重県津市 御殿場浜
6月14日	はしかけオープンハウス準備	多賀町 高取山ふれあい公園
7月4日	びわ博フェス はしかけオープンハウス	琵琶湖博物館
7月12日	里山体験教室(夏) 下見	野洲市大篠原 はしかけの森
7月19日	里山体験教室(夏) 本番「里山の夏を楽しもう」	野洲市大篠原 はしかけの森
8月29日	夏の里山祭り、ソバ種蒔き	琵琶湖博物館
9月13日	ソバ畑手入れ	中止
10月11日	里山体験教室(秋) 下見	野洲市大篠原 はしかけの森
10月18日	里山体験教室(秋) 本番「里山の秋さがし」	野洲市大篠原 はしかけの森
10月24日	秋の里山観察会下見	大津市仰木の里
10月31日	秋の里山観察会本番「秋の里山を歩こう」	大津市仰木の里
11月22日	秋の大篠原里山遊び	野洲市大篠原 はしかけの森
11月29日	ソバ刈取り	琵琶湖博物館
12月13日	ソバ脱穀、乾燥	琵琶湖博物館
1月10日	里山体験教室(冬) 下見、ソバ収穫祭	琵琶湖博物館
1月17日	里山体験教室(冬) 本番「冬の里山を楽しもう」	野洲市大篠原 はしかけの森
2月27日	染色、キノコ菌打ち	琵琶湖博物館
3月6日	里山の会総会	琵琶湖博物館

○植物観察の会

代表者：不在 担当学芸員：芦谷美奈子 講師：布谷知夫 会員数：名簿なし

[設立の趣旨] 2004 年度に開催した企画展示「のびる・ひろく・ひろがる～植物がうごくとき～」の準備期間中に、企画展の趣旨に沿って、植物の情報を収集し植物を好きになる人を増やすのを目標に設立した。

[活動の概要] グループとしては名簿を作成しておらず、会員という形での管理はしていない。観察会の開催は、ニューズレターではしかけ全員にお知らせし、はしかけさんであれば誰でも参加でき、専門知識がなくても楽しく植物について学ぶことができる場と位置付けてきた。通常の植物観察会とは異なり、集合場所と解散場所を決めるだけで、かなり気ままに野山を歩き、目についた植物について観察をするという形式の観察会を開いている。名前を覚えるのではなく、初心者でも純粋に植物についての面白さを感じてもらいたいという講師の植物観察の方針を貫いた内容で、これまでも滋賀県内の里山などを中心に、かつては年6回、2013年度からは年4回の観察会をおこなってきた。自主的な活動を目指し、2015年度は同じ場所で四季を通じた観察会を開催することにより、次第にメンバー主体の観察会への移行を試みた。しかし、講師の布谷知夫さんが2015年度末に三重県総合博物館の館長を退職されたことから、今後の継続方法は改めて検討することとなった。2016年度前半は、琵琶湖博物館の展示リニューアルなどとの関連で観察会は実施せず、年度後半から再開する予定である。

「植物観察の会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
5月24日	観察会	瀬田公園・文化ゾーン (大津市)	10名
9月13日	観察会	瀬田公園・文化ゾーン (大津市)	11名
12月12日	観察会	瀬田公園・文化ゾーン (大津市)	9名
3月19日	観察会	瀬田公園・文化ゾーン (大津市)	悪天候のため中止

○たんさいぼうの会

会長：木原靖郎 会長補佐：津田久美子 担当学芸員：大塚泰介 会員数：23名

[設立の趣旨] 珪藻を中心に、微小生物のハイ・アマチュア研究者の育成を目指す。

[活動の概要] 2002年5月に「珪藻の会」として発足し、研究対象の拡大をねらって「たんさいぼう（単細胞）の会」と改名した。発足以来、珪藻など微小生物の調査・観察・研究を行い、学会発表や研究論文として成果を公表してきた。活動によって得られた標本および成果物は、琵琶湖博物館に提供される。2015年度も、会の研究成果が学術論文になった。また、少なくとも部分的には会の活動成果による学会等での発表が、計6件行われた。（下線はたんさいぼうの会会員、二重下線はたんさいぼうの会名義での発表）。

Kihara, Y., Tsuda, K., Ishii, C., Ishizumi, E. and Ohtsuka, T. (2015) Periphytic diatoms of Nakaikemi Wetland, an ancient peaty low moor in central Japan. *Diatom*, 31, 日本珪藻学会: 18-44.

石角江里佳・大塚泰介・打越崇子・木原靖郎 (2015年5月9日) 中池見湿地の水環境が珪藻の分布に及ぼす影響. 日本珪藻学会第36回大会, 日本珪藻学会, 東京大学 (東京都文京区), [ポスター発表].

富 小由紀・大塚泰介・堂満華子・林 竜馬・里口保文・多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト (2015年5月9日) 珪藻化石からみた滋賀県多賀町四手における約180万年前の古環境. 日本珪藻学会第36回大会, 日本珪藻学会, 東京大学 (東京都文京区), [口頭発表].

富 小由紀・大塚泰介・中村優介・石川俊之 (2015年11月7日) 滋賀県の水田で確認された珪藻. 日本珪藻学会第35回研究集会, 日本珪藻学会, 日光交流促進センター『風のひびき』(栃木県日光市), [ポスター発表].

山本真里子・辻 彰洋・千葉 崇・杉谷健一郎 (2015年11月8日) 干潟底生珪藻6種の塩分適応実験, 日本珪藻学会第35回研究集会, 日本珪藻学会, 日光交流促進センター『風のひびき』(栃木県日光市), [ポスター発表].

富 小由紀・大塚泰介・中村優介・石川俊之（2015年12月13日）滋賀県の水田で確認された珪藻とその分布要因. 第6回琵琶湖地域の水田生物研究会, 琵琶湖博物館・近江地域学会生きもの豊かな農村づくり研究会・日本生態学会近畿地区会, 琵琶湖博物館（滋賀県草津市）, [口頭発表].

三村武士・大塚泰介（2016年3月6日）暖温帯のミズゴケ湿原 山室湿原（滋賀県）の珪藻. 地域自然史と保全研究発表会—関西自然保護機構 2016年度大会—, 関西自然保護機構, 大阪市立自然史博物館（大阪市東住吉区）, [ポスター発表].

上記以外にも、山室湿原の珪藻植生に関する論文を2月に投稿し、現在審査中である。また、油日湿原（滋賀県甲賀市）、愛知県の鈹質土壌湿地群、藤前干潟（愛知県名古屋市）、瀬田公園（滋賀県大津市）などの珪藻植生を研究し、一定の結果を得つつある。

「たんさいぼうの会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月 5日	たんさいぼうの会第45回総会・花見	近江富士花緑公園	担当：斎藤禎量 参加者：13名
5月 9・10日	日本珪藻学会第36回大会（発表）	東京大学	発表：富小由紀ら3題 参加者：3名
7月 5日	珪藻入門講座「はじめてのたんさいぼう」	琵琶湖博物館	担当：大塚泰介 参加者：約40名
7月 18日	たんさいぼうの会第46回総会	琵琶湖博物館	担当：石井千津 参加者：6名
7月 22日	たんさいぼうの小さな旅 XVII 上世屋	宮津市上世屋	担当者：人見勅輔 参加者：7名
10月 31日	たんさいぼうの会第47回総会	琵琶湖博物館	担当：片山慈敏 参加者：15名
11月 8・9日	日本珪藻学会第35回研究集会（発表）	風のひびき	発表：富小由紀ら2題
11月 26日	中池見の珪藻論文が電子出版		著者：木原靖郎ら5名
12月 13日	第6回琵琶湖地域の水田生物研究会（発表）	琵琶湖博物館	発表：富小由紀
1月 11日	たんさいぼうの会第48回総会・新年会	草津市まちづくりセンター	担当：吉野彰一 参加者：16名
3月 6日	地域自然史と保全研究発表会 2016（発表）	大阪市立自然史博物館	発表：三村武士

○田んぼの生きもの調査グループ

主担当学芸員：楠岡 泰 副担当学芸員： マーク・ジョセフ・グライガー 会員数：約20名

[設立の趣旨] 滋賀県に住む人にとって最も身近な水環境である水田に目を向けて、その生物の分布や生態を調査する。

[活動の概要] 5月、6月に滋賀県各地の水田におけるカブトエビ・ホウネンエビ・カイエビ類の分布調査を行い、秋まで標本の同定、採集データ登録、分布図作成などを行う。また、分布パターン、分布変化を解明するために土壌調査、定的調査や飼育活動を行なっている。調査の結果を公開する研究会・学会大会発表も行う。2015年度は、エビ類を観察する共同調査を3回行った。調査はグループに分かれて車に分乗し、調査地を回りながら行われた。また、共同調査および個人調査で得られたサンプルの同定会を3回行った。結果：信楽地区：カブトエビ以外（すなわちホウネンエビとカイエビ類）は予想外に広範囲で見られた。湖西北部：15年前の調査結果とほぼ同じで、安曇川以南はエビのいる田んぼが稀に見つかったが、それ以北ではほとんどエビ類が見つからない（しかし旧マキノ町のヒメカイエビの採集地点は新発見）。瀬田地区：アジアカブトエビとアメリカカブトエビが混在しているが、前年の分布とは多少変動があった。これはおそらく用水の影響と思われる。

「田んぼの生きもの調査グループ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者
5月 30日	信楽地域分布調査：大洪水で浸かった田んぼで、エビ類の生息はどうなっているだろうか？信楽町内の8地区全てで1種以上のエビ類を確認	甲賀市信楽町	16名
6月 7日	高島地域分布調査：旧高島町と旧安曇川町で新たな生息地点が見つかった。旧新旭町、旧今津町、旧マキノ町、旧西浅井町ではエビ類を見つけることができなかった。15年前と比べて大きな分布の変化はなかった	高島市一円	12名
6月 14日	瀬田のカブトエビ分布調査：アジアカブトエビは今年も同じ田んぼに出るだろうか？ アメリカカブトエビとアジアカブトエビの採集を行った	大津市瀬田	13名
9月 12日	同定会	琵琶湖博物館	16名
11月 14日	同定会	琵琶湖博物館	13名
1月 30日	カブトエビ同定会	琵琶湖博物館	12名

○タンポポ調査はしかけ

代表者：不在 担当学芸員：芦谷美奈子 会員数：10名

[設立の趣旨] 「タンポポ調査・西日本2015」の実施に合わせて、2013年度に設立された。当初は、2年間の期間限定で設立されたグループであったが、タンポポについて深く探求するために、2016年度以降もグループを継続することとした。

[活動の概要] 最初の年度（2014年度）は、3月から予備調査が始まり、メンバーの勉強も兼ねて説明会や勉強会を、兵庫県立人と自然の博物館の鈴木武さんを講師に招いて何度か開催した。同年5月10日の「わくたん」では、「びわたん」と一緒にタンポポのドライフラワー作りと観察を実施。5月末日に予備調査が終了してからは、集まったサンプルの入力作業などを行なった。2015年は3月から活動開始、調査協力をしていただいた大津市環境政策課の勉強会、琵琶湖博物館での調査説明会などを実施した。同年5月末日に調査が終了してからは、2カ年で3000以上も集まったサンプルについて、番号をつける、調査票のデータを確認して入力する、花粉を調べて種類を同定するなどの作業を、それぞれメンバーが時間のあるときに博物館や自宅で行ない、多くのサンプルを少しずつ整理していった。2015年の調査は無事終了したが、この調査で滋賀県のタンポポをめぐる諸問題が明らかになってきたため、今後もグループを存続し、タンポポについて少しでも知見を増やす活動を行うことにした。

「タンポポ調査はしかけ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月 4日	タンポポ調査説明会	琵琶湖博物館	2名
4月 5日	タンポポ調査説明会	琵琶湖博物館	2名
4月 18日	館主催観察会補助	琵琶湖博物館	3名
5月 9日	わくわく探検隊	琵琶湖博物館	3名
3月 20日	全体調査説明会	大阪市立総合生涯学習センター（大阪市）	3名

*活動には、日々の入力やデータ整理を行なった内容は含めていない。

○琵琶湖の小さな生き物を観察する会

会長：渡辺圭一郎 担当学芸員：大塚泰介 会員数：13名

[設立の趣旨] 私たちの身近に住んでいるが普段見ることの出来ない、琵琶湖などの小さな水生生物を観察・記録する。

[活動の概要] 2015 年末に正式発足した新しいグループである。琵琶湖とその周辺水域の小さな水生生物を調査して観察・記録することを目的としている。調査対象は特定の生物群に限定せず、単細胞・多細胞、

動物・植物・原生生物、浮遊性・付着性を問わない。今のところ月に1回集まって、琵琶湖沿岸の小さな生き物を採集し、琵琶湖博物館で顕微鏡観察している。毎年、会として重点的に調べる生物を決めることにしており、2016年はヨコエビに重点を置いて調査観察を進めている。

「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
12月27日	正式発足	琵琶湖博物館	設立時メンバー：5名
2月14日	第1回活動（設立総会・観察会）	烏丸半島湖岸 琵琶湖博物館	担当：渡辺圭一郎 参加者：5名
3月21日	第2回活動（ヨコエビ勉強会・観察会）	烏丸半島湖岸 琵琶湖博物館	担当：渡辺圭一郎 参加者：8名

〇びわたん

担当学芸員：岡部陽造・間所忠昌

会員数：21名

[設立の趣旨] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業を博物館職員とともに運営する。博物館の設置理念である「フィールドへの誘い」をめざし、利用者の視点から「展示室のより深い理解」を参加者に届ける。

[活動の概要] 「琵琶湖博物館わくわく探検隊（通称：わくたん）」事業は第2土曜日の午後に行われており、来館者に滋賀の人々の暮らしや身のまわりの自然に対しての興味・関心を深めてもらうことをねらいとしている。「びわたん」のメンバーは、この事業におけるプログラムの開発や事業当日の参加者との交流などに主体的に関わっている。また、4月わくたんでは「緑のくすり箱」に、12月わくたんでは「近江はたおり探検隊」の支援協力を得て、プログラムの運営を行った。わくたん以外の場でも積極的に活動しており、今年度は彦根市からの要請を受けて、わくたんメニューの1つである「森の絵本作り」を彦根市こどもセンターで開催した。

「びわたん」のおもな活動

「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（館内）

活動日	内 容	一般参加者	びわたん
4月11日	春の草花でしおりをつくろう（緑のくすり箱と共催）	19名	7名
5月9日	タンポポ調査にチャレンジしよう	14名	8名
6月13日	偏光☆万華鏡を作ろう	32名	10名
7月11日	葉っぱ模様のハンカチづくり	82名	4名
9月12日	化石のレプリカづくり	76名	6名
10月10日	植物化石を掘りだそう	48名	10名
11月14日	秋の色さがし	18名	15名※
12月12日	綿に触れてみよう（近江はたおり探検隊と共催）	28名	5名
1月9日	火起こし体験	44名	3名
2月13日	よし笛をつくろう	27名	7名
3月12日	琵琶湖の模型をつくろう	36名	4名

※はしかフェメンバーを含む

館外での行事・博物館行事（わくたん以外）

活動日	内 容	場 所	備 考
5月10日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	
7月4日	びわ博フェス☆2015「お魚モビールをつくろう」	琵琶湖博物館	参加者15名
8月4日	自然調査ゼミナール「偏光フィルム万華鏡」	琵琶湖博物館	参加者58名
8月22日	プランクトンでアート	琵琶湖博物館	参加者19名
10月25日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	

活動日	内 容	場 所	備 考
11月 7日	森の絵本づくり	彦根市こどもセンター	参加者 15名
3月 13日	はしかけ登録講座 グループ概要説明	琵琶湖博物館	

○ほねほねくらぶ

会長：西村 有巧 副会長：榎本、納屋内 広報担当：宇野 担当学芸員：高橋 啓一

会員数：26名

[設立の趣旨] 現生あるいは化石の骨に関係した活動を通じて、琵琶湖博物館の研究や交流活動の支援を行い、その楽しさを広く博物館外の人々に伝えることを目的としている。

[活動の概要] 2002年7月に発足。骨に魅せられた仲間が集まり、博物館に持ち込まれるほ乳類をはじめ鳥類や魚類など、さまざまな生き物の骨格標本を作っている。毎月1~2回の例会が活動の中心である。2015年度は、メンバー個人で製作を進めて行くことが多くなったが、一人で一体を最後までやりきることで作業の手順や方法が理解できた。また、新しく参加した人達も、作業をしながら気になった事を考えたり、記録に残していったりしながらジックリと標本作りを行えた。2月の活動日から高橋副館長にお願いして、解剖学の講義を開始、来年度まで数回をかけて実施予定。普段はただ作業として除肉していただくだけの活動が、こうした機会を持つことで、動物の体の見方を詳しく学べ、普段の活動時でもいろいろな事を考えながら作業できるようになり、ますます様々な事に興味広がると思われる。また、博物館の展示リニューアルにともなって展示室で使用する様々な動物の頭骨の固定、ヘビやオオサンショウウオの全身骨格標本の組立の依頼を博物館から受け、製作を開始した。その他、例年同様、琵琶湖博物館で開催された、はしかけオープンハウスに参加し、「骨で遊ぼう」と題して骨を通じて来館者と交流活動や標本展示を行った。さらに、滋賀民報社で前年度1月から今年度6月まで全6回でコラムを執筆した。

「ほねほねくらぶ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所
4月例会	5日 シカ・カラスの除肉、シカ・イノシシ・クマの骨の洗浄、	琵琶湖博物館
	18日 アライグマの解剖、ニホンザルの骨の洗浄・補修、豚足の組立、	
5月例会	10日 はしかけ登録講座で活動紹介	琵琶湖博物館
	17日 ネコ・アライグマ・シカの解剖、クマ・ヤギの骨の洗浄、レプリカ作製	
	31日 ネコの解剖、クマの骨の洗浄、ニホンザルの骨の補修、レプリカ作製	
6月例会	13日 ネコの解剖、シカの骨の洗浄、レプリカ作製	琵琶湖博物館
	28日 シカの除肉、びわ博フェス展示準備	
7月例会	4日 びわ博フェスティバル（はしかけオープンハウス2015）に参加	琵琶湖博物館
	5日 プログラム「骨で遊ぼう」を開催。 内容：シカの骨並べ、頭骨当てゲーム、小展示「食卓の中の骨」	
	11日 タヌキの除肉、ニホンザルの骨の補修	
8月例会	26日 ネコの解剖、ヤギ、タヌキ、カメなどの標本の整理、 シカ、イノシシの骨の洗浄	琵琶湖博物館
	9日 リスザルの骨の洗浄、カメの標本の整理	
9月例会	22日 アライグマの標本の整理、 博物館のリニューアルで使用される標本の準備作業	琵琶湖博物館
	13日 シカの除肉、リスザル、タヌキなどの標本の整理、カメの骨の洗浄	
10月例会	26日 3体分のカメの骨の洗浄	琵琶湖博物館
	18日 ネコ・ヘビ・ヒミズの解剖、カラス・カメの骨の洗浄	
	25日 はしかけ登録講座での活動紹介	
	31日 寄贈された骨の同定作業、ヘビの除肉、カメの骨の洗浄	

活動日	内 容	場 所	
11月例会	7日	ヘビの解剖、タヌキやカメなどの標本の整理、寄贈された骨の洗浄	琵琶湖博物館
	21日	リスザルの皮剥ぎ、ネコの除肉、ヒミズの皮剥ぎ、イタチの解剖、ヤギ、アオサギ、カミツキガメなどの標本の整理	
12月例会	13日	ネコ・ヘビ・ハクビシンの解剖	琵琶湖博物館
	20日	リスザル・ヘビ・ハクビシンの除肉、淡海こどもエコクラブ活動交流会の参加者向けのプログラムへの協力	
1月例会	16日	リスザルの除肉、シカ、カメの骨の洗浄	琵琶湖博物館
	31日	ハクビシンの解剖、ツキノワグマなどの標本の整理、博物館のリニューアルで使用される標本の準備作業	
2月例会	20日	高橋学芸員による解剖学講座第1回目	琵琶湖博物館
	27日	カメの甲羅の組み立て、カミツキガメなどの標本の整理、博物館のリニューアルで使用される標本の準備作業	
3月例会	6日	カミツキガメ、ニホンザル、ヤギ、ヒツジなどの標本の収蔵準備	琵琶湖博物館
	13日	はしかけ登録講座での活動紹介	
	20日	カモの解剖、イタチの解剖、リスザル、タヌキなどの標本の収蔵準備	

○緑のくすり箱

会長：吉野まゆみ

担当学芸員：大久保実香

会員数：15名

〔設立の趣旨〕 薬用植物に興味を持ったアロマセラピスト8名で設立したグループである。薬用植物だけに限らず、身の回りにある植物を健康生活に生かそうと、普段の生活に使える利用法を実践しながら、研究している。

〔活動の概要〕 今年度は「身近にある薬草の利用法」「五感で楽しむ植物療法」をテーマに、実践と情報交換を行った。イベント毎に担当者を決めて、材料の準備から、はしかけニューズレターの原稿作成までを責任をもって行うこととした。今年度は主に薬草について知識を深めるため、関連する施設の見学等の活動が多かった。

「緑のくすり箱」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
4月 12日	会合・わくわく探検隊のお手伝い 「春の草花でしおりを作ろう」	琵琶湖博物館	全員 参加者：16名
5月 4日	ジョイ伊吹「薬草フェスタ」	伊吹薬草の里センター	担当：長澤 参加者：9名
5月 5日	くつきの森「セラピーの道を歩こう」	くつきの森	担当：長澤
6月 14日	虫よけキャンドル作りとハンドマッサージ練習会	琵琶湖博物館 実習室	担当：岩本・田井中 参加者：14名
7月 5日	びわ博フェスタ2015 「アロマハンドマッサージ」	琵琶湖博物館 実習室	担当者：全員 参加者：12名
8月 11日	山科植物資料館 見学	山科植物資料館	担当：加藤
8月 30日	水族展示見学ツアー	琵琶湖博物館	担当：熊谷 参加者：14名
10月 31日	伊吹山文化資料館見学	伊吹山文化資料館	担当：吉野千・吉野ま 参加者：7名
10月 31日	きゃんせの森・森林療法体験	きゃんせの森	担当：吉野千・吉野ま 参加者：6名
12月 6日	琵琶湖博物館で薬草ピザパーティ	琵琶湖博物館 実習室	担当：長津・久保 参加者：15名

活動日	内 容	場 所	担当者・参加者
1月10日	七草がゆと廃油石鹸作り	琵琶湖博物館 実習室	担当：堀田 参加者：13名
3月13日	年度末総会	琵琶湖博物館 研究棟	担当：吉野ま 参加者：11名

○はしかフェ

担当学芸員：林 竜馬・榊永一宏

〔設立の趣旨〕はしかけ登録者および新規登録者を対象に、よりよい琵琶湖博物館を創造していくための活動について、博物館と参加者が一体となって考え、話し合い、実践していくための場を提供することを目的に、月1回の頻度で「はしかフェ」を実施した。そのような活動をとおして、どのグループに参加してよいかわからない新規登録者への導入、はしかけ登録者同士や学芸員との交流機会、会員限定の勉強会や観察会などの新たな参加者ニーズの開拓、リニューアルへ向けた利用者意見の吸い上げ、新たな博物館活動の展開などを目指した。

〔活動の概要〕2015年度には、2014年度に実施した「はしかけミーティング」での成果をうけて、屋外展示の活用を目指した勉強会や観察会、はしかけ登録者主体でのイベント、話し合いを実施し、7月のびわ博フェスでの「はしかけガイドツアー」を実施した。また、2014年度に引き続き、屋外展示の環境整備の一環として、樹木解説版の設置を「はしかフェ」の中で行った。後半には、屋外の活用だけでなく、大人のディスカバについてはしかけ登録者ととも考えていくことや、既存グループとの交流をはかることを目指した「はしかフェ」を実施した。

「はしかフェ」のおもな活動

活動日	内 容	場 所	参加者数
4月25日	はしかけガイドツアーへ向けて1「博物館の森の概要を学ぶ観察会」	生活実験工房・屋外展示	8名
5月23日	はしかけガイドツアーへ向けて2「博物館の森にすむ生き物を学ぶ観察会」	生活実験工房・屋外展示	19名
6月27日	はしかけガイドツアーへ向けて3「博物館の森の植物の見どころ観察会」	生活実験工房・屋外展示	10名
7月4日	博物館の森のガイドツアー・企業の森づくり事例勉強会	生活実験工房・屋外展示・セミナー室	8名 体験者：77名
8月1日	フィールドレポーターと話そう「びわ湖バレイでアキアカネ観察会」	びわ湖バレイ	12名
9月26日	博物館イベント「50年前の暮らしを体験」に参加	C展示室・会議室	7名 体験者：25名
10月25日	新規登録はしかけさん歓迎「屋外の森はしかけガイドツアー」	生活実験工房・屋外展示	5名 体験者：4名
11月14日	「わくわく探検隊 秋の色さがし」に参加	実習室・屋外展示	13名
12月20日	「しめ縄つくりと昔のくらし」に参加	生活実験工房	3名
2月6日	収蔵庫で標本を体験・大人のディスカバについて考える	実習室・収蔵庫	7名
3月13日	屋外の森の案内と看板の設置をしよう	屋外展示	2名 体験者：12名

地域交流活動への支援

地域連携は、中長期基本計画の目標である「地域だれでも・どこでも博物館」の実現を目指し、地域や企業、大学などと連携し、講義を通して博物館における展示や研究の魅力を利用者に伝える手法であり、地域における自主的な人づくりとなる活動の支援を行うものである。具体的には、学芸員の専門性を活かした展示に関する興味深い内容の講義や博物館の利用者に対するスキルアップを目指した研修・講演および観察会を行い、参加型の利用者ニーズに応えた博物館づくりを目指している。2015年度は、館内80件、参加者3,133名となり、館外では57件、参加者3,143名の活動実績となった。

(1) 博物館内での支援事業

月	日	曜日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
4	8	水	大阪芸術大学	琵琶湖の生い立ち	里口	220
4	11	土	開智中学校	琵琶湖について	間所	170
4	16	木	豊田市教育委員会	博物館の運営体制	松田	30
4	17	金	美濃加茂伝承料理の会	滋賀の食文化	篠原	35
4	21	火	立命館大学理工学部建築都市デザイン学科	中世以降の琵琶湖における集落形成史	橋本	9
4	26	日	成安造形大学	プランクトン実習	楠岡	73
4	28	火	京都 SKY シニア大学	琵琶湖の自然(湖水の流れをめぐって)	戸田	54
5	8	金	岐阜県世界淡水魚園水族館「アクア・トトぎふ」	ディスカバリールームの運営や利用状況	澤邊	1
5	9	土	京都教育大学教育学部社会科学科	琵琶湖周辺の人々の暮らしについてと館内概要	楊	43
5	16	土	鹿児島大学水産学部	施設見学等	松田	10
5	20	水	こどもと自然の研究所	親子しぜんあそびの広場	中川	13
5	21	木	岐阜市長良中学校	琵琶湖の環境を守る	浦山	24
5	22	金	滋賀医療機器工業会	琵琶湖博物館の概要	高橋	30
5	23	土	近畿大学農学部(館内・水族バックヤード)	琵琶湖博物館の博物館活動	金尾	69
5	24	日	栗東ロータリークラブ	最近の琵琶湖の魚と水環境	松田	10
5	26	火	三重県津農林水産事務所	シジミの遺伝的育種学的研究	松田	1
5	30	土	近畿大学農学部(館内・水族バックヤード)	琵琶湖博物館の博物館活動	金尾	39
6	3	水	ふくしま海洋科学館	標本の教育普及活動	金尾	2
6	6	土	栗東ロータリークラブ	琵琶湖の魚と水環境	松田	55
6	7	日	滋賀県農政水産部農村振興課	豊かな生きものを育む水田体験ツアー	水谷	30
6	11	木	若鮎保育園	自然と食体験	水谷・中川	35
6	17	水	こどもと自然の研究所	親子しぜんあそびの広場	中川	14
6	20	土	「JENESYS20」2015年度中国高校生訪日団	琵琶湖の環境保護と生活面での省エネの取り組み	浦山	224
6	24	水	愛荘町長塚地域センター	琵琶湖と田んぼの生き物	グライガー	27
6	24	水	龍谷大学経済学部	琵琶湖と人の暮らし	大久保	36
6	28	日	近畿大学農学部水産学科	外来魚に関する講義	山本充	64

月	日	曜日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
6	30	火	明治大学農学部食料環境政策学科	琵琶湖の生態系に配慮した農業の現状と課題	水谷	11
7	2	木	ささやま市民文化講座	近江の歴史	用田	160
7	9	木	大阪千里ネイチャー会	琵琶湖について	芳賀	20
7	15	水	こどもと自然の研究所	親子しぜんあそびの広場	中川	10
7	21	火	京都大学大学院工学研究科	滋賀県の流域治水について	井関	6
7	22	水	イオン草津チアーズクラブ	びわこの水草について調べよう	芦谷	18
7	25	土	認定 NPO 法人びわこ豊穰の郷	赤野井湾の生物、水質、底質の変遷および同内湾の外来植物について	芳賀	60
7	25	土	日本生命 CSR 推進部	ニッセイ「森の探検」	高橋/水谷 /中川/草加/小嶋/ 山本/榊永	40
7	26	日	高月町井口子ども会	琵琶湖の生い立ち	里口	28
8	1	土	滋賀県高等学校文化連盟自然科学部会	博物館学芸員による講座	金尾	50
8	8	土	大津環境フォーラム	琵琶湖の魚	中井	30
8	9	日	東京学芸大学教育学部	琵琶湖博物館の活動や理念について	榊永	7
8	13	木	近江鉄道株式会社	博物館の概要	高橋	30
8	14	金	近江鉄道株式会社	博物館の概要	高橋	30
8	15	土	近江鉄道株式会社	博物館の概要	用田	30
8	16	日	近江鉄道株式会社	博物館の概要	松田	30
8	18	火	ホテルの学校	昆虫観察	榊永	30
8	19	水	滋賀県農政水産部水産課	魚貝類全般について	山本	20
8	21	金	滋賀県農政水産部水産課	魚貝類全般について	山本	20
8	22	土	近江鉄道株式会社	博物館の概要	用田	30
8	23	日	近江鉄道株式会社	博物館の概要	高橋	30
8	25	火	東近江市奥永源寺溪流の里運営協議会	魚の育成生態、飼い方について	桑原/山本	4
8	26	水	神戸大学人間発達学部	博物館における環境への取り組みについて	澤邊	6
8	29	土	近江鉄道株式会社	博物館の概要	松田	30
8	30	日	近江鉄道株式会社	博物館の概要	八尋	30
8	31	月	立命館大学	展示や博物館経営についての課題や今後の取り組み	澤邊	1
9	13	日	日本土壌肥料学会若手の会	植物化石について	山川	25
9	16	水	こどもと自然の研究所	親子しぜんあそびの広場	中川	30
9	25	金	龍谷大学農学部	琵琶湖周辺の環境と滋賀の農業について	水谷	204
9	29	月	立命館大学	海外の博物館のハンズオン展示について	榊永	1
10	2	金	龍谷大学農学部	琵琶湖周辺の環境と滋賀の農業について	水谷	204

月	日	曜日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
10	7	水	こどもと自然の研究所	親子しぜんあそびの広場	中川	17
10	9	金	日本の森を守る地方銀行有志の会	展示案内(滋賀の森・琵琶湖の水・人々のくらしの共生)	高橋	20
10	15	木	滋賀県立大学環境学部 環境政策・計画学科	キャリア形成教育	楊	47
10	18	日	近江八幡市牧町農地水環境委員	琵琶湖の水生植物について	芦谷	40
10	18	日	関西大学文学部地理学・地域環境学専修	草津市を地理学的視点で総合的に考える	橋本	36
10	25	日	愛知学院大学	収蔵庫施設の説明と案内	戸田	36
10	25	日	玉津児童クラブ室保護者会	お米についての話、脱穀体験、カマド調理体験	水谷/中川/池田	29
10	29	木	たかつき市民環境大学	琵琶湖のまわりの人々の暮らしと水環境について	用田	33
10	31	土	島根大学生物資源科学部	琵琶湖の環境保護と生活面での省エネの取組について	浦山	8
11	14	土	滋賀大学国際センター	琵琶湖の概要について	グライガー	6
11	18	水	こどもと自然の研究所	親子しぜんあそびの広場	中川	30
11	28	土	高島の未来を考える会	講義と生活実験工房の見学	水谷	40
12	2	水	木津川を美しくする会精華町支	河川の維持管理と水害について	井関	31
12	22	火	こどもと自然の研究所	親子しぜんあそびの広場	中川	15
1	26	火	ひとつぶてんとう園	炊飯体験、カトラリー作り	池田/中川	17
1	27	水	こどもと自然の研究所	親子しぜんあそびの広場	中川	15
2	3	水	せた♪森のようちえん	みそ作り	水谷/中川	30
2	6	土	いまづ自然観察クラブ	琵琶湖の誕生について	里口	16
2	9	火	関西大学	琵琶湖の外来魚について その被害と対策	山本	14
2	17	水	こどもと自然の研究所	親子しぜんあそびの広場	中川	26
2	18	木	栗東自然観察の森 NVR 友の会	屋外展示の樹木について	草加	11
2	21	日	京都大学大学院	AB 展示室ガイドツアー	グライガー	36
3	16	水	こどもと自然の研究所	親子しぜんあそびの広場	中川	37

(2) 地域での支援活動

月	日	曜日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
4	17	金	宇治市立小倉小学校	琵琶湖の水生生物	松田	30
4	25	土	TANAKAMI こども環境クラブ	田上天神川の生き物さがし	榊永	30
4	26	日	滋賀の食事文化研究会	古文書からみるフナズシの歴史	橋本	38
5	15	金	滋賀県レイカディア大学サポート隊	外来魚駆除における一般的な知識	山本充	150
5	16	土	ホテルの学校	川の中の生きもの調べ	榊永	30
5	18	月	長浜市立朝日小学校	環境委員会の魚調査	間所	30
6	2	火	膳所小学校	プランクトンの観察	楠岡	30
6	6	土	大津市環境部環境政策課	川観察	山本充	52
6	10	水	加茂野農水産加工グループ・岐阜県立加茂農林高校	水田を利用したホンモロコ養殖に伴う水生生物の関係	大塚	11

月	日	曜日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
6	13	土	ホテルの学校	ホテルのタベと観察会	榊永	200
6	13	土	地域環境資源センター	生きもの調査	金尾	30
6	14	日	栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会	魚のゆりかご水田学習会	大塚	120
6	16	火	大津市立逢坂小学校	エコスクール活動について	松田	20
6	20	土	竹町のしぜんを守る会	生き物観察会	水谷	20
6	20	土	須原魚のゆりかご水田協議会	生き物観察会	金尾	200
6	30	火	パナソニック(株)アプライアンス社	生物多様性	澤邊	100
7	9	木	針江生水の郷委員会	びわ湖学習会	松田	75
7	11	土	野洲市比留田自治会	ジャンボタニの定点観察	松田	30
7	20	月	琵琶湖河川事務所	プランクトンの観察のススメ	楠岡	30
7	20	月	守山市勝部自治会	「魚とり」の際の魚の記録と最終の総括	金尾	235
7	22	水	近江歴史回廊倶楽部	中世近江の「ムラ」を考える	橋本	65
7	29	水	京都・東山中学	外来魚のひみつ	山本/中井	141
8	3	月	シニア自然大学校	淡水魚(分類と生態)	桑原	45
8	3	月	守山市下之郷史跡公園	魚つかみと観察	松田	20
8	4	火	シニア自然大学校	淡水魚(分類と生態)	桑原	57
8	4	火	小佐治環境保全部会	生きもの観察会	水谷/大塚	35
8	4	火	快適環境づくりを進める会	川の生き物観察会	金尾	30
8	4	火	彦根市生活環境課	小野川の自然観察会	金尾	30
8	20	木	立命館守山高等学校	水環境探究ワークショップ	芦谷	12
8	22	土	大津市科学館	カワウってどんな鳥	亀田	30
8	24	月	守山市下之郷史跡公園	魚つかみの成果とお話し	松田	20
9	14	月	シニア自然大学校	淡水魚(採取と同定)	桑原	45
9	16	水	シニア自然大学校	淡水魚(採取と同定)	桑原	57
9	30	水	大阪動植物海洋専門学校	魚のゆりかご水田について	大塚	48
10	2	金	大阪動植物海洋専門学校	琵琶湖のプランクトンについて	澤邊	23
10	4	日	日本生命滋賀支社	自然観察会	草加	60
10	15	木	滋賀県立虎姫高校	琵琶湖の生い立ち	里口	240
10	22	木	滋賀県職員生活協同組合	琵琶湖の成り立ち	里口	40
10	23	金	滋賀県中学校教育研究会	ゾウもワニもいた琵琶湖のほitori	高橋	50
11	6	金	彦根市立若葉小学校	琵琶湖について	岡部	30
11	7	土	草津市立常盤小学校	琵琶湖の成り立ちとゾウなどの生き物の変遷について	高橋	30
11	8	日	九州国立博物館	教育普及事業について	岡部	6
11	11	水	奈良県三郷町教育委員会生涯学習課	琵琶湖の水質について	芳賀	40
11	15	日	NPO 法人自然と緑 自然大学	プランクトンの観察	楠岡	70
12	12	土	京都・東山中学	水質のひみつ	浦山	140
12	12	土	TANAKAMI こどもクラブ	カヤネズミのすみかを探ろう	澤邊	30

月	日	曜日	参加団体(依頼者)	内容・テーマ	担当者	参加者数
12	16	水	ヤンマーミュージアム	ビオトープの維持・管理について	楠岡	14
12	25	金	滋賀県陶芸の森	琵琶湖の生い立ちと信楽の粘土	里口	25
1	23	土	京都文化博物館(館内・会議室)	琵琶湖博物館の交流活動の概要	間所	22
2	7	日	国際連合大学	生物多様性の保全・活用活動について	大塚	17
2	8	月	西日本自然史系博物館ネットワーク	琵琶湖博物館のリニューアル計画について	藤村/松田	30
3	1	火	大津市立逢坂小学校	エコスクール活動について	松田	20
3	4	金	滋賀県南部土木事務所	木浜内湖の事業に関する意見交換	松田	30
3	7	月	びわこビジターズビューロー	宣伝キャンペーンについて	松田	30
3	19	土	米原市教育委員会	松尾寺跡 行者道を巡る	用田	20
3	23	水	新浜町老人クラブ寿会	琵琶湖の魚貝類について	松田	30
3	26	土	京都市動物園	イチモンジタナゴの生態系及び現状について	松田	50

(3) 質問対応

博物館利用者からの質問や疑問、要望や相談は、直接受け付ける「質問コーナー」と、いつでもどこからでも受け付ける通信網（電子メール等）を利用した「Query」で対応している。

1) 質問コーナー

開館当初から“学芸員の顔が見える博物館”づくりを行っており、図書閲覧室の一角に「質問コーナー」を設置し、博物館利用者からの質問や疑問、相談を直接受け付けている。質問コーナーに学芸職員が常駐することで、利用者からの質問に迅速に答えることができ、専門的な知識を直接伝えることで利用者が自ら調べることができることを応援している。また、博物館利用者との対話による情報交換ができる場となっている。対応学芸職員が日替わりで担当し、当日展示室で行う「フロアトーク」の担当も兼ねている。担当学芸職員の予定を博物館ホームページや図書閲覧室の入口壁に掲示し、専門分野の担当者がある日に質問ができるよう配慮している。質問には担当学芸職員がその場で対応するようにしているが、専門的な内容を含む質問等はそれぞれ専門の学芸職員に回答を依頼したり、調べたりして後日回答している。質問コーナーに来室される場合のほか、電話による質問や相談に応じている。

なお、リニューアル工事に伴い、10月1日から3月24日までは土曜、日曜、祝日の質問コーナー、フロアトークを実施した。

質問コーナーにおける質問受付数

期間	2015年4月1日～2016年3月31日	
総質問数	554件（709名）	
質問形態	来訪による質問	507件
	その他による質問	47件

2) 通信網（電子メール「Query」）による対応

博物館との情報交換サービスを充実させるため、開館以来、質問、要望、相談などを受け付ける専用の電子メールアドレス(query@ibm.go.jp)を設定し、受付担当者が受信した電子メールの内容に応じて専門の学芸職員に転送し、回答するサービスを継続的に行っている。2015年度は総数132件あった。

専門的な内容を含む質問 生物 46 (水域 30・陸域 15・植物 1) 地学 4 歴史・民俗 3 環境 4	57 件
施設利用や行事の問合せ・案内資料請求	11 件
資料の提供・利用、収蔵資料に関する問合せ	12 件
広報掲載・取材依頼 (リンク許可・サイト登録を含む)	9 件
館の運営への提案・意見・問合せ・その他 (他機関のお知らせ等)	34 件
上記質問に対する再質問	9 件

回答に応答しての追加質問など、継続したやりとりは、合わせて1件とした。
 担当者特定して問い合わせ等を行うために設定した電子メールアドレスへのメールは計数していない。
 その他、一般利用者に公表されているメールアドレスとしては以下のものがある。
 photo@lbm.go.jp 画像データベースに関する問い合わせ・要望・情報提供
 db-admin@lbm.go.jp データベースに関する連絡
 dantai@lbm.go.jp 団体利用に関する問い合わせ・打ち合わせ
 chiiki_renkei@lbm.go.jp 地域連携活動に関する問い合わせ・打ち合わせ
 meteo@lbm.go.jp 気象情報提供に関する各種連絡
 jisshu@lbm.go.jp 学芸員実習に関する問い合わせ
 hashi-adm@lbm.go.jp はしかけ制度に関する問い合わせ
 press@lbm.go.jp 記者発表や報道資料提供に関する問合せ先
 souzou@lbm.go.jp 新琵琶湖学セミナー参加申込先
 newlbm@lbm.go.jp 新琵琶湖博物館創造事業に関する各種募集受付

琵琶湖博物館環境学習センター

(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供

自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページやメールマガジンなどにより発信を行い、環境学習の活動の場づくりを応援した。

1) 環境学習に関する相談対応等

相談件数 209 件 教材貸出件数 129 件

2) 環境学習情報のホームページ「エコロシーガ」の運用

アクセス数 217,324 件

3) 環境学習情報メールマガジン「そよかぜ」の発行

発行回数 計 21 回 登録者数 973 人

4) ブース出展

7月8日 草津エコフォーラム 2015 (草津市役所)
 7月18日・19日 第8回水辺の匠面白ステージ (ウォーターステーション琵琶)
 7月27日 近江八幡市学校支援メニューフェア (近江八幡市立金田小学校)
 1月30日 草津市こども環境会議 (草津市役所)

(2) 環境学習の交流の場づくり

1) 環境学習活動者交流会

取組事例の発表をもとに活動者・指導者が情報交換や交流を深めるとともに、各団体のプログラムへの相互参加や連携実施のきっかけづくりなど、活動者・指導者のネットワーク強化を促進するための場を設けた。

- ・2016年2月20日 参加者41名（琵琶湖博物館）



2) こどもエコクラブ事業

地域における子どもたちの自主的な環境学習や環境保全活動の取組である「こどもエコクラブ」の活動を、市町と連携して応援した。（県内会員数 128 クラブ 計 5,738 名）

- ・12月20日 「淡海こどもエコクラブ活動交流会」（琵琶湖博物館） 13クラブ、177名参加
- ・3月20日 「こどもエコクラブ全国フェスティバル2016」（早稲田大学西早稲田キャンパス）
県代表 NPO 子どもネットワークセンター天気村こんぺいとうクラブ（草津市）が参加

3) びわ博フェス 2015

第1期のリニューアルオープンの1年前に当たる2015年7月に、新しい琵琶湖博物館の魅力を交流や展示、様々なイベント等を通じて発信することで県民のリニューアルへの期待を膨らませる交流イベントを実施した。

- ・開催日 7月4日（土）・5日（日）
- ・来館者数 8,860人（7月4日 3,206人、7月5日 5,654人）
- ・主な内容：
 - 「さかなクンのギョギョッとびっくりお魚教室」
 - 体験コーナー
漁師さんと行くエリ漁ツアー、博物館の森ガイドツアー
水族展示バックヤード探検
 - アトリウムコンサート
マリンバ・打楽器コンサート、よし笛コンサート
 - 夜のイベント
夜の昆虫観察会、七夕のお話会（星空観察会）、夜の水族展示
 - おいしがうれしが特産マーケット
地域特産を活かした食のコーナー
 - ふれあい広場
やぎ、ひつじ、うさぎ、ひよこが来るよ！





情報発信活動

(1) サテライトミュージアム・地域発見！参加型移動博物館

「地域発見！参加型移動博物館」事業は、2011年度に「マザーレイク滋賀応援基金」を活用して制作した移動型の展示キットを、琵琶湖淀川流域をはじめとする各地で移動展示し、学芸員や交流員による対話を交えて琵琶湖や滋賀県に対する興味と関心を高め、琵琶湖博物館への誘客を図ることを目的としている。また、「サテライトミュージアム」事業は、2016年7月の第1期リニューアルオープンに向けてその広報要素も加えて、展示を行うことを目的としている。

今年度は、キットの貸出様式を作成し貸出も積極的に実施して、県外20件（大阪府8件、京都市2件、神戸市1件、その他韓国、東京都、姫路市、名古屋市）、県内12件の計32件で、サテライトミュージアム・移動博物館を展開した。この中で、リニューアルを広く知っていただくためのサテライトミュージアムとして、関西で8店舗の大型商業施設やJR大阪駅で展開を図った。サテライトミュージアムの中では、リニューアルや琵琶湖博物館（企画展）への関心を高めるため、7月19日、20日、25日、8月1日に、自分で塗り絵をした絵をうちわに貼ってオリジナルうちわを作成する、また7月26日、8月2日に、石こうを用いた化石レプリカを作成するワークショップを開催し、いずれも好評であった。

展示物に関しては、「サテライトミュージアム」事業として、リニューアル広報に効果的な映像と模型（映像3本×2編集、模型1つ）を作成した。映像は、リニューアルの概要を紹介する「2016年夏、滋賀県立琵琶湖博物館がリニューアルオープンをします!」、バイカル湖の魚が博物館に来たときの状況を紹介する「バイカル湖の魚たちがやってきた!」、リニューアル後のC展示室が大阪湾から琵琶湖、さらには山の水源まで、水によってつながっていることを表しているとする「鳥になってたどってみよう 琵琶湖の水のつながり」の3本について、長編と短編を作成した。また、リニューアル後の展示を先行的に見せる目的でカワウを持って重さを体感する模型の作成を行った。

開催日	イベント名	会場	運営者
3月26日～4月5日 4月28日～5月6日	大津プリンスホテル Lakeside Paradise2015「春」	大津プリンスホテル	用田、草加
4月3日～5日	コクヨハク	JPタワー・KITTE (東京都千代田区)	貸出
4月12日～17日	第7回世界水フォーラム (滋賀県・滋賀大学共同ブース内)	韓国テグ市	貸出
5月30日	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター10周年記念	大津港棧橋周辺	貸出
6月29日	日本遺産フォーラム (滋賀県ブース内)	東京国立博物館 平成館 (東京都台東区)	貸出
7月10日～10月18日	期間限定・特別企画「考えてみよう！外来生物のこと」	海遊館（大阪市港区）	貸出

開催日	イベント名	会場	運営者
7月18日～8月23日	琵琶湖博物館がやってきた！	東急ハンズ心斎橋店 (大阪市中央区)	高橋、山川、 浦山
7月18日～26日	琵琶湖博物館がやってきた！	東急ハンズ京都店 (京都市 下京区)	貸出
7月18日～26日	琵琶湖博物館がやってきた！	東急ハンズあべのキューズ モール店 (大阪市阿倍野区)	貸出
7月24日～8月23日	しがのええトコ博	大津パルコ	貸出
7月30日～8月2日	エース JTB スペシャルウィーク	大津プリンスホテル	貸出
8月1日～9日	琵琶湖博物館がやってきた！	東急ハンズ江坂店 (大阪府 吹田市)	貸出
8月1日～9日	琵琶湖博物館がやってきた！	東急ハンズ姫路店 (兵庫県 姫路店)	貸出
8月4日	近畿小学校長会協議会研究大会 滋賀大会	大津プリンスホテル コンベンションホール	山川、浦山
8月5日～12日	移動博物館展示	大津プリンスホテル	貸出
8月13日～18日	プリンス広場	大津プリンスホテル	貸出
8月14日～23日	琵琶湖博物館がやってきた！	東急ハンズ梅田店 (大阪市 北区)	貸出
8月14日～23日	琵琶湖博物館がやってきた！	東急ハンズ三宮店 (神戸市 中央区)	貸出
8月22日	第9回博物館夏祭り	ビバシティ彦根	貸出
9月19日～20日	イナズマロックフェス (琵琶湖博物館ブース内)	烏丸半島芝生広場	金尾
10月11日	海遊館 25周年記念シンポジウム (関連出店エリア)	海遊館ホール (大阪市港区)	寺西、水谷
10月24日～25日	第22回全国山城サミット 米原大会	滋賀県立文化産業交流会館	貸出
11月1日～7日	やまびこ文化祭	指定介護老人福祉施設「や まびこ」(愛荘町)	貸出
10月29日～12月13日	d design travel SHIGA EXHIBITION (琵琶湖博物館テーブル)	d47 MUSEUM (渋谷ヒカリエ 東京都渋谷区)	貸出
12月12日～13日	京都環境フェスティバル 2015 (滋 賀県ブース内)	京都府総合見本市会館 (京 都パルスプラザ 京都市伏 見区)	貸出
12月17日	近江商人ゆかりの町連絡会 観光 物産展	みずほ銀行本店 (東京都千 代田区)	貸出
12月26日～1月6日	地域発見 滋賀県琵琶湖博物館によ る 移動博物館	西武大津店	貸出
1月27日～29日	InterAqua2016 第7回国際水ソリ ューション総合展(滋賀県ブース 内)	東京ビッグサイト (東京都 江東区)	貸出
2月14日	いいね！地方の暮らしフェア(滋賀 県ブース内)	池袋サンシャインシティ文 化会館 (東京都豊島区)	貸出
3月12日～13日	東近江市観光物産 PR キャンペーン	JR 金山総合駅 (名古屋市中 区)	貸出
3月20日～21日	MUSUBU SHIGA 2016 OSAKA STATION CITY～滋賀・びわ湖ブランド展～ (琵琶湖博物館コーナー)	JR 大阪駅 大阪ステーショ ンシティ 5階 時空の広場 (大阪市北区)	山川、山本 孝、南、 浦山
3月28日～31日	2016.7.14 琵琶湖博物館がリニュー ーアルオープンします！	くずはモール1階 グラン ドアトリウム (大阪府枚方 市)	山川、金尾、 渡部、浦山



琵琶湖博物館がやってきた！
東急ハンズ心斎橋店（大阪市中央区）



MUSUBU SHIGA 2016 OSAKA STATION CITY
～滋賀・びわ湖ブランド展～（琵琶湖博物館コーナー）
JR大阪駅 時空の広場（大阪市北区）

(2) インターネットを利用した館外への情報提供

当館は独自のインターネットウェブページを通じて展示案内・行事案内・交通案内などの利用情報を提供している。情報の更新頻度は週2回程度である。このほか、収蔵資料の情報も公開している。

2015年度の連続アクセス数(延べ利用者数)は前年に比べ6,370件、率で0.6%の微増となった。4月から9月にかけては前年度よりアクセスが多かったが、10月、2月、3月には逆に少なく、年間を通じては前年度とほぼ同じ数字となった。この傾向は、水族展示閉鎖(9月～)とC展示室閉鎖(11月～)の影響によると思われる。

資料データベースのデータ閲覧件数は前年度の41,664件に対し、ほぼ倍増の81,504件となった。この変動原因は不明である。

インターネットページへのアクセス件数(2015年度)

	連続アクセス	ページヒット数	表紙アクセス	データベース
	(延べ利用者数の近似)	(閲覧ページ総数)	(表紙閲覧回数)	データ閲覧件数
4月	84,278	271,270	25,668	2,171
5月	94,709	312,713	29,350	10,860
6月	93,303	311,270	25,767	6,722
7月	108,829	327,388	37,865	5,093
8月	117,818	351,979	44,144	7,645
9月	93,320	277,760	27,584	6,446
10月	77,049	243,161	21,610	10,330
11月	78,661	254,165	22,345	12,392
12月	66,833	231,315	18,853	3,586
1月	69,973	253,311	20,064	10,648
2月	62,888	239,146	19,300	3,082
3月	62,397	236,161	22,785	2,529
合計	1,010,058	3,309,639	315,335	81,504

注：アクセス解析には当館のウェブサーバ上に記録したアクセスログを用いた。

館内からのアクセスは解析の前に通り除いてあり、上記の結果は館外からのアクセスである。

ただし、ウェブ上を巡回するロボットページは除外していない。

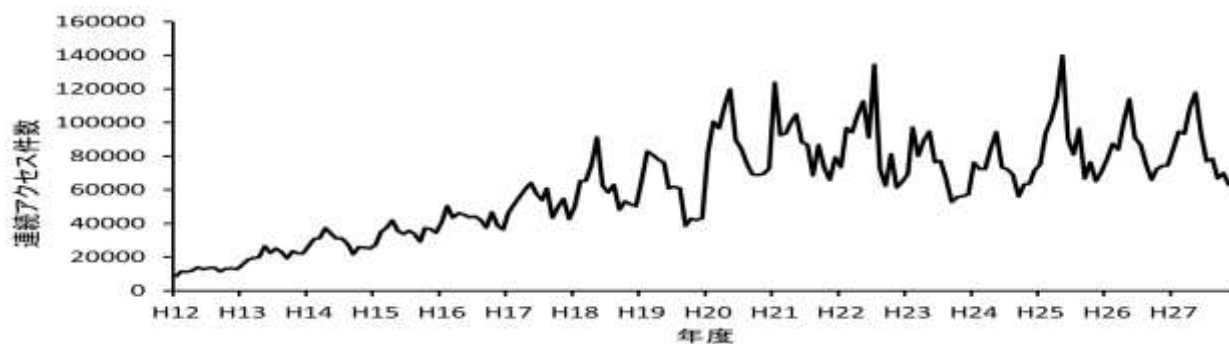
連続アクセス数(延べ利用者数の近似値)：同一利用者が概ね1時間以内に再度アクセスしたと思われるものは合わせて1件と数えた場合のアクセス件数。

ページヒット数(閲覧ページ総数)：各ページの定義ファイルに対する要求件数。

表紙アクセス数：トップページの閲覧回数

データベースデータ閲覧件数：データベースの各データページの閲覧回数

連続アクセス件数の経年変化



(3) 印刷物

品名	サイズ	ページ数	発行部数
企画展示「琵琶湖誕生」展示解説書	B5	71	2,000
企画展示「琵琶湖誕生」ポスター	A1		1,000
企画展示「琵琶湖誕生」チラシ	A4		50,000
びわ博フェスティバル! チラシ	A4		30,000
ポストカード (3種類) (海遊館)			各 1,000
滋賀が誇る逸品展と関連イベントチラシ	A4		5,000
ギャラリー展示「リニューアルの舞台裏」チラシ	A4		30,000
広報用「琵琶湖と川の魚」カレンダーポスター 2016	A1		1,500
広報用「リニューアル告知」ポスター	A1		1,500
新琵琶湖学セミナーチラシ	A4		1,500
琵琶湖博物館のイベント チラシ H27 後期	A4		10,000
サテライトミュージアム「リニューアル」広告チラシ1	A4		1,000
サテライトミュージアム「リニューアル」広告チラシ2	A4		1,000
研究調査報告書第28号	A4		1,000
研究調査報告書第29号	A4		500
びわ博だより 第21号	A4	4	3,000
びわ博だより 第22号	A4	4	3,000
びわ博だより 第23号	A4	4	3,000
びわ博だより 第24号	A4	4	3,000
広報用「琵琶湖&川の魚」チラシ 2015	A4		100,000
からすまいちばんポスター	A2		1,000
からすまいちばん探検ノート	A5		75,000

Ⅱ 新琵琶湖博物館の創造

新琵琶湖博物館の創造

琵琶湖博物館は、これまでの博物館像にとらわれない「湖と人間」をテーマにした新たな博物館として1996年に開館した。その後、『地域だれでも・どこでも博物館』を目標とする中長期基本計画を立案し、段階的に取り組んでいるところである。

開館以来19年が経過し、調査・研究および資料収集が進んでいることから、これらの成果に基づき、「湖と人間」のかかわりを過去から現在にわたってとらえ直し、「これからの共存関係」をより多くの来館者と共に、考えていく新たな展開が、琵琶湖博物館には求められている。

そのため、2012年度に館内に新琵琶湖博物館創造準備室を設置し、新たな博物館の提示・展開のあり方等について検討を行い、展示・交流空間の再構築の方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」（以下、「ビジョン」という。）をまとめ、そのビジョンを踏まえて2013年度に「新琵琶湖博物館創造基本計画」（以下、「基本計画」という。）を策定した。

2014年度において、基本計画に基づき第1期リニューアル（C展示室、水族展示）の実施設計を行い、それに基づき2015年度に、体験的な展示を多く取り入れて琵琶湖の魅力の発信力を強化し、参加と発見、対話と交流を促し、次代を担う人が育つ交流拠点としての展示・交流空間の再構築を目指し、2016年夏の第1期リニューアルオープンに向けて展示および建設工事に着手した。

(1) 滋賀県議会への報告等

滋賀県議会に、展示制作業務委託の契約締結につき議決を求めることの説明等を行った。

- ①各党派説明 2015年6月8日～6月15日
- ②環境・農水常任委員会 2015年7月10日
- ③6月定例会議本会議 2015年7月16日可決

会派の視察調査において、第1期リニューアルの説明と経過報告を行った。

- ①自由民主党滋賀県議会議員団 2015年9月3日
- ②日本共産党滋賀県議会議員団 2016年2月9日

(2) 第1期リニューアルにかかる展示および建設工事の契約締結

- ①展示制作業務委託 仮契約日：2015年6月16日 本契約日：2015年7月16日
契約業者：(株)乃村工藝社
- ②建築工事 契約日：2015年7月16日 契約業者：杉橋建設(株)
- ③電気設備工事 契約日：2015年7月14日 契約業者：マルイチエンジニアリング(株)
- ④機械設備工事 契約日：2015年7月14日 契約業者：川瀬産商(株)
- ⑤工事監理委託 契約日：2015年9月14日 契約業者：(株)大建設設計大阪事務所

(3) 有識者評価の実施

有識者の学術的・専門的な視点からの意見を、展示制作に反映させるための会議を開催した。

- ①2015年10月13日（染川香澄氏、井島真知氏）
 - ・展示手法・パネルデザインについて
 - ・「マイクロアクアリウム」展示手法について

- ・「ヨシ原へ入ってみると」展示手法について
- ・「私たちの暮らし」展示手法について 他
- ②2015年10月26日（染川香澄氏、井島真知氏）
 - ・展示手法・パネルデザインについて
 - ・「川から森へ」展示手法について 他
- ③2015年12月15日（高田浩二氏）
 - ・展示室間の連携について
 - ・展示空間における交流プログラムについて
- ④2015年12月19日（堀越昌子氏）
 - ・滋賀県の食事文化に関する展示内容について 他
- ⑤2016年1月7日（藤井伸二氏）
 - ・「ヨシ原に入ってみると」展示内容について
- ⑥2016年1月14日（西野麻知子氏）
 - ・「ヨシ原に入ってみると」展示内容について
- ⑦2016年1月19日（平山貴美子氏）
 - ・「川から森へ」展示内容について
- ⑧2016年1月28日（畠 佐代子氏）
 - ・カヤネズミの生態と展示について
- ⑨2016年3月5日（山崎真嗣氏）
 - ・「田んぼへ」展示内容について
 - ・微小生物の模型製作への助言
- ⑩2016年3月7日（富川 光氏）
 - ・「田んぼへ」展示内容について
 - ・微小生物の模型製作への助言
- ⑪2016年3月23日（中島良一氏）
 - ・リニューアルの広報・宣伝について

(4) 来館者・県民による展示評価の実施

仮設展示コーナーを設け、来館者等の行動・意見を集約し、展示制作に反映する調査等を実施した。

- ①2015年10月11日（来館者の行動追跡・インタビュー調査）
 - ・私たちの暮らし：暮らしを考える（コリントおみくじの展示意図が伝わるか）
 - ・水族展示：食べてみよう！琵琶湖の魚（フナずしの匂いをかいでもらえるか）
 - ・田んぼへ：ハッタミミズの長さはどのくらい？引き上げてみよう（楽しく体験するか）
 - ・川から森へ：川と人とのかかわり（パネル比較）

(5) ユニバーサルデザイン評価および統一検討会議の実施

ユニバーサルデザインの観点からの意見と、第2期、第3期を見据えた案内看板、音声ガイド、展示室名称などの統一仕様について、展示制作に反映させるための会議を開催した。

- ①2015年9月28日（田淵千恵子氏、頼尊恒信氏、渡邊孝宏氏、古閑正孝氏、古閑美恵子氏、北代元雄氏、町田義孝氏、中川詠子氏）
 - ・展示室名パネルデザインについて
 - ・ピクトデザインについて
 - ・解説パネルデザインについて

- ・解説文について

②2015年12月21日（田渕千恵子氏、美濃部裕道氏、渡邊孝宏氏、古閑正孝氏、古閑美恵子氏、北代元雄氏、外村孝子氏、町田義孝氏、中川詠子氏）

- ・音声ガイドについて
- ・テロップについて
- ・什器について
- ・トイレ整備について

Ⅲ 環境の整備

1 拠点としての施設整備

(1) 利用者用施設の整備

県情報政策課の行う県立施設無料Wi-Fi整備事業により、館内に4箇所のアクセスポイントを設置した。博物館利用者の利便性、特に、今後利用増加が見込まれる外国人観光客への利便性の向上や利用機会の拡大につながることを期待される。

(2) 情報システムの整備

・端末機器の更新

2015年度は特に大きな更新は無かった。

・セキュリティ等

情報システムの中核機器については専門業者に業務を委託し、常時監視を行っている。現在までのところ、侵入や改ざんの形跡は発見されていない。

端末のセキュリティについてはウィルス等対策ソフトウェアを全機にインストールし、完全スキャンを毎日行うように設定している。ウィルスをふくむ添付書類の付いた電子メールがしばしば発見されるが、開封はされておらず、対策ソフトウェアの処理と電子メールの削除で対処できている。

2014年度末からしばしば生じたネットワークの遅延現象は、回線の老朽化が原因であることが判明した。機器の交換後には遅延現象は起こっていない。

(3) 来館者アンケート調査

博物館利用者のニーズや満足度を的確に把握しながら、今後の展示の企画や広報活動など博物館活動や運営を考え、利用しやすい博物館づくりを進めるため、定期的な来館者アンケートを年数回実施している。

アンケートは1回目は平日と休日を含む3日間、2回目は土曜日から振り替え休日の月曜までの3日間で連続して実施した。観覧券発売時に毎日1,000枚を限度として手渡して配布するとともに、アトリウムと玄関横の2か所に記入用紙と回収箱を設置した。調査内容は、来館回数、情報源、来館目的、交通手段、滞在時間、利用場所のほか、満足度および感想や改善についての意見など選択式13項目、記述式2項目の全15項目からなる。設問のうち、来館回数、きっかけ、滞在時間、満足度、記入者自身の年齢、性別、住居域は、これまで実施したアンケート調査での共通項目となっている。今年度は新規に展示リニューアルにむけて、1項目「観覧した展示で一番よかったもの(記述式)」を加えた。また、2014年度の質問項目のうち2項目(また来たいと思うか。博物館の様々な活動に参加したいと思うか。)については、削除した。

1) 実績

今年度は夏と初春の2回実施した。

第1回 2015年8月21日(金)～23日(日)

第2回 2016年3月19日(土)～21日(月・祝日)

2) 結果

<第1回>

回収率: 今回の調査の回収率は4.4～10.2%、回答総数は385枚で、例年のこの時期の実施例から回収率、回答総数とも大きく増加した。回収率の向上にむけて、アンケート用紙の配布時の案内だけでなく、回収時

にも積極的な声掛けを行うなどの工夫の結果と考えられる。

来館回数：「はじめて」の割合が 41.8%と高く、ついで「4 回以上」の割合が 29.9%を占めている。これは従来の同時期の調査とも共通する傾向である。「2 回目」「3 回目」「4 回以上」を合わせた割合は 58.2%で、「はじめて」の割合を上回っており、例年通りリピート率が高い傾向にある。

年齢層・居住地・来館手段：年齢層の結果はおおむね従来通りで、30 代（20.5%）および 40 代（25.2%）が中心である。居住地は、県内 37.7%、県外 54%で、県外では大阪府が最も多かった（15.3%）となっている。移動手段は自家用車が 85.7%と圧倒的に多数だった。

情報源：友人・知人、家族・親戚による情報の合計が 32.7%で最も多く、例年通り口コミが最も重要な情報源となった。博物館ウェブサイト（9.5%）とその他情報サイト（15.0%）の合計が 24.5%となっており、雑誌・新聞・行政広報などの紙媒体の合計（18.2%）やテレビ・ラジオなどの電波媒体の合計（4.8%）より大きい。この結果から、インターネットの重要性が増していることが伺われる。新聞、ラジオなどの有料広告やチラシの効果は相対的に低く、今後の利用について検討する必要がある。

同行者：「家族」（73.4%）が最も多く、2位の「友人・知人」（12.5%）を大きく上回った。「子」や「孫」を連れて来館した人の割合が 69.3%、同じく「父母」や「祖父母」を伴って来館した人が 22.3%となっており、幅広い世代の来館者への配慮が必要と考えられる。

滞在時間：滞在時間は 1～2 時間 47%で最も多く 2～3 時間（30.4%）がこれに次いだ。全体的には滞在時間の短い人の割合が増える傾向にあり、その原因について検討が必要と思われる。

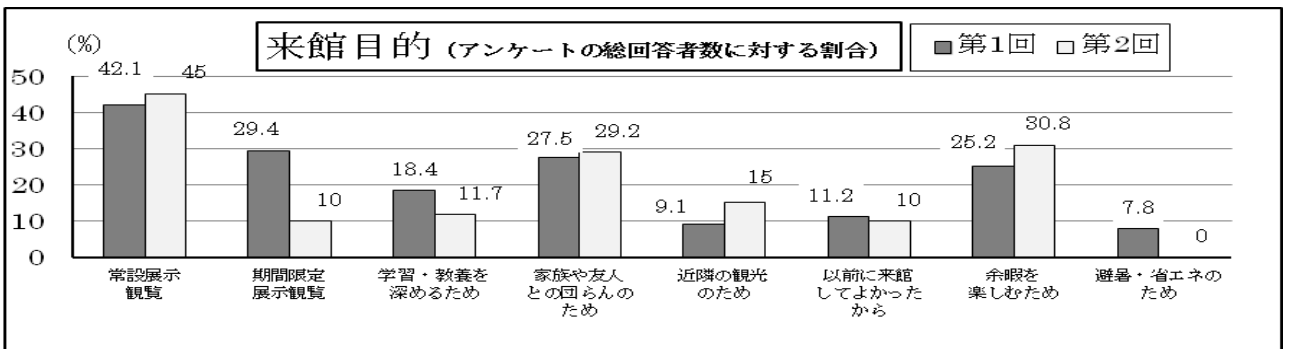
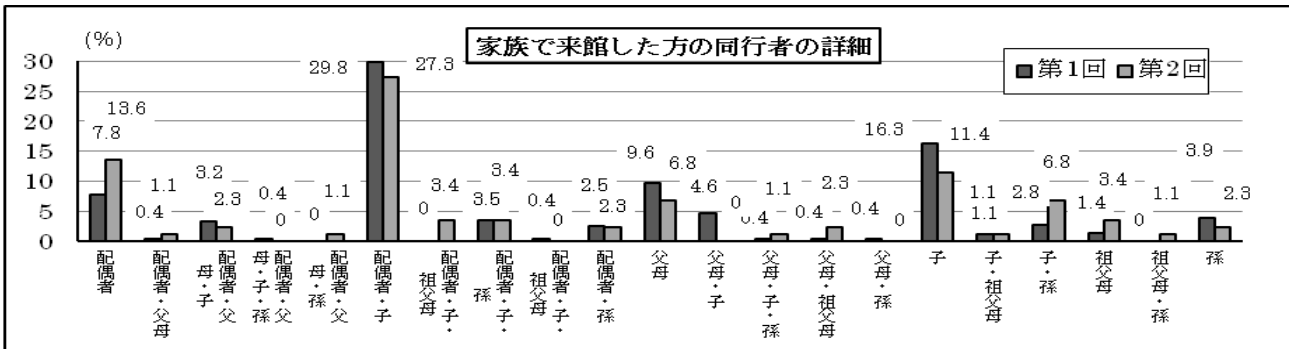
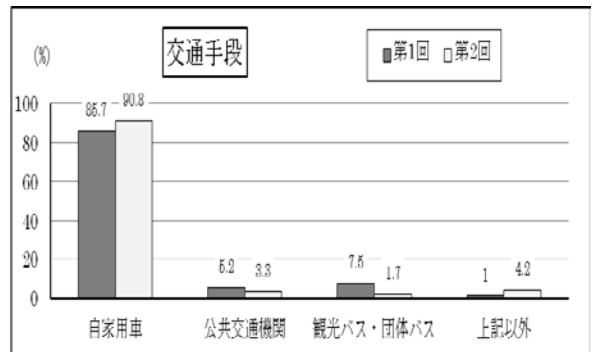
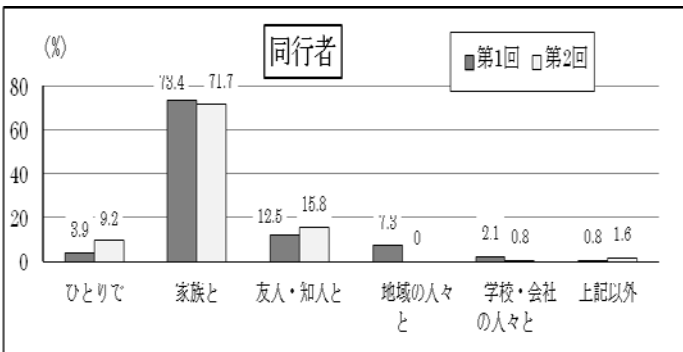
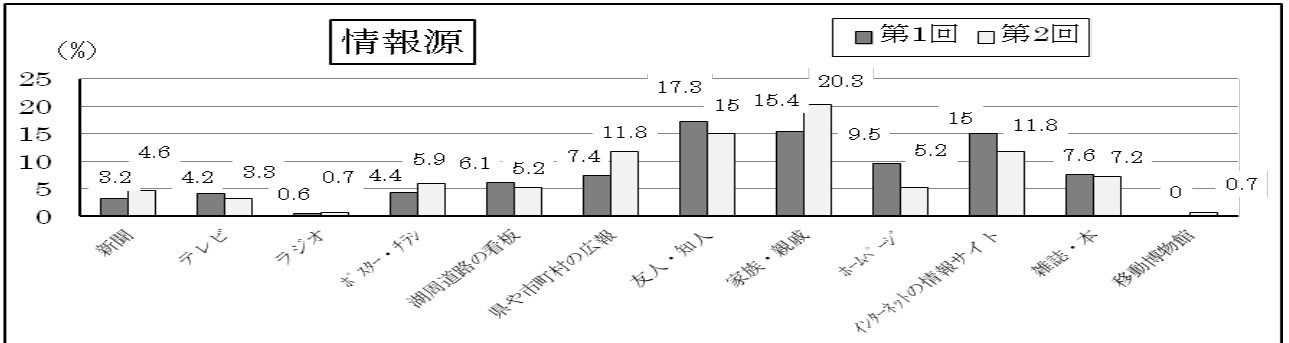
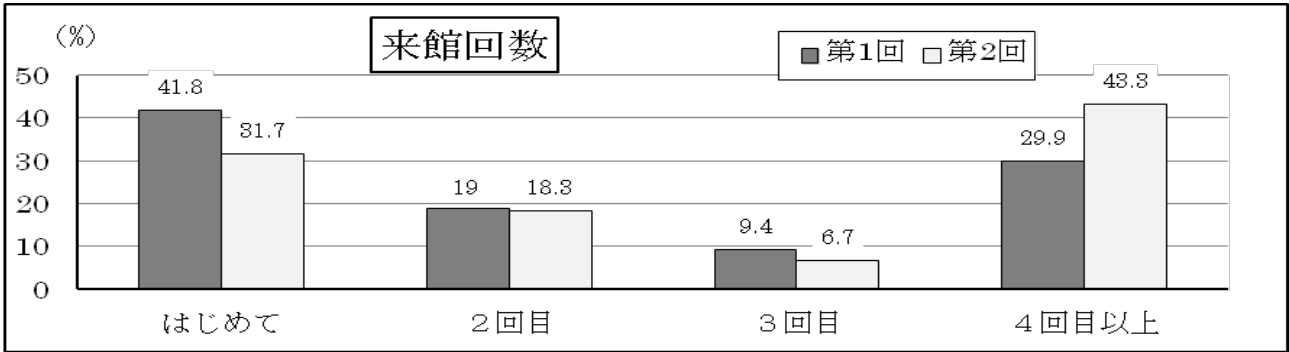
満足度：「非常に満足した」33.0%と「満足した」51.9%を合わせると 84.9%となり、比較的高い水準を維持している。

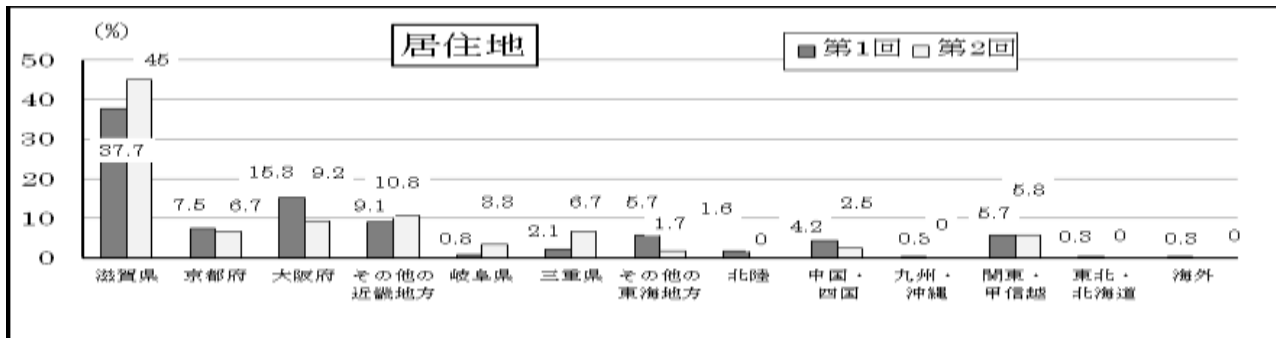
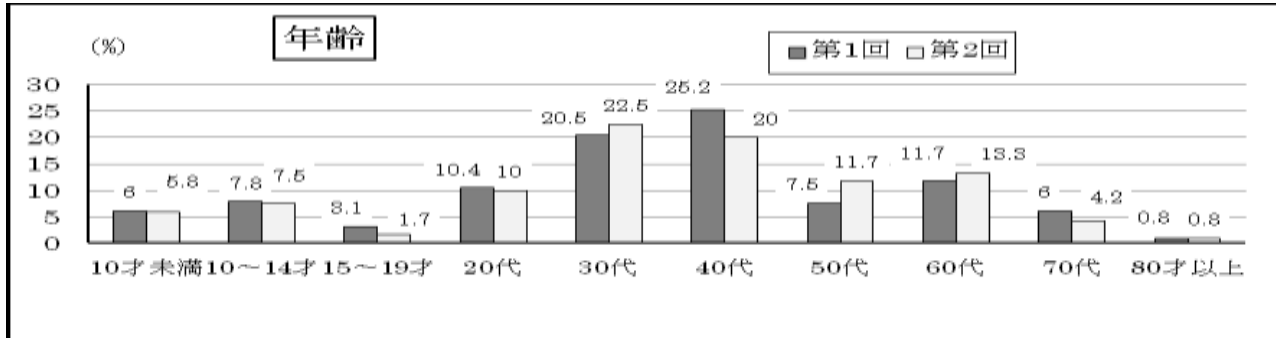
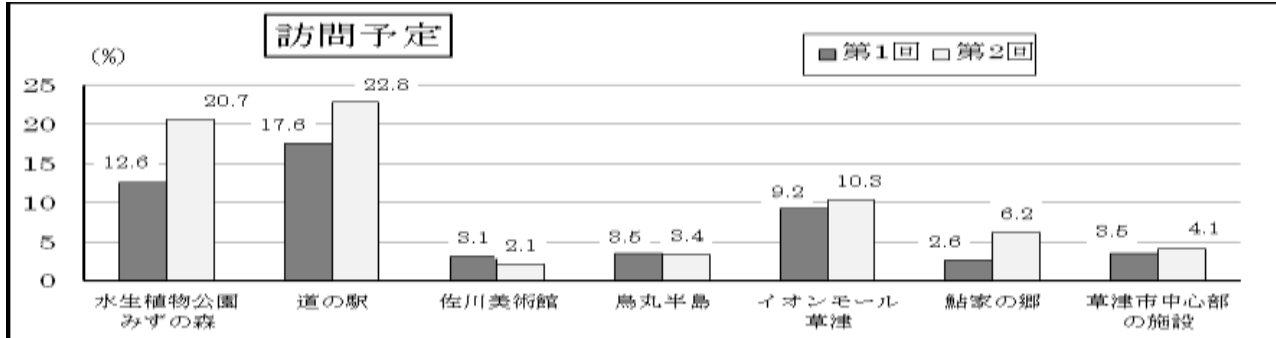
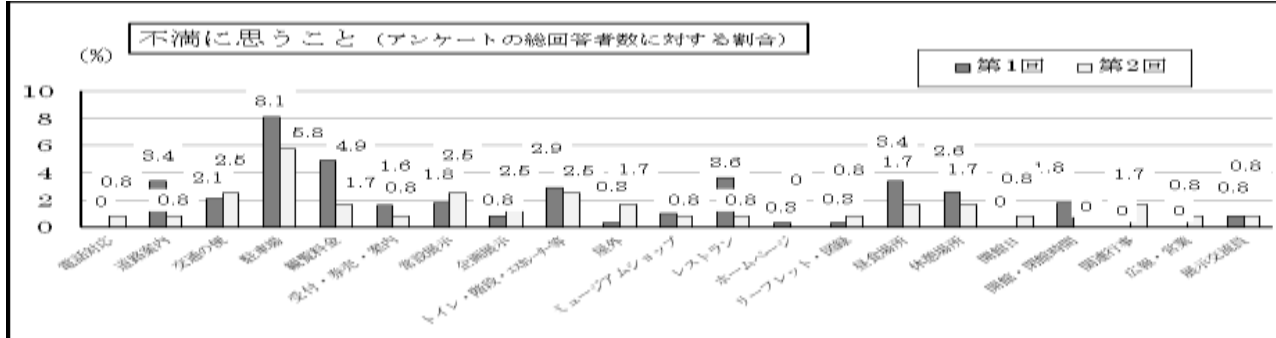
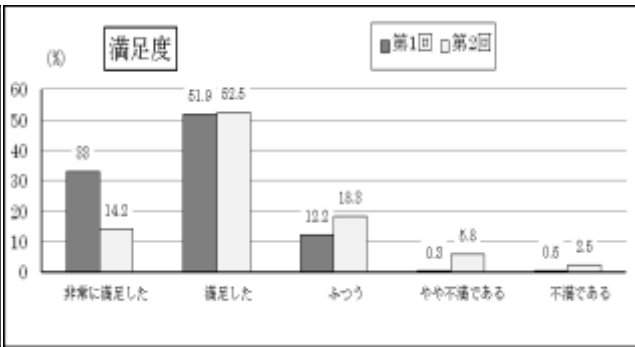
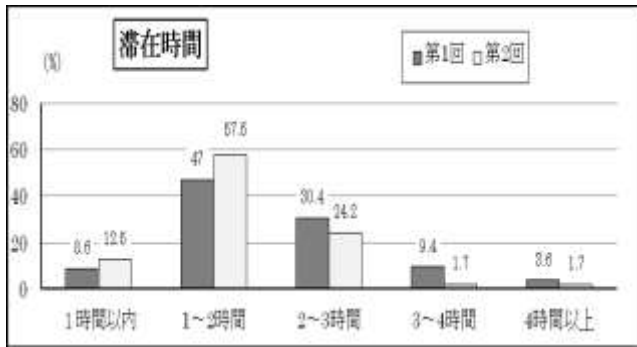
不満：全回答の 35%で不満についての言及があった。駐車場への不満が最も多く、次いで観覧料金に対する不満であった。

<第 2 回>

- ・回収率：アンケート用紙を手渡しした数に対する回答率は平均 8.7%で比較的高い値だった。
- ・来館回数：「4 回以上」の割合が 43.3%と高く、ついで「はじめて」の割合が 31.7%を占めた。「2 回目」「3 回目」「4 回以上」を合わせたリピーターの割合は 68.3%で、夏に比べ高い傾向が見られた。
- ・年齢層・居住地・来館手段：年齢層の結果はおおむね従来通りで、30 代（22.5%）および 40 代（20.0%）が中心である。居住地は、今回の調査では県内 45.0%、県外 47.5%となり、例年に比べて県内者の割合が大きかった。リピーターの比率が高かったことと合わせて考えると、3 月 20 日が第 3 日曜日で県民無料日であったためと思われる。
- ・情報源：第 1 回の結果とほぼ同じで、友人・知人、家族・親戚による口コミの情報の割合が最も大きく、これにインターネットが次ぐ結果となった。
- ・満足度：「非常に満足した」14.2%と「満足した」52.5%を合わせると 66.7%で、例年に比べて低い満足度であった。
- ・不満：傾向は夏と同じで、全体の 32%の回答で不満な点が指摘された。最も多いのは駐車場であった。項目に挙げていない「その他」の比率が高かったが、その内容は主にリニューアル工事に伴って C 展示室と水族展示室が閉鎖されていたことに関するものだった。リニューアル工事による展示室閉鎖は各種広報媒体や当館ウェブサイト等で情報提供しているが、十分に伝わっていない可能性がある。リニューアルは 2020 年まで継続する予定なので、周知方法の検討が必要と思われる。

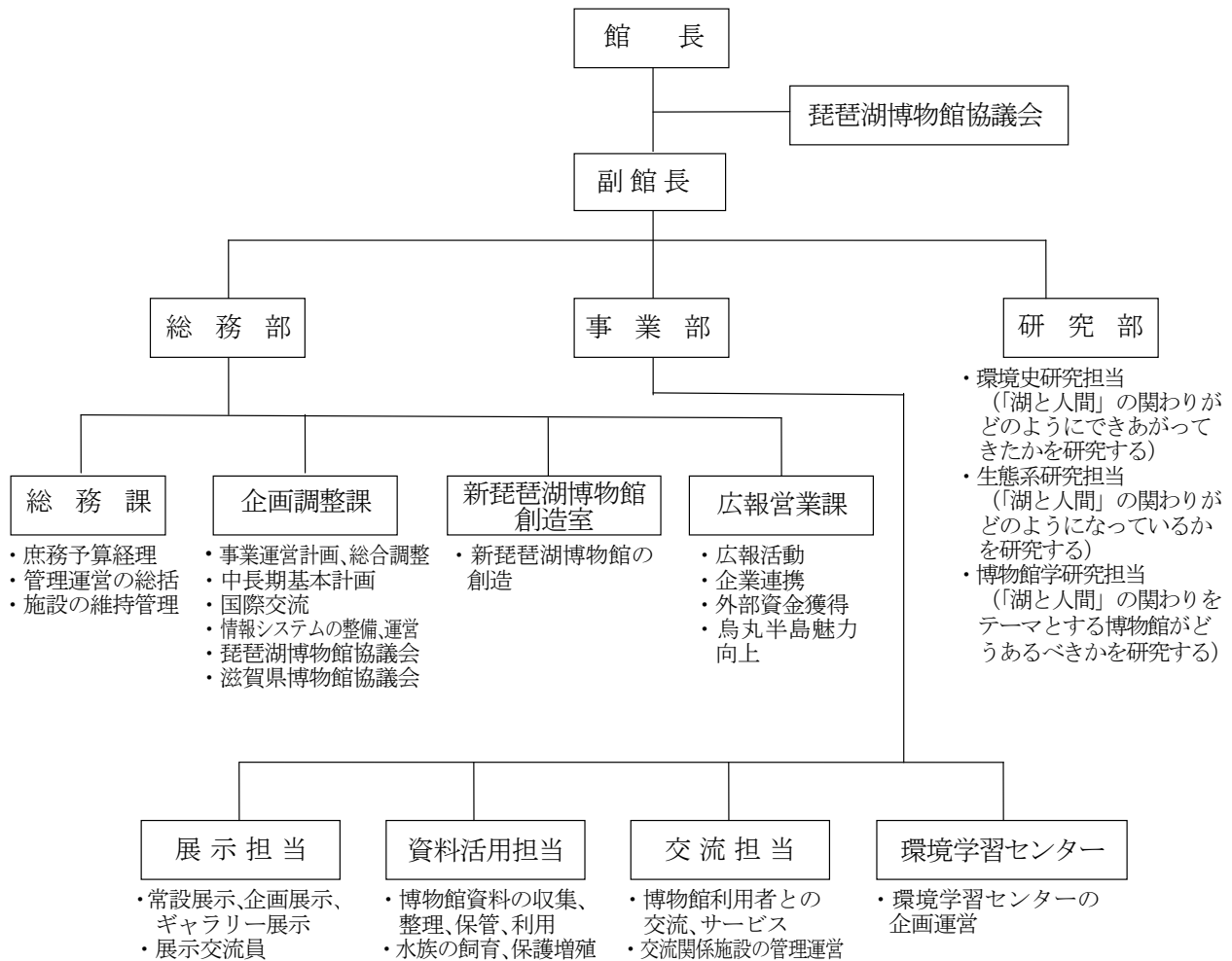
(数値は特に断りのない限り、アンケート回答者数に対する各々の回答数の割合を百分率で示したもの)





2 柔軟な運営組織

(1) 組織



職員構成 (2015年10月1日現在：兼務・併任職員を含む)

区分	館長 (非常勤)	行政職	研究職	教育職	小計	嘱託等	合計
人数(名)	1	12	30	2	45	18	63

研究職の内訳

区分	学芸	水産	農業土木	土木	林業	化学	合計
人数(名)	25	1	1	1	1	1	30

(2) 職員

(2015年10月1日現在)

- 館長 篠原 徹
- 副館長 浅見 孝円
- 副館長 高橋 啓一
- 主席参事 藤村 俊樹
- 上席総括学芸員 用田 政晴
- 上席総括学芸員 マーク ジョセフ グライガー

総務部

- 部長(事務取扱) 浅見 孝円

◇ 総務課

- 課長 磯間 貢志
- 課長補佐 野村 恭史
- 主幹 萩山 幸代
- 副主幹 清水 勝
- 副主幹 松井 智
- 主事 南 祐貴子

◇ 企画調整課

- 課長(兼) 山川千代美
- (兼) 亀田佳代子
- (兼) 芳賀 裕樹
- 課長補佐(兼) 山本 孝貴
- (兼) 浦山 重雄
- (兼) 山本 充孝

◇ 新琵琶湖博物館創造室

- 室長(兼) 藤村 俊樹
- (兼) 桑原 雅之
- (兼) 亀田佳代子
- (兼) 水谷 智
- 主幹 藤田 和也
- (兼) 中井 克樹
- (兼) 梶永 一宏
- (兼) ロビン ジェームス スミス
- (兼) 浦山 重雄
- 主査(兼) 山田 幸男
- (兼) 山本 充孝
- (兼) 井関 明子
- (兼) 金尾 滋史
- (兼) 林 竜馬
- (兼) 澤邊久美子
- (兼) 大久保実香

◇ 広報営業課

- 課長(兼) 藤村 俊樹
- 課長補佐 山本 孝貴
- (兼) 金尾 滋史
- (兼) 渡部 圭一

事業部

- 部長(兼) 松田 征也

◇ 展示担当

- GL(兼) 里口 保文
- (兼) 楠岡 泰
- (兼) ロビン ジェームス スミス
- (兼) 井関 明子
- (兼) 楊 平
- (兼) 澤邊久美子

◇ 資料活用担当

- GL(兼) 戸田 孝
- (兼) 橋本 道範
- (兼) 芦谷美奈子
- (兼) 大久保実香

◇ 交流担当

- GL(兼) 梶永 一宏
- (兼) 水谷 智
- (兼) 安福 俊幸
- (兼) 大塚 泰介
- 主査(併任) 岡部 陽造
- 主任主事(併任) 間所 忠昌
- (兼) 老 文子
- (兼) 林 竜馬
- 環境学習センター
所長(事務取扱) 桑原 雅之
- 副主幹 澤村 和宏

研究部

○部長（兼） 八尋 克郎

◇ 環境史研究担当

総括学芸員 山川千代美
GL 専門学芸員 里口 保文
専門学芸員 橋本 道範
主査（兼） 井関 明子
主任学芸員 楊 平
学芸員 老 文子
学芸技師 林 竜馬
学芸員 大久保実香

◇ 博物館学研究担当

GL 専門学芸員 大塚 泰介
専門学芸員 楠岡 泰
専門学芸員 戸田 孝
（兼） 岡部 陽造
主任学芸員 金尾 滋史
（兼） 間所 忠昌
学芸技師 渡部 圭一

◇ 生態系研究担当

総括学芸員 松田 征也
総括学芸員 桑原 雅之
総括学芸員 八尋 克郎
GL 総括学芸員 亀田佳代子
総括学芸員 芳賀 裕樹
主任専門員（兼） 水谷 智
専門員（兼） 安福 俊幸
専門学芸員 中井 克樹
専門学芸員 榎永 一宏
専門学芸員 ロビン ジェームス スミス
主任主査（兼） 浦山 重雄
主任学芸員 芦谷美奈子
主査 山本 充孝
学芸員 澤邊久美子

注) GL はグループリーダーを示す

嘱託員・臨時的任用職員

田中 里美	館長秘書	鈴木 隆仁	資料標本整理
寺西 貞夫	広報・集客	三樹友梨香	資料標本整理
北浦 孝雄	企業連携	草加 伸吾	交流事業
中川 優	屋外展示運営	小嶋 陽太	交流事業
片淵 綾香	展示室運営	黄瀬 金司	学校学習
森 智美	展示室運営	高木 成美	図書資料整理
高石 清治	展示物維持補修	池田 勝	環境学習
秋山 廣光	資料標本整理	布川 恵理	環境学習
渡邊 潤子	資料標本整理	山本 藤樹	環境学習

特別研究員

天野 一葉	池田 勝	植田 文雄	太田 悠造	柏尾 珠紀	川瀬 成吾	北村 美香
草加 伸吾	黒岩 啓子	篠原 耕平	朱 偉	鈴木 隆仁	瀬口 眞司	高梨 純次
辻川 智代	中野 聰志	中野 正俊	林 博通	廣石 伸互	藤岡 康弘	矢田 直樹
Blakenmore	川那部浩哉	布谷 知夫	中島 経夫	前畑 政善		

フィールドレポーター・はしかけ登録者（掲載承諾者のみ）

◇フィールドレポーター（登録者数 204 名（うちスタッフ 13 名））

青木 環	青木 春乃	青山 喜博	肥土マサ子	浅井 良英	穴蔵 雅彦	飯田 隆行
飯田 貞美	飯田 俊宏	一木 彰	一色 厚志	乾 明美	井野 勝行	上田 修三
内堀甚一郎	梅村 元成	江竜 昭	遠阪 聡子	遠藤 浩子	大岡 紀彦	大西マサ子
大橋 義孝	岡田 創暉	岡田 葵	岡田 和美	岡田宗一郎	岡田 幹夫	小川千奈美
小川 哲仙	松井 清子	奥村恵津子	奥村 恵子	尾原 直行	柿ノ木未希	角井 俊明
加固 啓英	片岡 庄一	勝見 政之	加藤美由紀	角尾千寿子	椛島 昭紘	川口 健一

河崎 凱三	川南 仁	北側 忠次	木本 裕也	京 美季男	桐江 利雄	桐畑 信夫
久保 和友	窪田美知留	熊木 慧弥	熊木 武志	口分田政博	小上 泰代	後藤 真吾
小林 隆夫	小林 亮平	齋藤 禎量	笹井まち子	佐藤良太郎	澤島 篤	柴田恵里花
清水 瑛太	清水 俊平	清水菜々子	清水 真紀	清水 牧子	白井 幸子	菅原 芳明
杉江ミサ子	杉野 由佳	杉原 芳也	杉本 康子	杉本 優真	千田 佳穂	千田はる恵
千田 紘慈	千田 祥生	高田 正一	高宮 弘	多胡 好武	立川 直樹	棚橋 香織
谷口 真司	谷口 雅之	谷村 啓子	辻 いづみ	津田 厚弘	津田 國史	津田久美子
土金 慧子	土田 正文	寺田 誠	手良村昭子	手良村知功	手良村知央	徳田 隆博
苗村 幸廣	中井 大介	中井 民子	中井 美香	中尾 博行	中川 徳司	中島いづみ
中田彩季波	中田 暁輔	中田 泰輔	中田 千佳	長田 伸寛	中田 春美	長津 純子
中西 健	中野 敬二	中村 教子	中村 公一	中村 重信	西崎嘉代子	西塚 由美
野間 孝男	野間 鉄夫	端 久雄	橋本 利衛	筈井美智子	畑中 清司	蜂屋 正雄
初田 彩加	濱道 秀	林 吾一	久国 正吉	人見 勅輔	平井 政一	平原 園子
深田 太郎	福岡 敏雄	藤田 章子	藤野 勇馬	藤本 昭義	布施 善明	降旗 町子
古谷 善彦	保科 明俊	保科 秀行	保科 雅子	保科 政秀	堀 彰男	堀 英輔
堀 千恵子	本田 幹雄	前田 攝子	前田 博美	前田 雅子	増永裕里子	松浦すみ江
松里 香織	松里 凜	松田 道一	松見 茂	松本偉之助	松本 勉	水相 修躬
三谷 軌文	三田村緒佐武	水戸 涼乃	水戸 基博	水戸 涼介	三村 武士	村上 靖昭
村野 やえ	村山 晃彦	森 淳	森 壽朗	森 擴之	森野 秀三	安井加奈恵
矢野 修	矢野としこ	矢原 功	山川 茜	山川 栄樹	山川 和馬	山川佳那子
山川 侑夏	山川 由美	山口 瑞彦	山崎 千晶	山田 加奈	山田 小鞠	山田 珊瑚
山田 創馬	山田 基宏	山田 柚穂	山本 篤	山本皓一郎	山元 祐人	山本由里子
吉野 彰一	吉本 由花	吉本 凜花	吉本 瀧侍	若代 隆行	若代 智子	渡辺 克彦
渡辺 秀美						

◇はしかけ (登録者数 321名)

愛須美由起	青木 環	青木 春乃	青山 喜博	秋山 廣光	朝隈 洋子	芦田 弘美
東 まち子	穴藏 雅彦	荒井 紀子	荒川 淳子	有田 重彦	飯住 達也	飯田 彩子
飯田 隆行	飯田 俊宏	飯田 晴登	飯田 貞美	石井 千津	石井 利和	石井 正臣
石川 雅量	石角江里佳	石田 勉	石田 未基	石山 知美	一木 彰	市原 潤
市原 龍	一色 厚志	井上 真一	今井 洋	岩西紗江子	岩本 りか	上田 修三
上田 康之	宇野 翔	梅澤 正夫	榎本 真司	遠藤 浩子	大岡 紀彦	大菅 勝之
大橋 洋	大橋 正敏	大堀 忠厚	大依 久人	岡田 葵	岡田 和美	岡田宗一郎
岡田 創暉	岡野 史子	小川千奈美	小川 哲仙	尾崎 友輔	小野 麻代	小野 容子
尾原 直行	角藤 将翔	片岡 庄一	片山 慈敏	片山 康夫	加藤美由紀	金山 雅幸
金山美佐子	椛島 昭紘	綺田万紀子	上園 桂子	神谷 悦子	川口 健一	川口 涼
河崎 凱三	川瀬 成吾	川田 裕元	河野小夜子	川南 仁	北田 稔	北村 明子
北村 美香	木下多津江	木原 靖郎	木村 恵子	木本 裕也	草加 伸吾	久保 玲子
窪田美知留	熊谷 明生	熊谷 明美	熊木 慧弥	熊木 武志	倉田 忠彦	桑田 向陽
小上 泰代	國分 政子	後長シマ子	後藤 真吾	小林 隆夫	齋藤 知行	齊藤 文子
齊藤 眞琴	齊藤眞由美	酒井 啓子	作村 知穂	佐々木亜弥子	佐々木信幸	佐々木則子
佐々木満保	佐々木幹朗	佐々木由巳子	佐々木遼太郎	佐瀬 章男	笹生 正則	佐藤 義信
澤田 一弥	澤田 佳奈	澤田 知之	志賀 暁子	志賀 創	志賀 充	志賀 愛

芝崎美世子	島塚 顕充	島塚 翔伍	島塚みつ子	嶋村のぞみ	菅原 和博	杉山 國雄
鈴木 直子	住田 健	瀬野 知彦	瀬野 美貴	千田 佳穂	千田はる恵	千田 紘慈
千田 祥生	対中いづみ	田井中由利子	高田 昌彦	高部 千裕	高山 博好	武田 繁
武田 広志	竹谷 満弘	竹元 冴矢	多胡 好武	立川 直樹	立石 文代	田中 治男
田中 雅也	谷口 浩	谷口 雅之	谷口 真司	谷本 正浩	辻 いづみ	辻 真宏
辻 実沙記	辻川 智代	辻本 一暁	辻本紗也佳	辻本 智子	津田 國史	津田久美子
土金 慧子	筒井 聡子	寺尾 尚純	手良村昭子	手良村知功	手良村知央	徳永 成美
徳永 優	徳永 義利	戸田 歌子	戸田 博通	富 小由紀	富田久仁枝	中井 大介
中尾 京子	中尾 博行	長澤 京子	中嶋 佐苗	中島 財	長津 純子	中西 春陽
中西 寛子	中西 優一	中野 敬二	中村 公一	中村 重信	中村 聡一	中村 友子
中山 法子	那須 彩乃	納屋内高史	西川 美喜	西崎嘉代子	西塚 由美	西村 有巧
西村 義隆	西本 千晃	根来 健	畠山 寿枝	畑中 清司	蜂屋 正雄	初田 彩加
服部 彩乃	服部 隆義	服部 雅也	土生 陽子	浜地トミ子	濱道 秀	林 克子
ノパラット	テーブルパ	久国 正吉	肥田 嘉文	人見 勅輔	肥山 陽子	深田 元子
福岡 敏雄	福永 和馬	福森 弘二	藤田 敦子	藤田 成子	藤野 勇馬	藤橋 和弘
藤本 昭義	古川まや子	別所かおる	別所 宏二	堀田 恵子	堀 千重子	堀田 修身
堀田 博美	本田 英樹	前川 桂子	前迫羽衣子	前迫 嘉光	前田 攝子	前田 博美
前田 雅子	前畑 政善	増永裕里子	松井 清子	松川 郁子	松里 香織	松里 凜
松田 道一	松本 勉	丸尾 秀幸	丸尾 雅啓	三田村緒佐武	水戸 涼乃	水戸 基博
水戸 涼介	南 和美	三村 武士	宮川よし子	宮本 直興	三輪 祐子	村上 靖昭
村田 博之	村野 やえ	村山 晃彦	村山 和夫	森 擴之	森田美佳子	安井加奈恵
安原 輝	柳原 徳子	矢野 修	矢野としこ	矢原 功	八尋 由佳	藪内 和子
藪内まゆ子	山川 茜	山川 栄樹	山川 和馬	山川佳那子	山川 侑夏	山口 瑞彦
山口 幸江	山崎 千晶	山田 恵美	山田 和毅	山田 加奈	山田 小鞠	山田 珊瑚
山田 創馬	山田 正樹	山田 基宏	山田 柚穂	山中 裕子	山野井邦彦	山本 香織
山本皓一郎	山本 藤樹	山本真里子	山本 道子	山本由里子	吉井 隆	吉岡 伸子
吉田恵太郎	吉田 達矢	吉田 範香	吉野 心晴	吉野 彰一	吉野千栄子	吉野まゆみ
吉本 由花	吉本 凜花	吉本 瀧侍	若代 隆行	若代 智子	若本 丈夫	和田 至博
渡辺圭一郎	渡邊菜美子					

3 社会的支援と新しい経営

(1) 利用状況 (2015年度入館者数)

1) 総入館者数

期 間：2015年4月1日～2016年3月31日

合 計：341,599人

開館日数： 310日

一日平均： 1,102人

月 平均： 28,467人

入館者区分別内訳

区分	個人(人)	団体(人)	合計(人)	構成比(%)
未就学児	37,846	14,407	52,253	15.3
小学生・中学生	41,038	47,244	88,312	25.8
高校生・大学生	5,252	6,706	11,958	3.5
一般	168,583	20,493	189,076	55.4
合 計	252,749	88,850	341,599	100.0

年月	開館日数	有料入館(人)				無料入館(人)									総計(人)	一日当たり平均(人)
		一般	高大生	小中(企画展)	有料計	65歳以上	障害者	家族ふれあいサンデー等	体験学習	休館日	学校行事	小中学生	その他	無料計		
2015.4	27	8,248	2,616	0	10,864	724	653	1,182	4	0	0	6,364	6,455	15,382	26,246	972
5	28	14,691	840	0	15,531	984	1,131	791	5	1,270	338	12,702	8,426	25,647	41,178	1,471
6	25	8,306	606	0	8,912	844	828	1,279	3	0	246	7,040	5,898	16,138	25,050	1,002
7	29	16,562	1,030	2,532	20,124	685	1,355	7,442	5	0	247	8,426	14,987	33,147	53,271	1,837
8	30	28,610	1,977	7,175	37,762	821	1,804	17,875	9	0	312	14,799	17,361	52,981	90,743	3,025
9	23	11,830	1,264	1,806	14,900	467	812	524	3	0	1,116	4,196	5,463	12,581	27,481	1,195
10	28	8,284	967	1,634	10,885	371	1,062	441	2	0	3,094	7,572	4,300	16,842	27,727	990
11	26	7,754	442	706	8,902	309	665	1,332	0	0	1,137	2,539	3,754	9,736	18,638	717
12	17	1,630	203	0	1,833	122	202	241	1	0	28	644	1,958	3,196	5,029	296
2016.1	24	2,542	209	0	2,751	254	338	297	2	0	50	1,482	2,841	5,264	8,015	334
2	24	2,831	226	0	3,057	259	291	404	1	0	64	1,647	2,892	5,558	8,615	359
3	29	3,291	330	0	3,621	375	366	363	7	0	0	1,447	3,427	5,985	9,606	331
計	310	114,579	10,710	13,853	139,142	6,215	9,507	32,171	42	1,270	6,632	68,858	77,762	202,457	341,599	1,102

*家族ふれあいサンデー等：節電クールライフキャンペーン等による無料入場者を含む

2) 学校等入館者数

年 月		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		大学など		総 計	
		学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
2015. 4	全 体	17	1,982	10	1,049	9	1,560	0	0	6	938	72	5,529
	県 内	0	0	0	0	0	0	0	0	1	78	1	78
5	全 体	35	3,151	32	5,268	2	402	1	20	6	179	76	9,020
	県 内	2	220	2	537	1	283	1	20	1	26	7	1,086
6	全 体	42	3,062	15	2,195	4	326	3	101	5	180	69	5,864
	県 内	26	1,687	4	519	1	29	2	31	0	0	33	2,266
7	全 体	11	735	10	844	17	1,086	4	136	6	155	48	2,957
	県 内	5	322	3	225	7	463	2	59	0	0	17	1,069
8	全 体	5	177	6	324	11	819	0	0	6	107	28	1,427
	県 内	1	26	3	113	2	194	0	0	2	32	8	365
9	全 体	15	1,347	4	475	3	158	0	0	6	399	28	2,379
	県 内	9	763	3	195	3	158	0	0	1	203	16	1,319
10	全 体	80	6,536	3	413	2	169	4	95	7	360	96	7,573
	県 内	42	3,080	0	0	0	0	1	14	1	199	44	3,293
11	全 体	14	1,053	2	46	2	52	0	0	3	41	21	1,192
	県 内	11	879	2	46	2	52	0	0	1	6	16	983
12	全 体	0	0	1	17	1	71	1	76	2	38	5	202
	県 内	0	0	0	0	0	0	1	76	1	16	2	92
2016. 1	全 体	6	528	1	81	1	27	0	0	5	181	13	817
	県 内	4	359	1	81	1	27	0	0	4	148	10	615
2	全 体	10	692	1	168	0	0	1	16	2	49	14	925
	県 内	8	584	1	168	0	0	0	0	0	0	9	752
3	全 体	0	0	1	6	1	31	0	0	0	0	2	37
	県 内	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	1	6
合計	全 体	235	19,263	86	10,886	53	4,701	14	445	54	2,627	442	37,922
	県 内	108	7,920	20	1,890	17	1,206	7	200	12	708	164	11,924

3) 月別・曜日別入館者数

年月	日曜・祝祭日	土曜日(祝日除く)	その他	計
2015.4	9,383	4,179	12,684	26,246
5	21,403	6,372	13,403	41,178
6	9,035	4,961	11,054	25,050
7	20,748	8,340	24,183	53,271
8	17,356	12,879	59,508	90,743
9	15,470	4,498	7,513	27,481
10	7,020	3,336	17,371	27,727
11	9,670	3,105	5,863	18,638
12	2,864	1,180	985	5,029
2016.1	3,743	2,090	2,182	8,015
2	4,342	1,900	2,373	8,615
3	3,925	1,921	3,760	9,606
計	124,959	55,761	160,879	341,599
構成割合	36.6%	16.3%	47.1%	100.0%

(2) 広報活動

開館19年が経過し、入館者数も34万台へと減少しており、琵琶湖博物館の認知度が薄れてきた傾向が見られる。現段階では、口コミによる認知度をあげる方法にも限界があることから、有料広告や資料提供等を通じて多くの話題をメディアに提供して取り上げてもらうことで、広域に認知度をあげる広報活動を行ってきた。広告掲載9件、資料提供54件の広報活動を行い、テレビ・ラジオ74件、新聞掲載239件、雑誌等掲載102件に取り上げられた。2016年度には第1期リニューアルを行うことから、このリニューアル広報により、認知度が格段に飛躍することが期待される。

1) 広告掲載

掲載時期	掲載誌	体裁	スペース	地域	発行部数
6月	るるぶ夏休み子どもとあそぼ!	A4版	1/6	全国	9.1万部
6月	滋賀リビング新聞社	タブロイド版	全4段	県内(大津、草津、栗東、守山、野洲)	14万部
8月	ロトス8月号	A4版	1/2	滋賀県草津市	5.4万部
8月	秋ぴあ東海版	A4版	1/4	東海	7万部
8月	JR西日本駅ポスター(8月)	B1版	B1判	草津駅・南草津駅・石山駅	各1枚
2016年 1月	るるぶ.com(1月1日~12月31日)	るるぶ公式サイト上		不定	
1月	るるぶ滋賀2016	AB版	1/8	全国	8.9万部
2月	るるぶ子どもとあそぼ名古屋東海	AB版	1/8	東海	4.5万部
3月	おでかけドライブ中部版	A型変型判	1/3	東海	22万部

2) 資料提供

提供日	件名
4月8日	滋賀県立琵琶湖博物館と中国科学院水生生物研究所の相互協力の合意について
4月10日	成安造形大学と滋賀県立琵琶湖博物館との連携協力に関する協定書の調印式について(案内)
4月16日	滋賀県立琵琶湖博物館と成安造形大学の連携協力にかかる協定の締結について
4月21日	初めての試み“守ろう アユモドキ! 連携展示”の開催について
4月21日	琵琶湖博物館の学芸員が著書を出版しました
4月28日	絶滅危惧種ウシモツゴ 52年越しの新種記載
4月30日	琵琶湖博物館 もうすぐコンニャクの花が咲きそうです
5月1日	ゴールデンウィークイベント オリジナルプレゼントがもらえる『からすま半島スタンプラリー』を開催します
5月12日	琵琶湖博物館 フィールドレポーターの交流会を開催します
5月12日	「漁師さんと行くエリ漁ツアー」参加者募集
5月19日	「全国ハッタミミズ・ダービー」を開催します
5月27日	「琵琶湖博物館アトリウムコンサート」を開催します
6月16日	夏休みは琵琶湖へ行こう! 「琵琶湖・鳥丸半島魅力向上活性化事業」を実施します
6月18日	「カワウ」の国際シンポジウムを開催します
6月23日	(記者発表) 琵琶湖博物館の新たな年間観覧券制度として、「倶楽部LBM」がスタートします!!
6月24日	「びわ博フェス2015」を開催します

提供日	件名
6月26日	滋賀が誇る逸品展「宇宙からの贈り物」 『初の里帰り隕石展示』と関連講演会の開催について
7月1日	琵琶湖博物館と株式会社コクヨ工業滋賀が連携して『滋賀のお魚ヨシノート』を制作しました
7月17日	琵琶湖博物館 第23回企画展示「琵琶湖誕生ー地層にねむる7つの謎ー」の開催 および オープニングセレモニーの開催
7月17日	水族企画展示「琵琶湖固有の魚たち」を開催します
7月24日	滋賀県立琵琶湖博物館 水族展示 カイツブリの雛が誕生しました！！
9月4日	株式会社ダイフク様から琵琶湖博物館 展示リニューアルへの寄附目録贈呈式について
9月8日	「おすすめの琵琶湖の風景」写真を募集しています
9月9日	株式会社ダイフク様から琵琶湖博物館 展示リニューアルへの寄附目録贈呈式を開催しました
9月18日	琵琶湖博物館 第23回企画展示「琵琶湖誕生」 まもなく入場者5万人達成！
9月25日	琵琶湖博物館 第23回企画展示「琵琶湖誕生」 9月21日に入場者5万人を達成しました！
10月1日	日本花粉学会 創立50周年記念イベント 「花粉と花粉症」についての講演会を開催します
10月6日	琵琶湖博物館C展示室クロージングイベント 講演会『滋賀の暮らしを語ろうー昭和から平成へー』の開催について
10月21日	琵琶湖博物館リニューアルのための御寄附について寄附目録・感謝状の贈呈式を開催します
11月2日	平成27年度第1回滋賀県立琵琶湖博物館協議会を開催します
11月5日	『西川嘉右衛門(かえもん)家 特別公開』を実施します
11月10日	琵琶湖博物館の学芸員が日本花粉学会の奨励賞を受賞しました
11月17日	琵琶湖博物館 第23回企画展示「琵琶湖誕生ー地層にねむる7つの謎ー」の来場者数が7万人を超えました
11月27日	琵琶湖博物館のリニューアルへの御支援に対する感謝状の贈呈式を開催します
12月4日	琵琶湖博物館リニューアルにむけてバイカル博物館から魚が到着します
12月8日	『第6回 琵琶湖地域の水田生物研究会』を開催します
12月11日	琵琶湖博物館リニューアルのための御寄附について寄附目録・感謝状の贈呈式を開催します
12月11日	「いきもにあ」にミジンコ界の巨大生物「ノロ」のオブジェが出品されます
12月16日	琵琶湖博物館ディスカバリールーム「手ぬぐいではたきをつくろう！」を開催します
12月17日	琵琶湖博物館の市民研究グループが、福井県のラムサール湿地から297種もの珪藻を報告しました
12月17日	『淡海こどもエコクラブ活動交流会』を開催します
12月22日	琵琶湖博物館 リニューアル特別展示「二十歳の琵琶湖博物館 生まれ変わります」を開催します
12月25日	琵琶湖博物館 新琵琶湖学セミナー「いざリニューアルへ！」を開催します
12月28日	琵琶湖博物館は1月2日から開館します！
12月28日	琵琶湖博物館 トピック展示 水族展示リニューアルの最新状況を紹介します
1月19日	滋賀県から発見された ニセクビボソムシの新種の標本を展示します
1月26日	公開座談会「「ふなずし」の歴史が変わる」を開催します
1月26日	「全国ハッタミミズ・ダービー」で甲賀市水口町松尾のハッタミミズが優勝しました
2月18日	『環境学習活動者交流会』を開催します
2月25日	大津市葛川(かつらがわ)に関する鎌倉時代の古文書を公開しています
2月26日	琵琶湖博物館 ディスカバリールームのイベント 「おひなさまをつくろう」を行います
3月3日	平成27年度第2回滋賀県立琵琶湖博物館協議会を開催します

提供日	件名
3月15日	琵琶湖博物館リニューアルのための御寄附について寄附目録・感謝状の贈呈式を開催します
3月15日	琵琶湖博物館 ギャラリー展示「魅せます リニューアルの舞台裏」を開催します

3) テレビ放映・ラジオ放送記録

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
4/5	関西のニュース	企画展示「琵琶湖誕生」関連ミニ展示	NHK 大津	里口
4/6	おうみ発 630	企画展示「琵琶湖誕生」関連ミニ展示	NHK 大津	里口
4/7	ぐるっと関西おひるまえ	企画展示「琵琶湖誕生」関連ミニ展示	NHK 大阪	里口
4/8	森谷威夫のお世話になります!!	企画展示「琵琶湖誕生」関連ミニ展示	KBS 京都ラジオ	林
4/19	情熱大陸	カンボジア全土で淡水魚調査を行う、元琵琶湖博物館飼育員の佐藤智之さんを紹介	毎日放送	松田
4/28	かんさい情報ネット ten	伊藤園が琵琶湖博物館の寄付金の贈呈セレモニーで三日月知事に寄付したことを発表	読売テレビ	
5/6	キラりん滋賀ニュース	コンニャクの花	びわ湖放送	松田
5/8	おうみ発 630「クイズで知るびわ湖」	「湖上交通」	NHK 大津	
5/22	しらしがテレビ	「アトリウムコンサート～私たちが奏でる琵琶湖の響き～」	びわ湖放送	渡部
5/23 24	ラン×スマ～街の風になれ～	「コアユ」映像	NHK BS1	金尾
5/30	ポンコツ&さまあ～ず	湖魚・料理写真提供	テレビ東京	渡部
6/4	ぐるっと関西おひるまえ	「びわかぜ」、魚の展示	NHK 大阪	
6/4	すまたん ZIP「外国人じゅずつなぎ」	カメルーン出身の人のカタツムリを食べる習慣について	読売テレビ	中井
6/10	しらしがテレビ	「漁師さんと行くエリ漁ツアー」	びわ湖放送	渡部
6/16 ～ 20	ジョルナル・ダ・バンジ	水資源としての琵琶湖について	ブラジル(バンデイランテステレビ)	里口
6/10	おはよう関西	専門家も驚き“トンボ大好き兄弟” 中一と小一が大発見！驚きのトンボ観察記録新空間の展示	NHK 大阪	渡部
6/27	おはよう日本	専門家も驚き“トンボ大好き兄弟” 中一と小一が大発見！驚きのトンボ観察記録新空間の展示	NHK 大阪	渡部
7/4	関西のニュース	びわフェス	NHK	渡部
7/4	カラフルパーク宝塚	びわフェス	エフエム宝塚	渡部
7/5	しらしがテレビ	隕石展示	びわ湖放送	渡部
7/6	おうみ発 630	びわフェス	NHK 大津	渡部
7/10	キラりん滋賀ニュース	梅雨でも楽しめるスポット紹介 / 隕石展示	びわ湖放送	大塚 山川
7/11	お昼のニュース	隕石展示	NHK 大津	金尾
7/11	夕方のニュース	隕石展示	関西テレビ	金尾
7/11	夕方のニュース	隕石展示	びわ湖放送	金尾
7/14	ぐるっと関西おひるまえ	隕石展示	NHK	金尾
7/16	サヘル・ローズのイチオシNIPPON (#14 滋賀)	「ニゴロブナ」映像	BS12	金尾
7/19	俳句王国がゆく	アケボノゾウを見ながら俳句をよむ	NHK Eテレ	山川
7/20	報道番組「ニュースめんたいプラス」	琵琶湖博物館で提供されている外来種料理について	福岡放送(日本テレビ系列)	渡部

放送日	番組名	内容	媒体	担当者
7/27	おうみ発 630	秋篠宮様と佳子さま琵琶湖博物館を視察	NHK 大津	金尾
7/27	ニュース 845	秋篠宮様と佳子さま琵琶湖博物館を視察	NHK 大津	金尾
7/27	夜のニュース	秋篠宮様と佳子さま琵琶湖博物館を視察	びわ湖放送	金尾
7/27	VOICE	秋篠宮様と佳子さま琵琶湖博物館を視察	毎日放送	金尾
7/27	ゆうがた LIVE ワンダー	秋篠宮様と佳子さま琵琶湖博物館を視察	関西テレビ	金尾
7/27	キャスト	秋篠宮様と佳子さま琵琶湖博物館を視察	朝日放送	金尾
7/28	あさチャン あさチャン! トピック 630	秋篠宮様と佳子さま琵琶湖博物館を視察	毎日放送	金尾
7/28	ZIP! 630NEWS	秋篠宮様と佳子さま琵琶湖博物館をご訪問	日本テレビ	金尾
7/28	Oha!4NEWS LIVE	秋篠宮様と佳子さま琵琶湖博物館を視察	日本テレビ	金尾
7/28	めざましテレビ NEWS	秋篠宮様と佳子さま琵琶湖博物館を視察	フジテレビ	金尾
7/28	グッド!モーニング ニュース	秋篠宮様と佳子さま琵琶湖博物館を視察	テレビ朝日	金尾
7/29	news every	秋篠宮様と佳子さま琵琶湖博物館をご訪問	日本テレビ	金尾
7/31	滋賀プラスワンインフォメーション	企画展示「琵琶湖誕生」	FM 滋賀	渡部
8/1	滋賀プラスワン 夏休みスペシャル「うおーたんのわくわくこども体験隊」	「琵琶湖博物館で不思議を探そう！」 3つの不思議 隕石・地層・固有種	びわ湖放送	里口 金尾 渡部
8/2	〃 (再放送)	「琵琶湖博物館で不思議を探そう！」 3つの不思議 隕石・地層・固有種	びわ湖放送	里口 金尾 渡部
8/9	しらしがテレビ	ヨシアートで学ぼう!	びわ湖放送	渡部
8/10	知ったかぶりカイツブリ ニュース	企画展示「琵琶湖誕生」	びわ湖放送	里口
8/22 ~ 10/10	関西おでかけガイド	企画展示「琵琶湖誕生」	NHK	澤村
8/28	滋賀プラスワンインフォメーション	琵琶湖博物館リニューアルについて	FM 滋賀	藤田
9/4	ドデスカ!	企画展示「琵琶湖誕生」	名古屋テレビ	里口
9/19	おとな旅あるき旅	写真資料提供「ニゴロブナ」	テレビ大阪	渡部
10/11 ~ 11/23	関西おでかけガイド	企画展示「琵琶湖誕生」	NHK	澤村
10/19	おうみ発 630	おうみ食探訪 (セタシジミ)	NHK 大津	渡部
11/18	フォーカスイン滋賀	琵琶湖の化石、リニューアル	FM 滋賀	高橋
11/	特別企画ドキュメンタリー「川から西海まで」	琵琶湖博物館の紹介と市民グループ交流会	TJB 大田放送 (韓国)	大塚 渡部
11/29	所さんの目がテン!	沖島のでき方	読売テレビ	里口
11/14	おとな旅あるき旅	写真資料提供「ホンモロコ」	テレビ大阪	渡部
12/7	(関西の) お昼・夕方の ニュース・ニュース 845、 おうみ発 630	バイカル湖の魚搬入	NHK 大津	渡部
12/7	BS ニュース	バイカル湖の魚搬入	NHKBS	渡部
12/7	ニュース	バイカル湖の魚搬入	びわ湖放送	渡部
12/17	夕方のニュース	リニューアル寄附贈呈式	びわ湖放送	渡部

放送日		番組名	内容	媒体	担当者
12	24	夕方のニュース	子育てをしている親世代へインタビュー	びわ湖放送	渡部
12	26 ～ 18	関西おでかけガイド	新琵琶湖学セミナー 第1回	NHK	渡部
1	7	夕方のニュース	子育てをしている親世代へインタビュー	びわ湖放送	渡部
1	23 ～ 213	関西おでかけガイド	わくわく探検隊よし笛をつくろう	NHK	渡部
1	30 ～ 222	関西おでかけガイド	新琵琶湖学セミナー 第2回	NHK	渡部
2	8	おうみ発 630	公開座談会「ふなずし」の歴史が変わる	NHK 大津	橋本
2	11	おうみ発 630	はったミミズダービー	NHK 大津	大塚
2	20 ～ 312	関西おでかけガイド	わくわく探検隊琵琶湖の模型をつくろう	NHK	渡部
2	22	夕方のニュース	バイカルアザラシ用水族アクリルパネル搬入	びわ湖放送	渡部
2	27 ～ 321	関西おでかけガイド	新琵琶湖学セミナー 第3回	NHK	渡部
3	11	キラりん滋賀ニュース	新空間「まんぼの世界」	びわ湖放送	浦山
3	18	滋賀プラスワンインフォメーション	G展示「魅せます リニューアルの舞台裏	FM 滋賀	芳賀
3	20	スクール革命	日本一大きい湖 琵琶湖！実は????!	日本テレビ（関東ローカル）	渡部
3	18 ～ 410	関西おでかけガイド	「リニューアルの舞台裏」展	NHK	渡部

4) 新聞掲載記録

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
4	4	烏丸半島魅力 官民で発信 琵琶湖博物館のリニューアルオープンを見据え今夏からイベント開催や広報活動などで協力 事務局の琵琶湖博物館のコメント	京都新聞
	8	古代琵琶湖の姿紹介 7～11月に開催する企画展示「琵琶湖誕生」を前にした関連展示として開催 地層や化石展示	京都新聞
	9	20周年向け大幅改装 琵琶湖博展示を充実 バイカルアザラシ新加入	読売新聞
	9	守山の住民、3年前池に放流 ハリヨ育成 500匹超 金尾滋史主任学芸員の助言で環境を改善 金尾滋史主任学芸員のコメント <写真資料提供：『ハリヨ』>	京都新聞
	10	中国・水生生物研と協定更新 県立琵琶湖博物館篠原徹館長らが調印式 琵琶湖博物館のコメント <写真資料提供：『調印式』>	朝日新聞
	10	研究交流推進へ更新 琵琶湖博物館、中国研究機関と協定 <写真資料提供：『調印式』>	中日新聞
	10	滋賀県立琵琶湖博物館 変わった習性固有種のイサザ / [今週の歳時記]「春の草花でしおりをつくろう」案内 / [催し]「平成27年度企画展示『琵琶湖誕生』関連ミニ展示」の案内	産経新聞
	11	[湖岸より]〈234〉 昨日の敵も展示します！ 松田征也総括学芸員	中日新聞
	13	琵琶博と中国科学院 淡水生物の研究協力協定を更新 篠原徹館長が訪中 琵琶湖博物館のコメント <写真資料提供：『調印式』>	京都新聞
	15	オブジェ制作など連携 琵琶湖博物館、成安造形大と協定 篠原徹館長のコメント	中日新聞
	17	琵琶湖博物館リニューアル 成安造形大生が参加 篠原徹館長のコメント	朝日新聞
	17	湖国トンボ3種絶滅か琵琶博など3年間調査 「生息環境の悪化影響」	京都新聞
	18	県立琵琶湖博物館、成安造形大と協定 調査・研究など連携	産経新聞
	23	淡水魚アユモドキ知って 琵琶湖博物館で展示 松田征也総括学芸員のコメント	毎日新聞
	25	[湖岸より]〈235〉 真水にすむマミズクラゲ 楠岡泰専門学芸員	中日新聞
	26	[わくわく西日本2015 滋賀編]琵琶湖の生き物や歴史を体感 琵琶湖博物館の紹介	読売新聞
	27	琵琶博など県内外11施設初連携 アユモドキ保全PR 琵琶湖博物館のコメント <写真資料提供：『アユモドキ』>	京都新聞
	29	ウシモツゴは新種！琵琶湖博物館の研究員らが突き止める	京都新聞
	29	フォトコン入賞50点 伊藤園など共催 琵琶湖博物館で展示 / 成安造形大生 琵琶湖博物館展示資料にプランクトンをスケッチ	中日新聞
	30	ウシモツゴ 実は新種 琵琶湖博物館の研究員らが解明	中日新聞
	30	ウシモツゴ新種と確認 発見から半世紀 絶滅危惧種保全に期待 琵琶湖博物館や近畿大の研究チームが突き止める	産経新聞(夕刊)
5	1	まちのお宝遺産 県立琵琶湖博物館富江家のちゃぶ台	京都新聞(週刊トマト&テレビ)
	2	お〜い、お茶「お茶で琵琶湖を美しく。」キャンペーン 琵琶湖博物館にて琵琶湖の環境保全活動資金として三日月大造滋賀県知事に目録を手渡す	毎日新聞
	4	烏丸半島3施設 「県立琵琶湖博物館」と「市立水生植物公園みずの森」、「道の駅草津グリーンプラザからすま」で『からすま半島スタンプラリー』開催 琵琶湖博物館担当者のコメント	中日新聞
	5	草津・琵琶湖博物館でタンポポ調査方法学ぶ 芦谷美奈子主任学芸員のコメント	読売新聞(しが県民情報)
	9	悪魔の舌開花、コンニャク 琵琶湖博物館	毎日新聞
	9	[すけち近江]異臭放つコンニャクの花 琵琶湖博物館で開花	産経新聞
	9	絶滅危惧種アユモドキ保全を 西日本を中心とした11の施設で順次展示 琵琶湖博物館のコメント <写真資料提供：『アユモドキ』>	中日新聞
	9	[関西食百景]53 水路育ち滋賀のコイ 琵琶湖博物館の話	朝日新聞
	10	タンポポの種類分かったよ 琵琶湖博物館で体験講座	産経新聞
	11	[湖岸より]〈236〉 琵琶湖の生い立ちには謎がいっぱい 里口保文専門学芸員	中日新聞
	12	琵琶湖博物館と中国の研究所 相互協力協定を更新 魚類共同研究を継続人事交流や情報交換も <写真資料提供：『ワタカ』>	産経新聞
	12	琵琶湖 起源は東海湖？新設浮上、学术界にさざ波 里口保文専門学芸員の話 <写真資料提供：『琵琶湖の固有種スズキケイソウ』『津市で見つかったケイソウ類の化石』>	中日新聞
	12	[地域発見 滋賀の博物館・美術館巡り]〈36〉 史跡・義仲寺 芭蕉が愛した人と風土 大津89句の景観 じっくり味わう 滋賀県博物館協議会会長篠原徹琵琶湖博物館館長	毎日新聞
	13	湖魚の顔って面白い 正面から見た点描画展「『水辺の肖像』原画展」が琵琶湖博物館で開催	京都新聞
	15	「漁師さんとエリ漁体験」参加者募集、琵琶湖博物館	朝日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
5	16	ウシモツゴ新種に認定 絶滅危惧種 琵琶博研究員が論文	毎日新聞
	18	ハッタミミズ大物探せ 国内種で最長 琵琶博など情報募る 大塚泰介専門学芸員のコメント	京都新聞
	19	滋賀舞台に映画「マザーレイク」地域キャスト60人募集 琵琶湖博物館もロケ地使用の手助け	朝日新聞
	19	JICA 研修7ヵ国8人 琵琶湖漁業の現場体感、大津で定置網「エリ」見学 琵琶湖博物館や県水産試験場なども訪れる	京都新聞
	21	「タンポポ調査」県内でも 外来種増加傾向 初確認の雑種も 芦谷美奈子主任学芸員の話 <写真資料提供：『ロクアイタンポポ』『タンポポ調査に参加する人たち』>	産経新聞
	23	[湖岸より]<237> 花粉から探る琵琶湖の生い立ち 林竜馬学芸員	中日新聞
	23	「全国ハッタミミズ・ダービー」県立琵琶湖博物館が開催 長寸、ふん塊で競う 金尾滋史主任学芸員のコメント	毎日新聞
	26	愛敬ある顔正面から見つめて 県立琵琶湖博物館で原画展 金尾滋史主任学芸員の話	朝日新聞
	26	エリ漁体験ツアー 7月4・5日に開催、琵琶湖博物館が参加者募集	産経新聞
	27	琵琶博初代館長川那部浩哉京都大名誉教授、湖の魅力を講演	京都新聞
30	[湖岸より]<238> ワニもいた太古の琵琶湖 高橋啓一副館長	中日新聞	
6	1	微生物を鉄のアートに 琵琶湖博物館でのプランクトンとの出会いをきっかけに 現代美術作家 宇野君平さん	中日新聞
	2	[みんなおいでよ]「漁師さんと行くエリ漁ツアー」参加者募集	読売新聞 (しが県民情報)
	5	「琵琶湖博物館アトリウムコンサート～私たちが奏でる琵琶湖の響き～」開催案内	読売新聞
	6	滋賀の味試食会 B級も郷土料理もうまい 琵琶湖博物館のブラックバスの天井もうまい ファミリーレストラン	京都新聞
	7	[ソフィアがやってきた!]多様な生命育む琵琶湖の危機 外来魚の増殖、水質汚染、乱獲…固有種を守るために 松田征也総括学芸員	京都新聞
	11	琵琶湖のえり漁体験を 来月、琵琶博がツアー 参加者募集案内	京都新聞
	12	ふるさと納税明暗 (県の返礼品の例として琵琶湖博物館など県施設のチケット等)	朝日新聞
	13	エリ漁の体験ツアー 琵琶博が募集	毎日新聞
	13	[湖岸より]<239> 古琵琶湖時代の絶滅した植物 山川千代美総括学芸員 / プランクトン見つけたよ 琵琶湖の環境学習として県立大湖沼環境実験施設や琵琶湖博物館で学習	中日新聞
	16	水辺の生き物つかんで観察 東近江で学習会 大塚泰介専門学芸員のコメント	中日新聞
	18	水草対策と利用法考えるフォーラム 琵琶湖博物館の学芸員らが現状を報告	京都新聞
	18	[京滋Biz]琵琶湖の環境・生態系保全に貢献 滋賀銀行「カーボンニュートラルローン 未来よし」 琵琶湖博物館すぐそばの湖畔で「ニゴロブナ・ワタカ放流式」	産経新聞
	19	[イベント]「びわ博フェス☆2015」開催案内	読売新聞 (しが県民情報)
	20	河原に意外と大物 スッポン甲羅35センチ!! 琵琶湖博物館の話	京都新聞
	20	琵琶湖愛 どう育む 打開策は?識者に聞く 環境社会学が専門で琵琶湖博物館の設立にも関わった龍谷大の脇田健一教授の話	京都新聞(夕刊)
	21	熱気球乗って琵琶湖の景観楽しもう 琵琶湖博物館前広場で「熱気球フライト」開かれる	京都新聞
	25	[湖国ぶんかの森]「魚米之郷」ひと味違う中国湖南料理、用田政晴上席総括学芸員の現地料理の感想	京都新聞
	26	湖面にゆれるハスの花 草津のハス群生地烏丸半島は「草津市立水生植物公園みずの森」「滋賀県立琵琶湖博物館」「UNEP 国際環境技術センター」があり、水環境保全の情報を世界に向けて発信する拠点となっている / 琵琶湖の変化見つめる新調査船「びわかぜ」乗船ルポ 琵琶湖博物館の話	京都新聞
	27	[湖岸より]<240> 琵琶湖は移動する? 里口保文専門学芸員	中日新聞
	27	[集う創る 2015 びわこ総文]自然科学 米原高 素朴、身近な疑問を追究 総文期間中の琵琶湖博物館の展示解説のためにギギやビワコオオナマズについて勉強	京都新聞
28	南湖の水草増殖考える 芳賀裕樹総括学芸員が講演	毎日新聞	
29	琵琶湖博物館が「倶楽部 LBM」特典付き年間観覧券制度を始める	朝日新聞	
7	3	田上隕石・田根隕石 100年ぶり里帰り 県内で初展示、琵琶湖博 11日から 山川千代美総括学芸員のコメント	京都新聞
	3	[今週の歳時記]「びわ博フェス 2015」開催案内	産経新聞
	4	安土城考古博が親子向けツアーの参加者募る 博物館の舞台裏(琵琶湖博物館の魚の飼育現場の見学)や遺跡を見学	京都新聞
	5	県立琵琶湖博物館きょうまでフェス さかなクンもやって来る 浅見孝円副館長のコメント	朝日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
7	5	「湖国」の伝統漁法体験会で歓声響く「漁師さんと行くエリ漁ツアー」琵琶湖博物館が開催 定員 100 人に 450 人応募殺到	産経新聞
	8	恐いけど触っちゃった！びわ博フェス家族連れ楽しむ	毎日新聞
	9	博物館など裏側に“潜入”しよう 安土城考古博物館が琵琶湖博物館や水生植物公園みずの森などの普段触れる機会のない施設の裏側のツアーの参加者募集	産経新聞
	10	[今日のBBC]「きらりん滋賀」初の里帰り！隕石が琵琶湖博物館に	京都新聞
	11	[湖岸より]〈241〉泥は知る 日本の夏 林竜馬学芸員	中日新聞
	11	国内最重量の隕石 1 世紀ぶり里帰り、琵琶湖博物館 山川千代美総括学芸員のコメント / 1 年後のリニューアル見すえ 琵琶湖博物館が新会員制度 琵琶湖博物館のコメント	産経新聞
	12	県内発見 2 隕石里帰りして公開 県立琵琶湖博物館	朝日新聞
	12	100 年ぶり隕石里帰り 琵琶湖博物館、県誇る逸品初展示	中日新聞
	15	琵琶湖への関心持って コクヨ滋賀と琵琶湖博物館お魚ヨシノート発売	産経新聞
	15	[ゆとり]いのちの水・琵琶湖への愛 3 住民が湖の価値知る場必要 提案した琵琶湖博物館建設に携わる 嘉田由紀子びわこ成蹊スポーツ大学長	産経新聞(夕刊)
	16	[ゆとり]いのちの水・琵琶湖への愛 4 「もったいない」揚げて立候補、選挙のことは何も知らなかった 住民参加型の琵琶湖博物館を作るのにつながるの生まれた人の応援で出馬 嘉田由紀子びわこ成蹊スポーツ大学長	産経新聞(夕刊)
	19	県立 4 文化施設で“涼んで”無料開放、家庭の節電応援 琵琶湖博物館では省エネを学ぶ体験型イベントを予定	京都新聞
	20	「ヨシノート」で魚を紹介 コクヨ工業と琵琶湖博物館が作製 琵琶湖博物館学芸員が魚の体について解説 金尾滋史主任学芸員のコメント	毎日新聞
	20	生態学琵琶湖賞台湾の謝志豪教授に 琵琶湖博物館で授賞式	朝日新聞
	23	琵琶湖の魚と水草親子で観察しよう琵琶湖博物館に集合 県水産課が募集	読売新聞
	23	年間観覧券を従来の半額に琵琶湖博物館 琵琶湖博物館のコメント	中日新聞
	23	琵琶湖の自然、営み紹介 写真展や観察会多彩 琵琶湖博物館の金尾滋史主任学芸員が撮ったカエルやトンボなど田んぼで暮らす生きものの 90 点を展示	京都新聞
	24	びわ湖ヨシ松明(たいまつ)まつり 2015 KUSATU フェスタ 琵琶湖博物館駐車場内の特設会場	朝日新聞
	25	生まれてくれてありがとう 琵琶湖博物館カイツブリ	読売新聞
	25	湖と田んぼ魅力 100 枚 31 日まで古民家で写真展 琵琶湖博物館の金尾滋史主任学芸員が県内の田んぼで撮影した生き物の写真を展示	毎日新聞
	25	[湖岸より]〈242〉多賀町から“化石”の親善大使 高橋啓一副館長	中日新聞
	26	第 39 回全国高等学校総合文化祭 開催日程および開場一覧	朝日中高生新聞
	26	[滋賀プラス 1]新聞版・情報ひろば 8 月号 滋賀が誇る逸品展「宇宙からの贈り物—初の里帰り隕石展示 催し案内	各紙
	26	絶景心も舞い上がる 草津烏丸半島、琵琶湖博物館前広場で熱気球の搭乗体験	京都新聞
	28	びわこ総文もきょうから 秋篠宮さまと佳子さま滋賀に 琵琶湖博物館でピワコオオナマズなどを見学された	読売新聞
	28	秋篠宮さまと佳子さま高校生の写真作品展と琵琶湖博物館を視察	毎日新聞
	28	秋篠宮さまと佳子さま滋賀ご訪問 午後に琵琶湖博物館をご訪問 / 琵琶湖博物館で琵琶湖から大阪湾までの航空写真を見ながら琵琶湖の歴史などについて説明を受けられた	産経新聞
	28	びわこ総文写真の力作鑑賞秋篠宮さまと佳子さま 琵琶湖博物館では琵琶湖固有の淡水魚や湖辺の生活文化の展示などを見学 琵琶湖博物館の話	京都新聞
	28	ようこそびわこ総文 笑顔でお迎えますきょう開幕 各開催部門の会場、日程	中日新聞
	31	琵琶湖岸で外来植物増加 自然環境研シンポ高島の調査 87 種確認 中井克樹専門学芸員のコメント	読売新聞
	31	びわこ総文 ☆産業部門 琵琶湖博物館で自作ジャムや人工イクラ作り / 滋賀の魚ずらりヨシ使用ノート コクヨ工業滋賀が環境に配慮したエコ文具「ReEDEN」シリーズ「滋賀のお魚ヨシノート」(琵琶湖博物館監修)を発売	朝日新聞
31	洋服展示、物販にぎわう 草津・産業部門 琵琶湖博物館でストラップ作りも	京都新聞	
31	滋賀びわこ総文大会 3 日目 琵琶湖博物館では産業部門が開幕 人工イクラ作りなどでにぎわう	中日新聞	
8	1	[湖岸より]〈243〉隕石は宇宙の化石！？ 山川千代美総括学芸員	中日新聞
	2	びわこ総文最終日 琵琶湖博物館で外来魚解剖実習 食欲に驚き 琵琶湖生態系理解深める	読売新聞
	2	カワウ減れど営巣多様化 行政駆除水辺で効果 県内住宅地ふん被害 亀田佳代子総括学芸員の話	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
8	2	びわこ総文最終日 自然科学部門湖上調査実習雄大な景色も満喫 プラントン観察熱心に このほか琵琶湖博物館、P&G滋賀工場のコースで観察や実験	京都新聞
	3	琵琶湖七つの謎 観覧1万人突破県立琵琶湖博物館 琵琶湖博物館のコメント	朝日新聞
	4	県審議会女性委員比二極化鮮明 「防災会議」など法律で義務付けられている審議会を29、「琵琶湖博物館協議会」など県独自の審議会を68設置	京都新聞
	8	中部のお出かけスポット 琵琶湖博物館の紹介	中日こどもウィークリー
	11	来月から大規模改装 琵琶湖博物館の水族展示室	京都新聞
	11	来月から県立琵琶湖博物館体験型へ大規模改装 観覧料下げ工事中も営業 / [湖国の夏]琵琶湖文化を手軽に コアユのサビキ釣り(犬上川) 金尾滋史主任学芸員の話	中日新聞
	14	[展覧会]滋賀が誇る逸品展「宇宙からの贈り物―初の里帰り隕石展示」	読売新聞 (しが県民情報)
	15	[湖岸より]〈244〉 もうすぐ見納めの水族展示 金尾滋史主任学芸員学芸員	中日新聞
	16	年間観覧券半額で好調1ヵ月で1000人突破 県立琵琶湖博物館	中日新聞
	19	数字でみる滋賀県 琵琶湖博物館によると琵琶湖の魚類16固有種 水族企画展示「琵琶湖固有の魚たち」開催中	毎日新聞
	20	琵琶湖博物館水族展示国内最大級に 来月から第1期工事施設一部休館	毎日新聞
	20	子供たちが生き物探し 金尾滋史主任学芸員が魚や虫の居場所や網の使い方について説明	朝日新聞
	22	プランクトンの観察や水質調査関西アーバン銀行が「夏休み！びわこ体感実習」 琵琶湖博物館にも立ち寄り二時間ほど見学	中日新聞
	25	湖上交通を使いツアー 宿泊施設の多い大津市と、美術館や博物館など体験型施設の多い草津、守山と連携へ湖上ルートで結ぶ	中日新聞
	27	滋賀舞台の映画「マザーレイク」県民参加の撮影佳境 沖島をはじめ琵琶湖博物館など10ヵ所以上で撮影	京都新聞
	28	[今週の歳時記]31日迄 琵琶湖博物館水族企画展示「琵琶湖固有の魚たち」開催	産経新聞
	29	[湖岸より]〈245〉 受け継ぐ水族展示の歴史 桑原雅之総括学芸員	中日新聞
	29	ナマズ実は優等生 食べてよし釣ってよし 橋本道範専門学芸員の話	読売新聞(夕刊)
	31	バイカル湖汚濁深刻化 琵琶湖の知恵参考に生態系危機ロシア対策へ 桑原雅之総括学芸員の話	京都新聞(夕刊)
	9	1	琵琶湖博物館きょうから体験型施設へ大改修 藤村俊樹新琵琶湖博物館創造室長の話
1		[地域発見 滋賀の博物館・美術館巡り]〈43〉 国友鉄砲の里資料館 特異技術から見る歴史 戦乱の世、鎖国、近代の欧米化… 滋賀県博物館協議会篠原徹琵琶湖博物館館長	毎日新聞
4		エコ・遊び心で評判呼ぶびわこ文具快走 販売店は3倍、びわこ文具をつくるコクヨ工業滋賀が琵琶湖博物館と共同開発した「お魚ノート」など商品数も100超え	朝日新聞
6		どうなる湖上の楼閣 2008年に休館、県立琵琶湖文化館年30万人訪れたテーマパーク…今や倉庫 琵琶湖博物館や近代美術館に展示品や機能を徐々に移管	中日新聞
8		[みんなおいでよ]「260万年前の化石観察会」参加者募集	読売新聞 (しが県民情報)
11		[今週の歳時記]「わくわく探検隊 化石のレプリカづくり」 開催案内	産経新聞
12		[湖岸より]〈246〉 琵琶湖がみてきた噴火 里口保文専門学芸員	中日新聞
17		企画展示「琵琶湖誕生」琵琶湖博物館で開催 珍しい地層標本 絶滅したゾウやワニの「化石」「複製」を展示	毎日新聞 (オー！ミー)
20		「おすすめの琵琶湖」募集 未発表の風景写真琵琶湖博物館で紹介	毎日新聞
22		企画展入場5万人突破 草津、琵琶湖博物館歴代最速59日目 節目の入場者に記念品贈呈 博物館のコメント	中日新聞
25		夢枕獏の日本巡礼釣り紀行 滋賀・ピワマス桑原雅之総括学芸員の話	京都新聞
25		[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「琵琶湖誕生―地層にねむる7つの謎―」)	朝日新聞(夕刊)
26		[湖岸より]〈247〉 花粉化石が語る人と自然の関係史 林竜馬学芸員	中日新聞
28		文化庁「日本遺産」活用の振興策議論 湖国の魅力再認識 大津で「日本遺産フォーラム in 滋賀」を開催 篠原徹琵琶湖博物館館長が湖国を愛した俳人の視点から琵琶湖の文化的景観を解説	京都新聞
29	[みんなおいでよ]「秋の里山―宝物をさがしにいこう」参加者募集	読売新聞 (しが県民情報)	
10	5	「おすすめの琵琶湖」写真投稿して 琵琶博、来夏リニューアルで募る 博物館のコメント	京都新聞
	9	[遊・You・友]「琵琶湖博物館 C展クローゼンイベント」開催案内	朝日新聞
	10	[湖岸より]〈248〉 サイもいた岸辺 高橋啓一副館長	中日新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
10	12	琵琶博 改装後の展示試作品紹介 嘉田由紀子びわこ成蹊スポーツ大学長が学芸員時代に立案した現在のC展示室を説明	京都新聞
	12	古民家展示室改装へ琵琶湖博物館 嘉田前知事が講演 大久保実香学芸員のコメント	中日新聞
	19	[ひと交差点]新たな情報にわくわく 「琵琶湖ハッタミミズ物語」を出版渡辺弘之さん 琵琶湖博物館と協力し、長さを競う「ダービー」を開催	朝日新聞
	20	キモカワ?最長ハッタミミズ出てこ〜い 滋賀県内で分布調査をしていた琵琶湖博物館が関心を深めてもらおうと「全国ハッタミミズダービー」コンテストを開催 金尾滋史主任学芸員のコメント	産経新聞(夕刊)
	21	生物多様性考えよう 「生物多様性自治体ネットワーク」のフォーラムが琵琶湖博物館で開催	中日新聞
	24	[湖岸より]<249> 古琵琶湖層に眠る植物化石 山川千代美総括学芸員	中日新聞
	24	湖国の風景写真 今と昔見比べて 琵琶湖博物館を拠点とする写真グループ「温故写新」が10周年展	京都新聞
	27	近江鍛工が県に1000万円を寄付 琵琶湖博リニューアルに	京都新聞
	27	[OH!見て滋賀の宝]琵琶湖 太古と現代雄弁に、環境変化知る材料 里口保文専門学芸員の話 / 琵琶湖博物館改装 県に1000万円を寄付 大津・近江鍛工坂口康一社長	中日新聞
	29	琵琶湖博物館改修へ寄付 近江鍛工社長、県に1000万円を寄付	毎日新聞
	31	[湖岸より]<250> さよならC展示室 亀田佳代子総括学芸員	中日新聞
11	7	江戸の豪商宅初公開 あすまでヨシ間屋・西川家 文化的価値に注目していた琵琶湖博物館が県立大の濱崎一志教授の協力を得て調査	毎日新聞
	7	生物多様性、守りたい「地域を心の古里に」 滋賀で初の全国会議 6日は「生物多様性全国ミーティング」がピアザ淡海で 7日は県主催の「生物多様性自治体ネットワークフォーラム」が琵琶湖博物館で開催される	京都新聞
	10	[名物にうまい物あり]琵琶湖の「厄介者」あっさりで上品 琵琶湖博物館内レストラン「にほのうみ」のバスの天ぷら	毎日新聞(夕刊)
	13	花粉学会から奨励賞受賞 琵琶湖博物館林学芸員	中日新聞
	14	[湖岸より]<251> 琵琶湖の水の使われ方 浦山重雄主任主査	中日新聞
	19	企画展「パノラマの世界と技」鳥の視点から眺めて 鳥瞰図(琵琶湖博物館などを描いた約40点) つま楊枝で作ったミニチュア模型5点を紹介	毎日新聞
	20	[A+1 美術館・博物館]琵琶湖博物館催し物案内(「琵琶湖誕生一地面にねむる7つの謎ー」)	朝日新聞(夕刊)
	22	「本当にいい滋賀」旅行誌に ディー・デザイン・トラベル 空閑編集長、琵琶湖博物館でインタビュー	中日新聞
	23	[ひと交差点]100年間のスギ花粉調査 琵琶湖博物館林学芸員日本花粉学会の奨励賞を受賞	朝日新聞
	24	[インサイド滋賀]淡水生物を扱う施設としては国内最大級の規模を誇る琵琶湖博物館から なぜ?タガメ・ゲンゴロウが姿を消す 桑原雅之総括学芸員のコメント	産経新聞
26	「滋賀らしさ」観光ガイド本に 愛され続けるデザイン紹介 「ディー・デザイン・トラベル滋賀」琵琶湖博物館で出版記念イベント	京都新聞	
28	[湖岸より]<252> 環境保全の歩みを次世代へ 間所忠昌主任主事	中日新聞	
12	1	一日版「キーワードきょうと」12月号カレンダー「わくわく探検隊 綿に触れてみよう」開催案内	京都新聞
	3	[母なる湖のために 琵琶湖再生法成立]③繁茂 水草の山死んだ漁場 琵琶湖博物館の話	読売新聞
	3	クマゼミ拡大庭木移植で <写真資料提供:『クマゼミ』>	中日新聞
	4	湖国産ナマズ新名物に、守山の漁師販売用捕獲開始 県立琵琶湖博物館内レストランの「なまず天丼」もベトナム産のナマズの一つバサを使用	京都新聞
	4	[母なる湖のために 琵琶湖再生法成立]④明暗 固有種増加一条の光 琵琶湖博物館で開催の生物多様性を考える討論のパネリスト守山漁協戸田氏の話	読売新聞
	5	[母なる湖のために 琵琶湖再生法成立]⑤模索 生態系の謎解明挑む 水草増減の謎に挑む芳賀裕樹総括学芸員の話	読売新聞
	8	琵琶湖博物館に5種62匹、バイカル湖の魚到着 桑原雅之総括学芸員の話	朝日新聞
	8	琵琶湖博物館リニューアル支援企業(11社)に感謝状	毎日新聞
	8	バイカル湖の生物琵琶博に到着 来年改装後展示、生きた状態では国内唯一 桑原雅之総括学芸員の話	京都新聞
	8	バイカル湖から魚たち 琵琶湖博物館、来夏に一般公開 桑原雅之総括学芸員の話	中日新聞
8	バイカル湖の魚、琵琶湖博物館に到着「古代湖」共通点多く、比べて知って 桑原雅之総括学芸員の話	産経新聞	

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
12	9	昨年の県内観光客数（県調査）2年連続増 4632万8600人 琵琶湖博物館は21位	毎日新聞
	9	[考える舌]25 駆除事業支える外来魚の食文化 琵琶湖の「オオクチバス」 琵琶湖博物館では天井やバーガーを販売	京都新聞
	10	[まちかど]「第6回琵琶湖地域の水田生物研究会」案内	京都新聞
	11	バイカル湖の魚到着 来年7月琵琶湖博物館で公開 桑原雅之総括学芸員のコメント / 国内最古の構造船 塩津港遺跡で釘使用の板出土 用田政晴上席総括学芸員の話	読売新聞
	11	琵琶湖博物館が13日研究会 水辺の生き物守る米作り報告 / 和船史の「空白」に光、最古級の「構造船」部材か 琵琶湖・塩津港遺跡 用田政晴上席総括学芸員の話	朝日新聞
	11	12世紀琵琶湖水運担う 長浜・塩津港遺跡最古の構造船くぎ使用全長17メートル超か 用田政晴上席総括学芸員の話	京都新聞
	11	国内最古構造船の部材 平安後期、琵琶湖水運担う 用田政晴上席総括学芸員のコメント	中日新聞
	11	平安後期最古の構造船 滋賀・塩津港遺跡で部材出土 用田政晴上席総括学芸員のコメント	産経新聞
	12	[湖岸より]〈253〉琵琶湖の蟹気楼 戸田孝専門学芸員	中日新聞
	12	湖国の漁労具「国文化財に」登録へ、琵琶博が資料整理 渡部圭一学芸技師のコメント	京都新聞
	16	[琵琶湖遠近]第5部 湖とわたしたちく上> 意識生活変化水辺から離れ 来夏リニューアルの琵琶湖博物館の新展示では暮らしに起きた急激な変化考えてもらう展示を検討 大久保実香学芸員のコメント	京都新聞
	18	琵琶博を一新へ県に500万円寄付 大津の和菓子メーカー「叶匠壽庵」	京都新聞
	20	叶匠壽庵が琵琶湖博物館改装費用として県に500万円寄付	中日新聞
	21	生き物調査や環境活動発表「淡海エコクラブ活動交流会」が琵琶湖博物館で開催	京都新聞
	24	[湖国この一年2015]琵琶湖博物館などの県内トンボ分布調査で県レッドリストの絶滅危惧種3種の恐れ	京都新聞
	27	できた!!私のはたき 大掃除を前に琵琶湖博物館で手作り体験	毎日新聞
	1	3	たこ作り楽しいな 琵琶湖博物館正月遊び体験
3		家族連れら障子紙で凧 琵琶湖博物館で家族連れら約50人	読売新聞
9		リニューアルオープンに向けて準備中の琵琶湖博物館が研究成果を紹介 今月から公開講座	朝日新聞
9		[湖岸より]〈254〉ヨシたいまつを博物館へ 渡部圭一学芸技師	中日新聞
10		琵琶湖研究成果連続講座で紹介 23日から琵琶博	京都新聞
12		ふなずし、独自発達した調理法 県の伝統食ルーツ 研究者ら報告書「みんなで語るふなずしの歴史」発行 橋本道範専門学芸員のコメント	京都新聞
13		[私の先生]「観察力」鍛えてくれた 篠原徹琵琶湖博物館館長 / 「新琵琶湖学セミナー」受講生を募集 草津で全3回	中日新聞
22		「初めまして新種です」県内で甲虫の仲間2種、発見 23日から琵琶湖博物館で展示	毎日新聞
23		[湖岸より]〈255〉魚が泳ぐ田んぼ作り 水谷智主任専門員	中日新聞
29		[遊・You・友]「公開座談会「ふなずし」の歴史が変わる」開催案内	朝日新聞
30		[湖岸より]〈256〉ハッタミミズ・ダービー始末記 大塚泰介専門学芸員	中日新聞
31		[滋賀プラス1]新聞版・情報ひろば 2月号 新琵琶湖学セミナーいざリニューアルへ! 催し案内	各紙
31		ふなずしの歴史研究者が座談会、琵琶湖博物館で開催 橋本道範専門学芸員のコメント	読売新聞
31		現在のふなずし江戸時代後期に琵琶湖周辺で確立か 琵琶湖博物館で専門家ら座談会 橋本道範専門学芸員のコメント	朝日新聞
31	ふなずし漬け方に地域性 魚種特定日本だけ 琵琶湖博物館で公開座談会開催	京都新聞	
31	ふなずしの歴史つづる 琵琶湖博物館で報告書発行記念 研究者ら公開座談会	中日新聞	
2	1	ニョロッと「日本一」85センチのハッタミミズ 水口町で発見 琵琶湖博物館が全国ダービー開催	毎日新聞
	4	長いハッタミミズ甲賀で85センチ全国一認定 分布調査をしていた琵琶湖博物館が2013年に「湖国ハッタミミズ・ダービー」を開催その後競争が静かに過熱、2015年に「全国ハッタミミズ・ダービー」として開催	読売新聞
	5	85センチミミズダービーV 甲賀のヨシ原で河瀬さん採取 「全国ハッタミミズ・ダービー」実行委員の大塚泰介専門学芸員のコメント	朝日新聞
	6	大津で発見の甲虫新種と発表 県立琵琶湖博物館で標本展示 八尋克郎総括学芸員のコメント	産経新聞

月	日	記事テーマ	掲載新聞社名
2	7	外来魚駆除へ情報交換 大阪の福崎君ら発表 県水産試験場や県立琵琶湖博物館の職員らが講演	読売新聞
	9	ふなずし品評会 力作41点を審査、県庁職員ら出品 知事や篠原徹琵琶湖博物館館長らが評価	毎日新聞
	9	国内最長「ハッタミミズ」ダービー、優勝は水口産85センチ 石川県のNPO法人「河北潟湖沼研究所」と県立琵琶湖博物館などが実行委員会をつくり全国から募集	中日新聞
	11	16年度県予算案 人口減対策に重点、琵琶湖の価値発信 7月に第1期リニューアルオープンする琵琶湖博物館の展示、交流空間の整備には7億8400万円をかける	京都新聞
	11	立命大生を琵琶湖に 滋賀の豊かさを感じてもらうため、環境政策課がびわこ・くさつキャンパスの新入生を対象に学習船乗船や特産品の試食、県立琵琶湖博物館の見学など、予算額200万円。	中日新聞
	13	[湖岸より]<257> 森林と人との関わり 安福俊幸専門員	中日新聞
	16	[地域発見 滋賀の博物館・美術館巡り]<54> 国指定重要文化財 大角家住宅旧和中散本舗 東海道の旅人救った薬屋 庭園備える立派な本陣屋敷 滋賀県博物館協議会会長篠原徹琵琶湖博物館館長	毎日新聞
	18	全国ハッタミミズダービー 長い戦い決着 滋賀の85センチ個体がV 琵琶湖博物館は「ハッタミミズコミッション(仮称)」の立ち上げも準備中 大塚泰介専門学芸員の話	産経新聞(夕刊)
	19	集う・使う・創る新空間の催し物案内 「まんぼの世界展」	産経新聞
	22	ふなずし学び郷土愛、県内8校教員が報告 「ふなずし学習」の事例発表会を琵琶湖博物館で開催	中日新聞
	24	近江鉄道の連結バス「ジョイントライナー」 湖岸コース(イオンモール草津や琵琶湖博物館へ向かうコース)などを検討	中日新聞
	27	[湖岸より]<258> 琵琶湖の水位と景色 大久保実香学芸員	中日新聞
	28	全国ハッタミミズダービー“水口・松尾産”85センチV 実行委事務局長 大塚泰介専門学芸員のコメント	京都新聞
	29	自然の懐で虫を追う 新種のニセクビボソムシ発見、日本甲虫学会誌に掲載 4月10日まで琵琶湖博物館で展示	朝日新聞
3	1	8小学校がふなずしで環境学習、教員が発表 交流会が琵琶湖博物館で開催	毎日新聞
	6	ふなずし歴史知ろう「日本最古のすし」—実際は? 研究者たちが報告書「みんなで語る『ふなずし』の歴史」6月出版 執筆者の一人、橋本道範専門学芸員の話	毎日新聞
	8	[みんなおいでよ]「わくわく探検隊 琵琶湖の模型をつくろう」参加者募集 / 糸車使い昔の生活学ぶ 「近江はたおり探検隊」の小野容子元学芸員たちが講師	読売新聞(しが県民情報)
	12	[湖岸より]<259> 琵琶湖の固有種 松田征也総括学芸員	中日新聞
	15	[地域発見 滋賀の博物館・美術館巡り]<56> 醒井木彫美術館 上丹生の“作品展示場” 集落全体で仏壇作り 滋賀県博物館協議会会長篠原徹琵琶湖博物館館長	毎日新聞
	16	[テーブルトーク]「ふなずし」歴史や食文化を追う 橋本道範専門学芸員	朝日新聞(夕刊)
	18	リニューアルへ損保会社200万円琵琶博に寄付 琵琶博のコメント	京都新聞
	20	琵琶湖博物館 改装の舞台裏 新展示の見どころ紹介	朝日新聞
	27	[湖岸より]<260> 日本一小さなネズミを博物館に 澤邊久美子学芸員	中日新聞

5) 雑誌等掲載記録

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
4	「はしかけ登録講座」「シノキの花と森を調べよう」「田んぼ体験(5月)」「360万年前の化石観察会」の案内 「タンボゴ調査にチャレンジしよう」の案内 全国水族館ガイド 琵琶湖博物館の紹介 「子連れママ」の琵琶湖博物館ツアー	博物館研究 vol.50 No.5 No.563 子供の科学 78巻 第5号 水族館びあ(全国版) ウィズハートしが 初夏号
5	[情報ひろば]平成27年度県の組織整備 琵琶湖博物館に広報営業課を設置 「偏光☆万華鏡をつくろう」「滋賀の鳥たち最前線」「指導者向け講座」「プランクトンの観察」の案内 「偏光☆万華鏡をつくろう」の案内 [関西の美術館・博物館]琵琶湖博物館の紹介 今こそ、びわ湖の再発見 知られざる?びわ湖トピックス 日本一長いミミズを競う ハッタミミズ・ダービー 琵琶湖博物館	滋賀プラス1(県広報誌) 5・6月号 vol.155 博物館研究 vol.50 No.6 No.564 子供の科学 78巻 第6号 SAVVY(月刊サヴィ)7月号 チェキボン 5月号 vol.99 / vol.19(長浜・米原・彦根・東近江エリア版) 滋賀報知新聞(5/28)

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
6	<p>企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」、水族企画展示「琵琶湖固有の魚たち」、「びわ博フェス2015」「葉っぱ模様のハンカチづくり」の案内</p> <p>企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」の案内</p> <p>全力!夏遊びスポット 琵琶湖博物館の紹介</p> <p>企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」、「びわ博フェス☆2015」、講座「回転実験室で水槽実験を!」「指導者向け博物館活用講座 土壌生物の観察」、体験教室「田んぼ体験」、からすま半島で楽しもう「プランクトンでアート」「ヨシあーとで学ぼう!」観察会「びわ湖バレイでアキアカネ調査に参加しよう」「230万年前の地層観察会」、わくわく探検隊「葉っぱ模様のハンカチづくり」の案内</p> <p>疲れるまで遊ぼう 京都・滋賀の遊び場情報 琵琶湖博物館の紹介</p> <p>琵琶湖の南でリフレッシュ 滋賀県琵琶湖の旅 琵琶湖博物館の紹介</p> <p>ドライブコース周辺オススメ立ち寄りスポット 琵琶湖博物館の紹介</p> <p>水族企画展示「琵琶湖固有の魚たち」の案内</p> <p>地域一丸となって環境美化を推進 淡海に生かされて <写真資料提供:『ピワコオオナマズ』『ピワマス』></p> <p>動物園&水族館 琵琶湖博物館の紹介</p> <p>びわ博フェス 2015「漁師さんと行くエリ漁ツアー」の案内</p> <p>「びわ博フェス☆2015」の案内 / バックヤードがおもしろい!「水族展示バックヤード探検」、琵琶湖博物館と安土城考古博物館が中心となって活動する滋賀県ミュージアム活性化推進委員会が開催する「川が紡いだ文化を探る湖上フォーラムI」の案内</p> <p>バックヤードがおもしろい!「水族展示バックヤード探検」、琵琶湖博物館と安土城考古博物館が中心となって活動する滋賀県ミュージアム活性化推進委員会が開催する「川が紡いだ文化を探る湖上フォーラムI」の案内</p> <p>「からすま半島」にある琵琶湖博物館・グリーンプラザからすま・水生植物公園みずの森の施設とイベント紹介</p> <p>「からすま半島」にある琵琶湖博物館・グリーンプラザからすま・水生植物公園みずの森の施設の探検</p>	<p>博物館研究 vol.50 No.7 No.565</p> <p>子供の科学 78巻 第7号</p> <p>じゃらん家族旅行(関西・東海・中国・祖国版) れいかる(湖国文化情報) 7・8月号 vol.87</p> <p>京都・滋賀 ママリーフ</p> <p>月刊ぶらざ</p> <p>関西ファミリーWalker</p> <p>旅楽 No.43</p> <p>オージス No.32 7月号</p> <p>おでかけの本(関西版)</p> <p>にゅーすもりやま</p> <p>リビング滋賀(6/20・27)</p> <p>コガモ通信(6/27)</p> <p>からすまいちばん(2015.7.1~8.31) 琵琶湖・鳥丸半島魅力向上活性化事業</p> <p>からすまいちばん探検ノート 琵琶湖・鳥丸半島魅力向上活性化事業</p>
7	<p>[情報ひろば]「びわ博フェス2015」</p> <p>企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」、水族企画展示「琵琶湖固有の魚たち」、「プランクトンでアート」「230万年前の地層観察会」「ヨシあーとで学ぼう!」の案内</p> <p>企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」の案内</p> <p>[7月8月の特別展] 琵琶湖博物館の企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」の案内、水族企画展示「琵琶湖固有の魚たち」案内</p> <p>「びわ博フェス☆2015」、わくわく探検隊(夏)、滋賀が誇る逸品展「宇宙からの贈り物-初の里帰り隕石展示」、企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」、水族企画展示「琵琶湖固有の魚たち」、「生活実験工房 田んぼ体験」、フィールド観察会(夏)、講座「回転実験室で水槽実験を!」、講演会「宇宙からの贈り物」、からすま半島で楽しもう(夏)、からすま半島で楽しもう(秋)、わくわく探検隊(秋)、「団体向け学習体験」の案内</p> <p>滋賀が誇る逸品展「宇宙からの贈り物-初の里帰り隕石展示」、講演会「宇宙からの贈り物」、企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」、水族企画展示「琵琶湖固有の魚たち」、「びわ湖バレイでアキアカネ調査に参加しよう」「秋の里山-宝物をさがしにいこう」「生活実験工房 田んぼ体験」「回転実験室で水槽実験を!」「指導者向け博物館活用講座 土壌生物の観察」「260万年前の化石観察会」「プランクトンでアート」「ヨシあーとで学ぼう!」「50年前の暮らしを探検」「化石のレプリカづくり」「植物化石を掘りだそう」「はしかけ登録講座」、観察会「260万年前の化石観察会」の案内</p> <p>キレイを見つける滋賀のたび 琵琶湖と人の歴史を学ぶ 琵琶湖博物館の紹介</p> <p>湖をテーマにした淡水魚水族館 琵琶湖博物館の紹介</p>	<p>滋賀プラス1(県広報誌)7・8月号 vol.156</p> <p>博物館研究 vol.50 No.8 (No.566号)</p> <p>子供の科学 78巻 第8号</p> <p>全科協NEWS vol.45 No.4 (No.263号)</p> <p>しが子ども体験学校(2015年度版)</p> <p>学びのメニューファイル(7~11月号)</p> <p>滋賀たび summer</p> <p>LIVE 魚(学研の図鑑)</p>

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
7	<p>夏休みわくわくエコ体験！「葉っぱ模様のハンカチ作り」「プランクトンでアート」の案内 ～みて・きいて・さわって・たべて～ からすまいちばん7・8月のイベント案内</p> <p>教えてナマズ先生 日本有数の淡水魚研究機関「琵琶湖博物館」に所属しているナマズ博士へ質問状 金尾滋史主任学芸員 夏休みはからすま半島が面白い「びわ博フェス」など多彩なイベント / 日本最重量の田上隕石 琵琶博で初の里帰り展示</p> <p>夏休み 120%楽しめる Spot 琵琶湖博物館の紹介 みんなでウォーターパラダイスへ行こう 烏丸半島探検ツアー (琵琶湖博物館と水生植物公園みずの森の探検) コクヨ工業の環境への取り組み 琵琶湖博物館とのコラボ商品「滋賀のお魚ヨシノート」 マンモスよりでかいコウガゾウの骨格標本は必見 琵琶湖博物館の紹介プランクトンでアート</p>	<p>広報くさつ No.1134</p> <p>e・press vol.153 (FM 滋賀)</p> <p>でかナマズ 爆釣攻略</p> <p>滋賀報知新聞 (7/2・9)</p> <p>City Life (シティライフ北摂 EAST 版) vol.381 琵琶湖環境フェスタ 2015 チラシ(日本青年会議所近畿地区滋賀ブロック)</p> <p>オウティクラブ 8月号</p> <p>どらいぶらり 2015 Summer vol.07</p>
8	<p>企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」、「化石のレプリカづくり」「田んぼ体験(9月)」「50年前の暮らしを探検」の案内</p> <p>企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」の案内 企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」、体験教室「田んぼ体験」、「はしかけ登録講座」からすま半島で楽しもう「50年前の暮らしを探検」、見学会「三上のずいき祭り」、観察会「260万年前の化石観察会」「秋の里山-宝物をさがしにいこう」、わくわく探検隊「化石のレプリカづくり」「植物化石を掘りだそう」の案内</p> <p>夏のイベント情報「講演会『宇宙からの贈り物』」「プランクトンでアート」「ヨシあーとで学ぼう!」の案内</p> <p>企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」の案内と琵琶湖博物館の紹介</p> <p>琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖の環境は良くなっているの? 金尾滋史主任学芸員 滋賀県が舞台の映画「Mother Lake」始動!</p>	<p>博物館研究 vol.50 No.9 (No.567号)</p> <p>子供の科学 78巻 第9号 れいかる(湖国文化情報) 9・10月号 vol.88</p> <p>PCALi チラシ(博物館情報サイト)</p> <p>都市問題 vol.106</p> <p>なにわ 9月号 No.723(大阪府警察本部機関誌) 遊・悠・West 9・10月号(西日本高速道路情報誌) スパイラル No.301 滋賀ロケーションオフィス NEWS(第27号)</p>
9	<p>[情報ひろば]琵琶湖博物館「第1期リニューアル」 「研究博物館」の組織論と活動論-琵琶湖博物館開設時の主張とその後 戸田孝専門学芸員 / 企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」、「260万年前の化石観察会」「琵琶湖の湖底を探検」「はしかけ登録講座」「秋の里山-宝物をさがしにいこう」の案内</p> <p>企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」の案内 [9月10月の特別展]琵琶湖博物館の企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」案内 芸術の秋、家族で行きたいオススメ博物館・美術館 琵琶湖博物館の紹介</p> <p>企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」の案内 「50年前の暮らしを探検」の案内 琵琶湖博物館の紹介</p> <p>琵琶湖博物館の紹介 フナやナマズがいる田んぼで生きもの観察会 金尾滋史主任学芸員のコメント</p>	<p>滋賀プラス1(県広報誌)9・10月号 vol.157 博物館研究 vol.50 No.10 (No.568号)</p> <p>子供の科学 78巻 第10号 全科協 NEWS vol.45 No.5 (No.264号)</p> <p>Shikisai 9月号 vol.14(敷島住宅「友の会」会報誌)</p> <p>ピースマム vol.31 リビング滋賀(9/12) GOOD LUCK TRIP 滋賀 2015-2016 vol.2(外国人向けフリーマガジン) びわこつうしん秋号(独立行政法人水資源機構) まち・むら(自治会町内会情報誌)</p>
10	<p>企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」、「だれの足あと?」「化石スケッチ」の案内</p> <p>企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」の案内 企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」、体験教室「田んぼ体験」、ディスカバリーボックス「だれの足あと?」「化石スケッチ」、わくわく探検隊「秋の色さがし」「綿に触れてみよう」の案内</p> <p>日本最長のミミズを見つけよう 大塚泰介専門学芸員のコメント</p> <p>琵琶湖博物館の新たな年間観覧券制度「倶楽部LBM」の入会受付がスタートしました!!</p>	<p>博物館研究 vol.50 No.11 (No.569号)</p> <p>子供の科学 78巻 第11号 れいかる(湖国文化情報) 11・12月号 vol.89</p> <p>リビング滋賀(10/17)</p> <p>滋賀報知新聞(10/22)</p>

月	記事テーマ	掲載雑誌社名
11	<p>「綿に触れてみよう」「田んぼ体験(12月)」の案内 企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」の案内 [11月12月の特別展] 琵琶湖博物館の企画展示「琵琶湖誕生-地層にねむる7つの謎-」の案内 / 読書のすすめ2015「にわのかいじゅうファイル」「田んぼの一年」高木成美図書室司書 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介 関西文化の日参加施設情報</p>	<p>博物館研究 vol.50 No.12 (No.570号) 子供の科学 78巻 第12号 全科協NEWS vol.45 No.6 (No.265号)</p> <p>ディー・デザイン・トラベル滋賀 関西ファミリーウォーカー 冬号 関西文化の日のチラシ</p>
12	<p>わくわく探検隊「火起こし体験」の案内 わくわく探検隊「火起こし体験」の案内 「第1期リニューアル」のお知らせ、体験教室「田んぼ体験」、新琵琶湖学セミナー「いざりリニューアルへ!」、わくわく探検隊「火起こし体験」「よし笛をつくろう」の案内 琵琶湖博物館など近隣の施設紹介</p> <p>「田んぼ体験(しめ縄づくり)」の案内 滋賀県立琵琶湖博物館プレゼンツ(地域発見)博物館がやってくる!の案内 滋賀県立琵琶湖博物館プレゼンツ(地域発見)博物館がやってくる!の案内 公開座談会「ふなずし」の歴史が変わるの案内 琵琶湖博物館の紹介</p> <p>輝く人たちに聞きました 私たち、2016年が楽しみです!「琵琶湖博物館が新しく 三日月大造滋賀県知事 輝く人たちに聞きました 私たち、2016年が楽しみです!「琵琶湖博物館が新しく 三日月大造滋賀県知事 琵琶湖博物館外観イラスト</p>	<p>博物館研究 vol.51 No.1 (No.571号) 子供の科学 79巻 第1号 れいかる(湖国文化情報) 1・2月号 vol.90</p> <p>ICOM(国際博物館会議)2019年大会京都に招致するためのカラーパンフレット にゅーすもりやま No.618 SEIBU PRESS</p> <p>西武大津通信 12月号</p> <p>滋賀県ミュージアム活性化推進委員会のチラシ WOW!琵琶湖・京都府・城崎達人天書(香港 WOW!Media制作) リビング滋賀(12/26)</p> <p>こがも通信(12/26)</p> <p>滋賀中央信用金庫 2016カレンダー</p>
1	<p>体験教室「田んぼ体験」、わくわく探検隊「よし笛をつくろう」の案内 わくわく探検隊「よし笛をつくろう」の案内 対談「ふなずしの歴史」再考 篠原徹館長、橋本道範専門学芸員 / 公開座談会「ふなずし」の歴史が変わるの案内 体験施設 琵琶湖博物館の紹介</p>	<p>博物館研究 vol.51 No.2 (No.572号)</p> <p>子供の科学 79巻 第2号 Duet 2016冬 vol.118</p> <p>湖南地域!ええとこクイズラリー</p>
2	<p>「おひなさまをつくろう!」、わくわく探検隊「琵琶湖の模型をつくろう」「新琵琶湖学セミナー」の案内 わくわく探検隊「琵琶湖の模型をつくろう」の案内 「琵琶湖博物館からのお知らせ」、「里山体験教室」「新琵琶湖学セミナー」、わくわく探検隊「琵琶湖の模型をつくろう」「はしかけ登録講座」の案内 施売物たちと琵琶湖の冬-琵琶湖博物館 金尾学芸員に聞く- 県施設の魅力あれこれ</p>	<p>博物館研究 vol.51 No.3 (No.573号)</p> <p>子供の科学 79巻 第3号 れいかる(湖国文化情報) 3・4月号 vol.91</p> <p>リーフかさぬい リビング滋賀(2/13)</p>
3	<p>県立琵琶湖博物館「リニューアルの舞台裏」展の案内 「滋賀県から発見されたニセクビボソムシの新種」、「里山体験教室」の案内 「滋賀県から発見されたニセクビボソムシの新種」の案内 [3月4月の特別展]「琵琶湖フォトコンテスト作品展」「シェアしたい琵琶湖の風景展」の案内 びわこはくぶつかん水族展示・C展示が7月14日にリニューアルオープン! 琵琶湖博物館の紹介 子どもの力 淡海こどもエコクラブ活動交流会 桑原雅之環境学習センター所長 「琵琶湖フォトコンテスト作品展」「琵琶湖博物館からのお知らせ」、体験教室「田んぼ体験」の案内 琵琶湖博物館の紹介 琵琶湖博物館の紹介</p>	<p>滋賀プラス1(県広報誌)3・4月号 vol.160 博物館研究 vol.51 No.4 (No.574号)</p> <p>子供の科学 79巻 第4号 全科協NEWS vol.46 No.2 (No.267号)</p> <p>チェキポン 3月号 vol.109</p> <p>まっふる家族でおでかけ 関西'16-'17 M・O・H通信 vol.51(通巻.52号)</p> <p>れいかる(湖国文化情報) 5・6月号 vol.92</p> <p>KuSaTsu -びわ湖・草津-観光ガイドマップ 滋賀ぐるっと旅</p>

(3) 予算

2015年度歳入 (円)

科 目	予 算 額
使用料及び手数料	81,200,000
財 産 収 入	607,000
諸 収 入	10,998,000
合 計	92,805,000

2015年度歳出 (円)

事 業 名	事 業 内 容	予 算 額
管理運営費	施設維持費、烏丸半島整備費、事務費、広報費	352,087,000
調査資料収集事業費	研究費、研究備品、資料収集製作、資料整理保管、水族飼育	100,793,000
展示事業費	企画展示、常設展示、展示維持管理、展示用印刷物 展示交流空間再構築事業	774,218,000
情報交流事業費	情報システム管理、データ入力、図書整備、交流事業開催、フィールドレポーター	26,811,000
環境学習推進費	環境学習センターの運営	3,035,000
合 計		1,256,944,000

1) 企業連携 (寄附)

53件 36,436千円

リニューアルサポーター 33件 34,716千円

水槽サポーター 5件 320千円

メンバーシップ 15件 1,400千円

2) バナー広告

ホームページ上で企業等のバナー広告を有料掲載している。2014年度から引き続き1件の掲載があった。

期 間 2015年1月1日～5月31日

掲 載 料 50,000円

広告掲載者 株式会社レイベック (大阪市)

4 存在基盤の確立

(1) 琵琶湖博物館協議会

第1回

開催日時 2015年11月10日(火) 14:00~16:30

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

- 議 題 ①2014年度第2回琵琶湖博物館協議会のご意見について
 ②2015年度行動計画の中間実績・評価について
 ③新琵琶湖博物館創造第1期展示リニューアルの進捗状況について
 ④その他

第2回

開催日時 2016年3月10日(木) 14:00~16:30

場 所 琵琶湖博物館セミナー室

- 議 題 ①琵琶湖博物館中長期基本計画について
 ②新琵琶湖博物館の創造について
 ③その他

第10期委員

(任期：2014年9月1日～2016年8月31日)

氏 名	区分	現 職 (2015年3月現在)
北島 泰雄	学校教育	草津市立常盤小学校 校長
水谷 裕之	学校教育	高島市立マキノ中学校 校長
津屋 芙未	家庭教育	滋賀文化芸術学習支援センター トータルコーディネーター
橋詰 純子	社会教育	カワセミ自然の会
伴 修平	学識者	滋賀県立大学環境科学部 教授
中坊 徹次	学識者	京都大学総合博物館 教授
山西 良平	学識者	大阪市立自然史博物館 館長
菊池 玲奈	学識者	結・社会デザイン事務所 代表
松江 仁	学識者	株式会社ケービーエス京都プロジェクト 常務取締役
廣畑 諭	学識者	パナソニック(株)アプライアンス社 総務グループひろげるエコ推進チーム チームリーダー
土井 通弘	学識者	就実大学人文科学部 教授
中田 春美	学識者	近江歴史回廊倶楽部
山本 尚三郎	学識者	滋賀県脊髄損傷者協会 副理事長
水野 利香	学識者	公募委員
上原 千春	学識者	公募委員

(2) 企画・計画

1) 第三段階(2011年度～2015年度)活動計画

2002年12月に策定した琵琶湖博物館中長期目標『地域だれでも・どこでも博物館』の実現をめざし、博物館の運営方針としての具体的な取り組み方策および必要な環境の整備について明らかにするため、2005年3月に琵琶湖博物館中長期基本計画が策定された。

2015年度は計画の第三段階の最終年度にあたり、また、中長期基本計画全体を総括する年度にも当たる。従って、第三段階である、地域の人々が博物館と対話することを通して、地域を再発見することを促し、琵琶湖博物館協議会

琵琶湖博物館がこの活動を応援することで共に成長することができる機能(対話と応援ができる博物館)の強化に向けた取り組みについて、今年度の活動内容とその実績・評価および課題をまとめるとともに、第三段階の総仕上げとしての評価を行った。今後、琵琶湖博物館中長期基本計画全体の評価を行う必要がある。

また、第三段階は新琵琶湖博物館の創造に向けた準備期間としても位置づけられており、2014年4月に『新琵琶湖博物館創造基本計画』が策定され、この基本計画にそって、2016年7月14日の第一期展示リニューアルオープンにむけて作業を進めているところである。

2) 琵琶湖博物館広報・経営戦略

今年度も昨年度に引き続き「タイムリーな広報、ターゲットに応じた広報、口コミを促す働きかけ」を戦略として広報を展開してきた。広報用チラシ・ポスターの配布、ホームページによる情報発信、広報担当職員による県内外小中学校訪問、大型集客施設での常設展示の紹介展示設置などを行ってきた。従来の報道機関への資料提供に加え、新たな取り組みとして、ネットからのチラシ配信や駅張りポスターなど広域的かつピンポイント的な広報活動を行なった。また、2016年度に向けて第一期展示リニューアルの告知や、企業連携事業を組み込んで広報することも行った。さらに、既存のホームページも見やすさや魅力の点から見直しを行い、多くの人がアクセスのしやすい魅力的なホームページを目指して改善や修正を行った。併せて「イナズマロックフェスティバル」などイベントへの出展や、イオンモール草津など大型集客施設で紹介展示を行うなど、琵琶湖博物館のPR も行った。

これらの活動については、随時広報調整会議を開き、リニューアルを見据えた広報戦略について検討を行った。

IV 2015 年度をふり返って

1 研究部

琵琶湖博物館中長期基本計画では、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究の確立をはかることを目標にしている。今年度は、琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究、また他の研究機関や地域の人びととともに調査研究した成果を活かして、C展示室、水族展示室の展示リニューアルを行うこと、外部資金による研究代表者・研究分担者研究事業15件が目標値であった。学際的・地域的研究、また他の研究機関や地域の人びととともに調査研究した成果を活かして、C展示室、水族展示室の展示リニューアルを行う予定である。また、外部資金による研究代表者・研究分担者研究事業についても目標値を達成した。科学研究費などの外部資金の獲得を組織的に取り組んでおり、今年度科学研究費については、新規に5件が採択され継続もあわせると14件が採択されている。この件数は都道府県市町村立博物館の中で第一位である。今後も科研費申請は研究を本務とする学芸職員の義務という位置づけは継続していくとともに、新規の採択率をあげていく必要がある。

研究の発信は、学術論文24件、専門分野の著述33件、一般向けの著述20件、学会発表は48件であった。研究成果の発信数は論文数において昨年度の数字を下回った。次年度は、開館以来蓄積した琵琶湖博物館ならではの学際的・地域的研究、また他の研究機関や地域の人びととともに調査研究した成果を活かして、C展示室、水族展示室の展示リニューアルを行うことが大きな目標となる。中日新聞連載コラム「湖岸より」などへの執筆を続けているが、今後も、研究の成果をわかりやすく一般の方に伝えることを継続するとともに、その充実を図っていきたい。

また、本年度は昨年度の新琵琶湖学セミナーに続き、新琵琶湖学セミナー「いざリニューアルへ！」と題したやや専門的な一般向けの講座を開催した。今回のセミナーでは、C展示のリニューアルに関わるこれまでの博物館の研究をそれぞれの専門分野の第一線、最新の成果を交えて講義を行った。1月、2月、3月の3回に渡って、内部・外部の講師による6本の発表を行った。合計166名の参加があり、好評であった。今後も、湖と人の関わりについて視点を変えて探求していくセミナーの開催が望まれる。

2 事業部

(1) 展示

第1期リニューアルは今年度から工事が実施され、水族展示は9月1日、C展示室は11月9日以降に閉室した。閉室後は、観覧できないことを知らずに来館する方も多く、大変残念そうであった。閉室している展示の人気の高さがうかがえた。次期以降のリニューアルが予定されているA展示室、B展示室、ディスカバリー・ルームでは、例年同様にトピック展示の開催や展示資料を交換するなどを行った。屋外展示でも、はしかけ事業の一環で樹木解説版の設置を行うなど、今後のリニューアルに向けた活動を行った。

第23回企画展示は、地層というあまり一般的に知られていないものを対象にしながらも、これまでの企画展示では2番目に多い7万人を超える方に観覧いただき、過去の琵琶湖や琵琶湖の成立といった内容に興味を持っていただくことができた。水族企画展示は水族展示がリニューアル工事に入るまでの夏休み期間に行い、6万人を超える方に観覧いただいた。企画展示とリンクした内容で行われたこの展示は、企画展示室では見ることができない、生きた固有種の魚を展示することで、琵琶湖の不思議さを伝えることができた。また、地域の方や他の博物館等の協力を得て行うギャラリー展示やトピック展示を実施することで、展示によるこの地域の面白さを伝えることができた。

集う・使う・創る新空間では、12件の利用があり、展示室での他来館者との交流も実施され、地域の方が自ら行う展示や交流の重要性や必要性が伺える。これらの事業の経験は、A展示室の地域の人々による展示

コーナーや、リニューアル後のC展示室での展示にも活かされる。

(2) 資料の整備・活用

2015年度には新規の大口資料受入や大口寄贈資料の整理結果公開は無かったが、企画展で展示した魚たちの電子図鑑も新規の追加公開が進むなど、地道な資料整備活動が着実に進行している。また、漁労用具コレクションの国登録や国指定に向けた具体的な動きが始まっている。未整理や未公開の状態にある資料はまだ多く、地道な活動をさらに着実に進行させていくことが今後の課題である。

一方、資料収蔵設備の経年劣化による収蔵環境の悪化は相変わらず深刻である。2013年度の「資料収蔵環境改善プロジェクト」で取りまとめた資料収蔵環境の調査・情報共有・対策の検討・改善提案を参考に、総務課の施設整備業務とも連携して可能な範囲での対策を試みている。例えば、温湿度の設定について、水漏れなどの深刻な異常の徴候を早期に見出して対応できるようにするためのマニュアル整備を試みたり、センサーの較正を定期的実施して不正確な測定値に基づく無駄な調整が起これないように対策したり、あるいは設定温度を外気温の変動に適切に連動させることによって最小限のエネルギーで適切な温湿度を実現することを試みたりしている。その成果であるとは断定できないが、2015年度に深刻な問題が発生しなかったことは事実である。

2016年度の展示リニューアルで水族の独立した空調系統を新規設置する予定である。これは収蔵庫空調の稼働状況に余裕を持たせることで長寿命化を図ることも目的の1つである。これが目論見通りの効果を挙げることを期待したい。

(3) 交流・サービス活動

2015年度の観察会・見学会ではリニューアルを考慮に入れ、博物館館内、屋外展示、烏丸半島など博物館周辺を重点地域として実施した。また、各地域で実施した観察会8件すべてで他団体と共同で実施した。

学校連携事業では学校行事で来館する児童生徒数は昨年度に比べて11,971人減少し、学校数では184校が減少した。体験学習を利用した児童生徒数は昨年度に比べて696人減少し、学校数では24校が減少した。サテライト博物館は終了し、移動博物館に統合した。

「フィールドレポーター」制度では、「タンポポ調査」、「セイタカアワダチソウを調べよう」を実施した。登録者数は204名であった。

「はしかけ」制度については、昨年の「はしかけミーティング」をひきつぎ、「はしかフェ」を年間通じて実施した。はしかけグループとして「淡海スケッチの会」、「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」、「森人」が新たに結成された。

3 総務部

(1) 来館者の状況

2015年度は、リニューアル工事により、9月から水族展示が11月からC展示が閉室となったが、企画展示「琵琶湖誕生」(7月18日～11月23日)、「びわ博フェス」(7月4、5日)など、来館者の確保に取り組み、7～8月の来館者が過去3番目となる14万人を超える(144,014人)など、年間比較では前年度95.2%(△17,272人)の34万1,599人に留まることができた。

(2) 来館者サービスの向上

こうした状況に対応するため、現在進めている「琵琶湖博物館リニューアル計画」では、2020年度までにかけて新たな展示を加えるなど展示交流空間の再構築を行い、新しい博物館の創造を目指している。

また、これに併せて、リニューアルサポーター制度やメンバーシップ制度、水槽サポーター制度を創設し、企業・団体をはじめ一般の方からも新しい琵琶湖博物館の創造に向けて支援を図ることとしており、多く参

加が得られるよう積極的に働きかけていきたい。

加えて、一般来館者を対象として「倶楽部LBM」制度を立ち上げた。これは、これまでの年間観覧券の半額の入会料金で、年間観覧券とともに無料招待券の進呈などさまざまな特典を付与することとしており、今後のファン層拡大に向けた起爆剤となる制度として新たに組み込んでいきたい。

(3) 広報戦略

当館は設立 20 周年を迎える 2016 年 7 月に第 1 期リニューアルオープンすることとしているが、当館に対する県外での認知度を高めるとともに、リニューアルに関する情報発信も積極的に行っていく必要がある。

リニューアルオープンの前後の期間にターゲットを定めて、リニューアルの見どころなどを的確かつ魅力的に周知し、来館につながる広報活動を集中的に展開することとし、こうした広報業務を専門的な知識や豊富な実践経験を持つ民間業者に委託した。

業務委託にあたっては、「リニューアルを行う 2016 年度には 42 万人を目指すものであること」「訴求するターゲットは、京阪神地域（淀川流域）に居住する未就学児や小学生がいる家族とすること」とした公募型プロポーザルを実施した。本年度はリニューアル広報戦略の作成、広報資材の作成および活動展開の準備を行うこととし、リニューアルを行う 2016 年度にはパブリシティ活動を中心とする広報活動を展開することとした。

(4) 施設整備

県情報政策課の行う県立施設無料 Wi-Fi 整備事業により、館内に 4 箇所のアクセスポイントを設置した。博物館利用者の利便性、特に、今後利用増加が見込まれる外国人観光客への利便性の向上や利用機会の拡大につながることを期待される。

(5) 国際提携

2015 年 3 月 13 日、駐日マケドニア共和国大使が琵琶湖博物館に来館され、当館の館長および両副館長と話し合いを行う中で、マケドニア共和国内にあるヨーロッパ最古の古代湖であるオフリド湖 (Lake Ohrid) と、古代湖つながりで琵琶湖との研究交流をすることが話題として挙げられた。それを受け、2015 年度は、マケドニア共和国のオフリド湖に立地する水生生物学研究所との協力協定に向けて、各種関係機関（マケドニア外務省等）との情報交換や協議を行った。

(6) 新琵琶湖博物館創造

琵琶湖博物館は、「湖と人間」の新しい共存関係を築くことを目的に 1996 年に開館した。以来、環境学習の拠点として、展示・交流活動を通じて、琵琶湖の価値を再発見し、琵琶湖や地域に関心をもつ人づくり・地域づくりに努め、着実に成果をあげてきた。

この間、新たな環境課題が顕在化し、また、暮らしと環境に対する県民の考え方が多様化し、地域での取り組みも活発化している。しかしながら当館で進展した調査・研究、蓄積した知見、収集された多くの資料や標本を伝える大規模な展示更新が行われていない。

県政の課題や高度化・複雑化した情報をわかりやすく知りたい、体験・交流の機会を求める県民のニーズに応え、琵琶湖博物館が拠点施設として次の時代に向けて「湖と人間」のこれからのかわり合いを問い続けていくために、展示と交流の情報発信力を高めるとともに、次世代を担う人材を育成する交流機能を充実させる必要がある。

こうしたことから、2012 年度に新琵琶湖博物館創造準備室を立ち上げ、2013 年 3 月にリニューアルの方向性を示す「新琵琶湖博物館創造ビジョン」を、2014 年 3 月に「新琵琶湖博物館創造基本計画」を策定した。今後、リニューアルを段階的に実施することとし、第 1 期リニューアルとして、開館 20 周年にあたる 2016

年を目途に、C 展示室と水族展示のリニューアルを実施することとなった。

2014 年度に、基本計画に基づき第 1 期リニューアルの実施設計を行い、それに基づき 2015 年度に、体験的な展示を多く取り入れて琵琶湖の魅力の発信力を強化し、参加と発見、対話と交流を促し、次代を担う人が育つ交流拠点としての展示・交流空間の再構築を目指し、2016 年夏の第 1 期リニューアルオープンに向けて展示および建設工事に着手し、計画的な進捗が図れた。

琵琶湖博物館 年報 20号

2015年度

平成28年(2016年)9月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091番地

電話 077-568-4811